中央コーポレーション
創立50周年記念誌

50th

中央コーポレーション
創立50周年記念誌

50th

中央製作所時代の社是「和を以て貴しと為す」

株式会社中央コーポレーション

経営理念

顧客第一主義、鋼と建設の高度な技術で社会に貢献します

基本方針

① 顧客の生涯の最大化を目指します

② 社員及び関係者の物心両面の幸福を目指します

③ グループ企業の永続的発展を目指します

目 次
CONTENTS

ごあいさつ

株式会社中央コーポレーション 代表取締役　佐々木 史昭 …… 1

祝辞

岩手県知事　達増 拓也様 …… 3

花巻市長　上田 東一様 …… 4

花巻商工会議所 会頭　宮澤 啓祐様 …… 5

岩手県鉄構工業協同組合 理事長　小山田 周右様 …… 6

東日本旅客鉄道株式会社 執行役員 構造技術センター所長　野澤 伸一郎様 …… 7

株式会社横河住金ブリッジ 代表取締役社長　小山 清一様 …… 8

第 1 章　～源流～ 花巻城御用大工の流れを組む高常組製作所
（明治、大正期～昭和13年）

花巻城の御用大工 …… 9

高常組製作所 …… 9

函館での起業 …… 11

第 2 章　～前史～ 有限会社花巻鉄工所（昭和15年～昭和24年）

伊藤進康氏、元社員 伊藤進氏、及川健氏、佐々木邦夫氏に聴く
～花巻第一の会社でした～ …… 12

第 3 章　中央製作所 I（相生町）初代社長／高橋 吉助（昭和26年～昭和40年）

元社員 伊藤昌六氏、阿部正夫氏、滝田矢子氏、伊藤銑一氏に聴く
～やりがいのある会社でした～ …… 17

元花巻市助役 戸来諭氏に聴く ～先見の明ある措置でした～ …… 23

第 4 章　中央製作所 II（宮野目）第二代社長／佐々木 郁夫（昭和41年～昭和60年）

元社員 畠山由二氏、藤井千三氏、現社員 西塚保氏に聴く ～発展につぐ発展でした～ …… 25

元常務 岩崎安男氏、中央石油常務 高橋安英氏に聴く ～時代の先を読む経営～ …… 32

前花巻地区鉄構工業会会長 菊池章氏 ～花巻鉄工業協同組合のこと～ …… 38

第 5 章　中央製作所 III（昭和61年～平成14年）

菅原博常務に聴く ～新たな幕開け、地道な発展～ …… 41

第 6 章　中央コーポレーション 第三代社長／佐々木 史昭（平成15年～現在）

合併 …… 47

大幅赤字を経験 …… 47
いわゆる91社問題による排除勧告 …… 48
人事刷新と社員の増加 …… 49
徐々に黒字体質へ …… 50
積極的な設備投資 …… 51
東日本大震災 …… 53
災害復旧・復興工事 …… 54
人を活かす経営 …… 56
新技術への取り組み …… 58
終わりに …… 59

Archive Ⅰ

【講演録】初代社長高橋吉助の講演より（昭和58年1月23日） …… 60

Archive Ⅱ

【講演録】第二代社長佐々木郁夫の講演より（昭和55年10月4日） …… 63

Archive Ⅲ

【2015年正月年頭の辞】第三代社長佐々木史昭（平成27年1月5日） …… 64

資料

1. 50周年記念行事
〈1〉50周年記念「社章」制作 …… 71
〈2〉岩手県立花巻北高等学校桜雲同窓会へ100万円寄付 …… 72
〈3〉50周年記念「工場リフレッシュ計画」 …… 73
〈4〉創立記念日橋梁点検清掃ボランティア …… 74
〈5〉50周年記念社員旅行 …… 78
2. 主な工事実績 …… 79
3. NETIS技術 …… 95
4. 資格者一覧 …… 100
5. 会社年表及び沿革 …… 101
6. 中央コーポレーション合併後の年表 …… 105
7. 組織図 …… 106
8. 役員在任期間一覧 …… 107
9. 経営状況推移 …… 109
10. 表彰状・感謝状一覧 …… 112
11. 役員 …… 117
12. 集合写真 …… 118
13. 部署写真 …… 119
14. 社内安全ポスター＆標語コンテスト …… 124
15. 社内ゴルフコンペ結果一覧 …… 127

編集後記（記念祝賀会の紹介も含めて） …… 128

ごあいさつ

株式会社中央コーポレーション
代表取締役　佐々木 史昭

株式会社創立 50年、
鉄工業創業 75年、
建設業に携わって 150年。

株式会社中央コーポレーションは、創業者の高橋吉助が個人営業していた中央製作所を昭和 40 年（1975 年）10 月 4 日に株式会社化し、今年で 50 年を迎えることとなりました。

これも長年にわたる諸先輩方、お客様方、関係各位みなさまのご尽力の賜であり、会社を代表致しまして、心から敬意と感謝を申し上げます。

昭和 40 年以前の歴史があることも承知しておりましたが、なかなか調べることもなく、法務局で法人登記の確認ができる昭和 40 年 10 月 4 日を創立日として、毎年創立記念事業を行って参りました。

しかし 50 年は節目でもあり、創立 50 周年記念誌を編纂しようと当社の歴史を遡ってみますと、創業者高橋吉助が昭和 58 年 1 月 23 日から数回、花巻鉄工会主催で講演会を行ったときの肉声テープが見つかり、高橋吉助の祖父まで遡る当社のルーツが分かって参りました。創業者高橋吉助の祖父は江戸時代末期花巻城の御用大工の立場にあり、100 人扶持でお城の普請を担当し、明治 5 年に花巻城が廃城になるまで携わっていたようであります。

また、吉助の父高橋常吉は、明治中期～大正～昭和初期に高常組製作所と称し水車大工として名高く、花巻のみならず、北上、水沢、気仙沼、盛岡まで知られていたという記録もあります。

昭和 13 年に高橋常吉が没した後、昭和15年に長男高橋幸助、四男高橋吉助、五男高橋泰助が有限会社花巻鉄工所を創業し、主に農機具製造等を行い、戦時最盛期には従業員150名を超えていたとのことです。当時日本製鐵株式会社釜石製鉄所の協力会社となり、釜石製鉄所が艦砲射撃を受けて操業停止となった際に、国鉄花巻駅操車場の脇にあった当社工場において約 2000t の平鋼、丸鋼、形鋼を預かっていたようです。終戦後は時代の荒波に翻弄され、激しい労働争議に耐えきれず、昭和24年に事業閉鎖。その後、高橋吉助が昭和 26 年に中央製作所として建築業、機械業、鉄構業を再開し、昭和 40 年に法人化したのが中央製作所の創立であります。

法人化後は、昭和 42 年に現在の花巻市宮野目に工場を移転、昭和 48 年に石油油脂販売業に進出、昭和 50 年に第二代社長に佐々木郁夫が就任し、鉄構業、建築業、石油油脂販売業をそれぞれ、株式会社中央製作所、中央建設工業株式会社、有限会社中央石油に分社化し、各社の経営を安定軌道に乗せました。

その後、平成 14 年に第三代社長に佐々木史昭が就任し、翌平成 15 年 5 月 15 日に中央製作所と中央建設工業を合併して、中央コーポレーションとして再スタートを切り、現在に至っております。

今年は会社組織になって 50 年が経過して 2015 年ですが、源流は江戸末期の 1865 年頃に遡ることができ、建設業に携わって 150 年という言い方も出来ると思います。また、昭和 15 年の鉄工業の創業から 75 年と言うことも出来ると思います。

また今年は、日本近代製鉄の父と言われる南部藩士大島高任が釜石橋野の地で洋式高炉を立ち上げ、良質な銑鉄の出銑に成功した 1857 年に始まる明治日本の産業革命が世界文化遺産に登録された記念すべき年であり、株式会社中央コーポレーションが創立 50 年を迎え、当社の歴史を振り替える契機となったことには大きなご縁を感じます。

数多くの方のご協力を頂き、株式会社中央コーポレーション創立 50 周年記念誌が無事刊行することができたことに心から御礼を申し上げますとともに、これからも弊社に末長いご指導ご鞭撻を賜りますことをお願い申し上げ、記念誌発刊にあたってのごあいさつとさせていただきます。

平成27年10月4日

ご祝辞

岩手県知事
達増 拓也 様

このたび、株式会社中央コーポレーションが記念すべき創立 50 周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

貴社は、昭和 26 年に中央製作所として創業、昭和 40 年に株式会社中央製作所として法人化された後、昭和 42 年には現在の花巻市宮野目に本社を移転、工場を新設され、鉄構事業の基礎を固められました。

平成 15 年 5 月には新しい時代のニーズに応える体制を整えられ、株式会社中央コーポレーションに商号変更されました。“顧客第一主義”「鋼と建設の高度な技術で社会に貢献します」を経営理念に掲げ、顧客・社員及び関係者・グループ企業がバランスよく満足できる経営を目指すことを基本方針として、地域に貢献する企業として、また、県内の鉄構業界の中心的企業としての歩みを進められております。

建設・建築用金属製品を製造する鉄構業界は、建築物や橋梁などの建設関連分野を担う基盤的な産業として、我が国の経済において重要な地位を占めており、貴社におかれましても経済社会の環境の変化に対応しながら、たゆまぬ努力により業界の経済的地位、社会的地位の向上に寄与してこられました。

さて、本県に甚大な被害をもたらした平成 23 年 3 月の東日本大震災津波から、4 年 7 か月余りが経過いたしました。本県では、平成 23 年 8 月に策定した「復興基本計画」に基づき、「安全の確保」「暮らしの再生」「なりわいの再生」の実現に向け、関係各位の御協力のもと、被災地の一日でも早い復旧・復興への取組を進めてまいりました。

本年は、岩手県の復興計画期間 8 年間の折り返しの年であることから、本県では「本格復興邁進年」と位置付け、本格復興を力強く推し進めていくこととしており、被災地の一日でも早い復旧・復興を強力に推し進めていくためには、これまでにも増して適正な品質を備えた鋼構造物の安定的な製造と施工が求められております。

また、震災復興需要の増加に加え、2020 年のオリンピック・パラリンピックの東京開催の決定や耐震補強工事の増加などへの対応など、技術の高度化に対する要請も高まっており、建設関連分野での基盤的な産業として、貴社の担う役割に対する期待は、一層大きくなっていくものと考えております。

記念すべき創立 50 周年を契機として、これまで以上に関係する皆様が一丸となって、その英知と活力を結集され、適正な品質を備えた製品の安定的供給をはじめとした社会的使命の達成に向け、さらなる発展を遂げられますよう御期待申し上げます。

結びに、株式会社中央コーポレーションの御発展と、御参会の皆様の御健勝を心からお祈り申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

ご祝辞

花巻市長
上田 東一 様

創立50周年を迎えられますことを心からお祝い申し上げます。

前身の株式会社中央製作所が昭和40年に設立以来、長年にわたって当市の地域産業の発展に寄与されてこられました歴代の社長をはじめ社員の皆様方に、衷心より敬意を表するとともに、お喜びを申し上げます。

御社は、鉄構事業として、橋梁・水門・陸閘・鋼コンクリート合成床板・携帯電話向け無線鉄塔等の設計、製作、架設据付、メンテナンスサービスなどを国や地方公共団体はもとより、JR東日本、NEXCO東日本、鉄鋼メーカーなど県内外への幅広い供給とともに、建築事業として、岩手中部地域における公共・民間の建築一式工事、システム建築、各種店舗のほか、クオリティホームとして、超省エネの高断熱住宅を提供されるなど、多岐にわたる事業経営には、目を見張るものがあります。

一方、昭和40年代から継続している国道4号沿線の環境美化活動により、国土交通大臣や地元である宮野目コミュニティ会議から表彰されるなど多数の表彰実績があり、また、平成23年3月に発生した東日本大震災以降、沿岸地域の復旧復興工事を積極的に受注され、震災復興の一翼を担っておられるなど、地域社会の一員としての様々な社会貢献活動は、市内企業の模範となっております。

花巻市発注の工事においては、太田橋や似内橋の上部工製作架設工事、天遊橋の上部工製作工事、朝日橋橋梁補修工事等の橋梁工事や総合体育館増築工事、石鳥谷消防分署庁舎新築工事等の建築工事ほか多くの工事を手掛けられ、当市のインフラ整備に多大なる貢献をいただいております。

また、佐々木史昭社長には、私自身、花巻商工会議所地域開発委員会において、一緒に活動させていただいて以来、色々お世話になっております。佐々木社長は、花巻市における若手経営者のリーダーの一人として活躍いただいておりますが、特に花巻国際交流協会理事長として、花巻市の姉妹都市、友好都市との交流に多大なご貢献をいただいていることを高く評価するとともに、感謝している次第です。

結びに、株式会社中央コーポレーションと関係者の皆様のますますのご隆盛を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

ご祝辞

花巻商工会議所
会頭
宮澤 啓祐 様

株式会社中央コーポレーション様が創立 50 周年という大きな節目を迎えられ、本日ここに記念式典が盛大に挙行されますことに対し、心からお祝いを申し上げます。

ご案内のとおり、御社におかれましては、創業者であります高橋吉助様が戦前から鉄工業を経営され中央製作所の基礎を築かれ、昭和 40 年 10 月に株式会社中央製作所として法人化されて以来、半世紀にわたり地元の有力企業として歩まれ、今日、鉄構事業・建築事業に特化する企業として発展されており、衷心より敬意を表します。

この間、二代目社長の佐々木郁夫様は、昭和 50 年に建築部門と油脂販売部門を分社化し、時代の先を読む経営に徹し、社業拡大に労を尽くされました。また、平成 14 年には、現社長の佐々木史昭様が社長に就任され、社業の拡大はもとより、当会議所活動に参画をいただいております。

御社の事業の中で、手掛けてこられた数多くの橋梁工事は、規模が大きく、美しく、技術に裏打ちされた力強さがあり、希少価値としての技術力の高さを窺わせます。

また、水門、鋼構造物、塔、建築事業と扱う業種も広範であり、御社には、お客様の要請を構造物・施設として的確に形に現し、完成させる力と魅力があるように思います。

この 50 年間には、日本の高度経済成長期も含まれており、道路・橋梁・鉄道ほか、インフラ整備は時代とともに規模が大型化し、高い技術力が要求されるようになりましたが、御社におきましては、いち早く、社員の技術研鑽に力を注ぎ、時代を先取りしての対応がなされたと伺っており、御社には、100 年以上にも及ぶ創立前の先代の技術研鑽や事業に対する姿勢が、今日も息づいている証であろうと存じております。

さて、佐々木史昭社長様におかれましては、当会議所の 2 号議員・常議員、そして地域開発委員会副委員長として、会議所事業に積極的にご活躍いただき感謝をいたしております。

また、現在は、花巻地区鉄構工業会会長として業界の発展に尽力されておりますほか、花巻国際交流協会理事長、今年度の花巻ロータリークラブ会長に就任されており、多忙を極める方でありますが、持ち前のバイタリティ、リーダーシップで、関係団体のトップとして役割を果たしておられ、関係の皆様に大きな期待があると存じております。

日本経済は、大手企業等に一部景気改善がみられるとの見方がありますが、地元経済は、当会議所景況判断を見ましても、改善までは至っていな状況にあります。当会議所といたしましては、中小企業の経営力強化と地域力向上のための活動強化を基本に、国・行政への建議、相談指導・研修会開催・金融あっせん、各種イベント開催など、引き続き、諸施策に取り組んで参る所存でありますので、御社のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

結びに、御社のますますのご発展と、本日ご参集の皆様方の今後ますますのご活躍を祈念いたしましてお祝いの言葉とさせていただきます。

ご祝辞

岩手県鉄構工業協同組合
理事長
小山田 周右 様

このたび、株式会社中央コーポレーションが創立50周年という記念すべき年を迎えられましたことは誠に喜ばしく、心よりお祝いを申し上げます。

貴社は昭和26年に創業、昭和40年に株式会社中央製作所として法人化され、以来今日まで弛まぬ技術の研鑽に取組みながら、県民の暮らしを守る橋梁・水門等の優れた各種鋼構造物の製作に取り組まれてきたことに深く敬意を表します。また、先代社長の佐々木郁夫様には当組合第2代理事長として業界の健全な発展にご尽力を賜りますとともに、佐々木史昭代表取締役には、現在組合の副理事長として組合事業の円滑な推進に多大なるご支援ご協力をいただいております。この場をお借りして深く感謝申し上げます。

遡れば江戸時代末期の花巻城御用大工に端を発する貴社のものづくり精神は、21世紀を迎えた今も連綿と受け継がれ、社員皆様の様々な資格の積極的な取得は言うに及ばず、国土交通大臣や岩手県知事、花巻市長の他元請各社からの数々の表彰や顕彰に表れております。

特にも近年では、次代を担う若手社員の技能向上の取組みを積極的に推進され、平成23年5月には岩手県知事より「若手技能者育成に積極的な企業20選」に選定された他、平成25年以降3年連続で全国溶接技術競技会に選手を輩出するなど、着実にその成果が上がっており、当組合員企業の優れた見本となっております。

更に、貴社は地域との連携を重視され、水路整備のアドプト協定締結や創立記念日の橋梁清掃ボランティア活動、花巻まつり神輿パレードへの参加など地域に根差した活動にも積極的に取り組まれております。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波では、即日社内災害対策本部を設置し、内陸部の被害調査を行うとともに、沿岸地域の水門・陸閘等数百ヶ所の被害調査・応急復旧に取り組まれたことは、これまでの地域貢献活動で醸成された貴社の「地域への想い」が結実した姿だったのではないかと感じております。

また、JR八戸線は発災から1年で全線復旧致しましたが、同線の鉄道橋復旧工事では、非常に高い難易度の工事に対してこれまで積み上げた技術と実績を如何なく発揮され無事完工に至り、沿線被災地域の復興に極めて大きな役割を果たされたことは、現在でも県内外より高く評価されております。

震災発生から4年8ヵ月が経過しようとしておりますが、資機材や各種技能者・技術者の不足等による様々な「遅れ」の影響により、被災地域の復興は道半ばであり、我々鉄構業界を取巻く環境も、大手企業の参入や県外企業による安値受注の影響等により、決して楽観できる状況にはありません。そのような中であればこそ、今後も共に手を携え県民の安心安全な暮らしの基礎となる確かな品質の鋼構造物の提供に努めて参りたいと考えております。

最後となりましたが、佐々木史昭代表取締役以下社員の皆様、これまで貴社を支えてこられた皆様の今後益々のご健勝とご活躍、株式会社中央コーポレーションの新たな歴史へ向けた更なる飛躍をお祈り申し上げ、お祝いの言葉と致します。

これまでの50年をこれからの50年に

東日本旅客鉄道株式会社
執行役員 構造技術センター所長
野澤 伸一郎 様

株式会社中央コーポレーション様、創立 50 周年まことにおめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

列車荷重が繰り返しかかる鉄道橋の桁は、お客様の安全を考えて特別な品質管理を実施しているため製作には手間がかかりますが、株式会社中央コーポレーション様には国鉄時代から製作していただいています。特に 2000 年頃からは、列車を通常通り走らせながら線路の下に道路や河川を構築するための工事で使用するエレメントの製作を、お願いするようになりました。このエレメントは断面が 1m 四角程度、長さは 3m の部材で、次々に連結しながら地中に挿入して、最後は橋梁を構築するためのものです。そのため列車荷重を受けても疲労しないように高度な溶接技術が必要になります。現在、このエレメントを製作できる会社は全国でわずか 4 社しかありません。

2011 年東北地方太平洋沖地震では、津波により流された八戸線大浜川橋梁の鉄桁を再利用するためにご尽力いただきました。大浜川橋梁は宿戸～陸中中野間に位置し、支間 9.75m の鉄桁が 4 連架かり、1925 年から使用されていました。津波により 4 連とも上流に流され、特に起点から 2 連目の桁は面外変形が大きい状況でした。また、海岸沿いに 85 年以上設置されていたため、一部の部材は腐食が進んでいました。八戸線の早期復旧に対しては大浜川橋梁の復旧がネックになっていたため、現地を預かる弊社盛岡支社や盛岡土木技術センターと打合せしながら、鉄桁は補修して再利用することにしました。これまで、鉄道橋梁において洪水で流された桁を再利用した例や、自動車がぶつかって変形した桁を補修したことはありましたが、津波で流された桁を再利用した実績はありませんでした。亀裂など致命的な変状がなかったこと、SL に比べると現在の列車が軽量化されていることなどが、再利用を決断する決め手になりました。残された課題は、丁寧な補修ができる技術力でした。

この復旧工事はユニオン建設株式会社様に、桁の補修は株式会社中央コーポレーション様にお願いすることになりました。7 月に桁を花巻の工場に搬入すると、図面作成、材料手配、補修細部の提案を弊社で考えていたより迅速に対応していただきました。大きな変状は加熱矯正で新設桁と同様の規格値に戻すことになりましたが、温度チョークを用いた厳正な温度管理を実施して、新設と見間違えるほどきれいな桁に仕上がりました。2 連目の一部取り換えた部分の接合部も、ディテールを配慮して丁寧に組み立てられました。海水につかった桁は入念なブラストにより塩分が除去され、塩分測定後、塗装されました。約 3 か月で桁の補修が終了したおかげで、被災から 1 年後の 3 月に八戸線は全線開通させることができました。花巻の地で技術のある会社が震災復旧に全力で取り組んでいただいた結果は、東北地方だけでなく、日本全体に復興の勇気を与えてくれた、と思っています。

創立 100 周年に向けて、積み重ねた技術と信用を大切にして次の 50 年を切り開き、益々のご発展を祈念しております。

ご祝辞

株式会社横河住金ブリッジ
代表取締役社長
小山 清一 様

創立50周年、誠におめでとうございます。中央コーポレーション様には、私どもの会社の出身母体であります旧住友金属工業株式会社（現新日鐵住金株式会社、以下住友金属と略）時代から大変お世話になっております。これまでのご厚情に感謝致しますとともに、この良き日を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

佐々木史昭社長は、事業環境が最も厳しい時期に社長に就任され大変苦労をされましたが、数々の経営改革を断行され今日の会社の繁栄を築いてこられました。鋭い経営感覚、果敢なチャレンジ精神と行動力にはますます磨きがかかっておりますので、新たな次の目標に向かってこれからも会社を引っ張っていかれることと思います。私どもも御社のお役に立てますよう引き続き努力して参りたいと考えております。

佐々木社長の経営手腕は、実は若き日の住友金属ご勤務時代にも大いに発揮されています。佐々木社長は昭和61年に東北大学工学部をご卒業され同年住友金属にご入社されました。ご配属先は建設エンジニアリング事業部、まさに私どもの会社のルーツの事業部でございます。住友金属が橋梁事業に進出しようとしていた時期で、新人佐々木史昭氏は、このできたての事業部で橋梁の設計から橋梁工場の管理までを担当され、8年の間に数多くの素晴らしい業績を残されました。当社はこの事業部を母体に6年前分社化・設立した会社でございます。佐々木社長のご尽力がなければ現在の当社は存在していないかも知れません。ご一緒した同僚、後輩達は現在も当社で活躍しておりまして、当時のご指導に感謝している次第です。

一方、当時の住友金属が唯一佐々木社長のご恩に報いたことがございます。それは、最愛の奥様、啓子様とのご縁です。啓子様は昭和56年に現在の総理大臣安倍首相も学ばれた東京の名門成蹊大学をご卒業され、同じく住友金属にご入社されました。お二人の出会いは会社の硬式テニス部と伺っておりますものの、販売総括部という本社の中枢部署でご活躍されていた才媛啓子様をどのようにして射止められたかはなぞのままとして、平成元年に目出度くご結婚され、平成6年ご夫妻でこの花巻の地に戻って来られました。今日の中央コーポレーション様のご繁栄は社長をはじめ、役員、従業員の皆さま方の日頃のご努力の賜物と存じますが、啓子様の支えは佐々木社長の大きな力になっていたことは間違いないと思っています。

現在は二人の美しいお嬢様に恵まれ、充実した日々を過ごしておられることと思いますが、次の100年に向けてそろそろ後継者のご準備も必要な時期になってきているかと拝察しております。お二人のお嬢様にも期待しつつ、中央コーポレーション様のこれからのますますのご発展を祈念致しまして、私のご挨拶とさせて頂きます。

第1章 ～源流～ 花巻城御用大工の流れを組む高常組製作所

明治、大正期～昭和13年

高橋吉助の祖父の肖像画

花巻城の御用大工

創業者高橋吉助の祖父は江戸末期に花巻の大沢で生まれ、鬼柳で大工奉公を合計 13 年行った後花巻で独立、最後は花巻城の御用大工の棟梁となり、当時 100 人扶持を頂戴したといいます。100 人扶持というのは、城の普請のために必要な左官屋、屋根屋、石屋などの専門職人を 100 人程度常に動員できる状況においておくことであり、明治 5 年（1973 年）の廃藩まで務めていました。明治 5 年に花巻城が廃城となった際、お城の解体を行い、その資材を花巻の業者に払い下げを行ったそうです。明治 5 年には三番目の次男として常吉が生まれています。

（高橋吉助の父）高橋常吉の写真

高常組製作所

花巻地方には、江戸末期から明治期にかけて、東北随一の宮大工としてあがめられていた名工 2 代目高橋勘次郎がおり、花巻市松庵寺境内に建立されている高橋勘次郎翁寿碑には東北各地の棟梁の名前が刻まれています。高橋常吉はこの愛弟子であり、師匠勘次郎ゆずりの腕の立つ大工でありました。しかし彼は派手な宮大工の道を選ばず、北上盆地を支える農民の力となって生きる水車大工を選びました。彫刻も巧みで、常吉自作の墨壺など芸術性の高い作品が遺されています。当時、動力といえば牛馬と水力利用が主であり、農民は水車を切り離しての生活は考えられず、水車は灌漑用にもたくさん使用されていました。水車を造るには高度な幾何学的技術が必要でしたので、優秀な水車大工は限られており、高常（たかつね）さんと言われていた高常組製作所の名声は花巻、北上、水沢はもとより、気仙沼そして盛岡まで知られていたと言われています。高橋常吉は昭和 13 年 3 月 3 日、66 歳で亡くなり、事業は長男幸助が受け継ぎました。

松庵寺にある高橋勘次郎の碑

宮沢賢治が大正 12 年（1924 年）3 月 30 日に記した「塩水撰・浸種」という詩の中で「高常水車の西側から　くるみのならんだ崖のした　地蔵堂の巨きな松まで」と高常水車は当時の花巻の風景の一部として詠われています。

高常組製作所外観

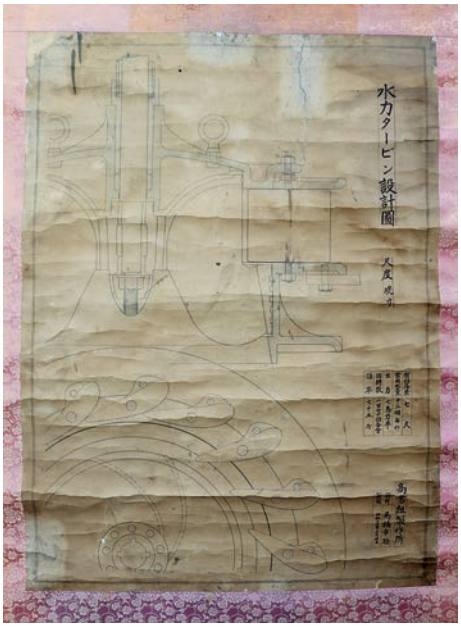
宮沢賢治作

*「**塩水撰・浸種**」*

一九二四、三、三〇、

塩水選が済んでもういちど水を張る
陸羽一三二号
これを最后に水を切れば
穎果の尖が赤褐色で
うるうるとして水にぬれ
一つぶづつが苔か何かの花のやう
かすかにりんごのにほひもする
笊に顔を寄せて見れば
もう水も切れ俵にうつす
日ざしのなかの一三二号
青ぞらに電線は伸び、
赤楊はあちこちガラスの巨きな籠を盛る、
山の尖りも氷の稜も
あんまり淡くけむってゐて
まるで光と香ばかりでできてるやう
湿田（ヒドロ）の方には
朝の氷の骸晶が
まだ融けないでのこってゐても
<u>高常水車の西側から</u>
<u>くるみのならんだ崖のした</u>
<u>地蔵堂の巨きな松まで</u>
乾田（カタタ）の雪はたいてい消えて
青いすずめのてっぽうも
空気といっしょにちらちら萌える
みちはやはらかな湯気をあげ
白い割木の束をつんで
次から次と町へ行く馬のあしなみはひかり
その一つの馬の列について来た黄いろな二ひきの犬は

「宮沢賢治と石神」の概念図（石神町記録より）



高常組製作所の水カタービン設計図（昭和13年）

大正11年水車営業価格表　籾米金四拾銭　他

尾をふさふさした大きなスナップ兄弟で
ここらの犬と
はげしく走って好意を交はす
今日を彼岸の了りの日

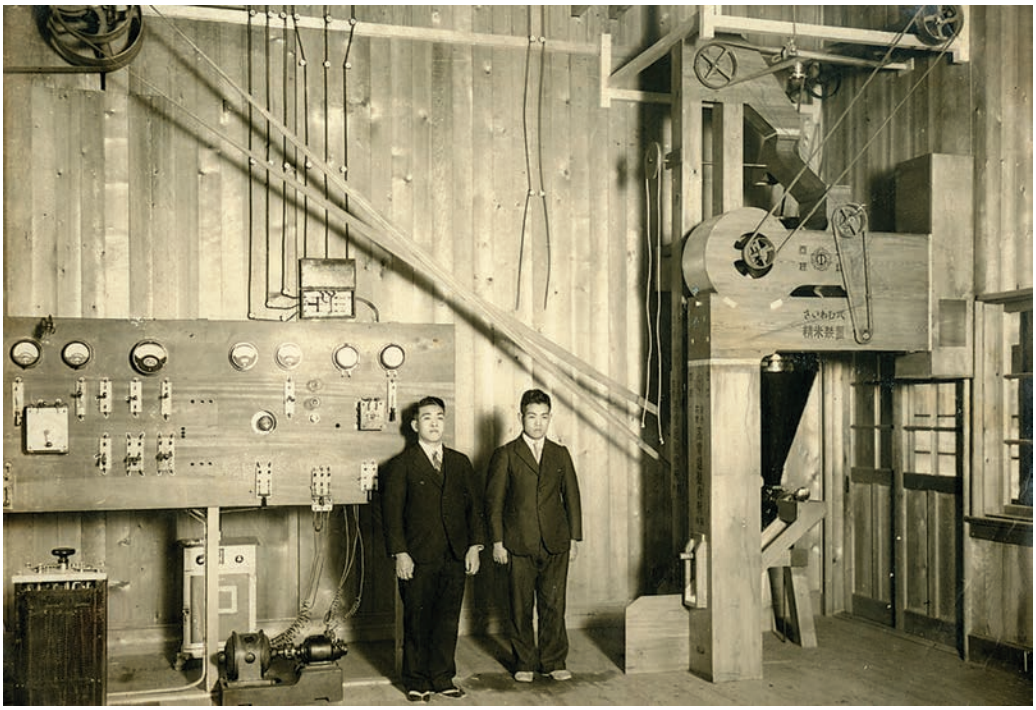
雪消の水に種籾をひたし
玉麩を買って羹をつくる
こゝらの古い風習である

（『宮沢賢治全集』より）

高橋吉助が函館で営んでいた幸製粉所（昭和8年～13年）

函館での起業

高橋吉助は、昭和８年～昭和 13 年まで一時高常組製作所を離れ、兄の三男直助が教鞭を執っていた函館に渡り、そこで事業を興しました。幸製粉所を営んだほか、大工と機械の知識をもとに木型屋を始め、一定の成功を収めたようです。さらに仕事を拡張しようとしましたが、自身が函館ではよそもので、地域の信用をなかなか得られずに資金調達もできず、かなり苦労したと述べています。昭和 13 年３月３日に父親の常吉が亡くなった後、即花巻に帰郷しました。



高常組製作所製さいわい式精米装置

第2章 ～前史～ 有限会社花巻鉄工所

昭和15年～昭和24年

伊藤進康氏、元社員 伊藤進氏、及川健氏、佐々木邦夫氏に聴く

～花巻第一の会社でした～

昭和 13 年に高橋常吉が亡くなると、長男幸助、四男吉助、五男泰助の三兄弟が昭和 15 年に有限会社花巻鉄工所を設立し、農業機械製造を主な営業品目とし、事業を拡大していきました。昭和 18 年には工場を 14 棟建て、日本製鐵株式会社釜石製鉄所の協力会社となり、150 名を超える従業員を雇用していました。終戦直前、釜石が米軍の艦砲射撃に合い、釜石製鉄所が操業停止となった際、花巻市相生町の国鉄線路脇にあった花巻鉄工所で預かっていた鋼材数量は 2000t に及んだとのことです。

当時、花巻鉄工所の傍にお住まいの伊藤進康さんと、従業員であった伊藤進さん、及川健さん、佐々木邦夫さんに当時の様子についてお話をお聞きしました。

伊藤進康氏

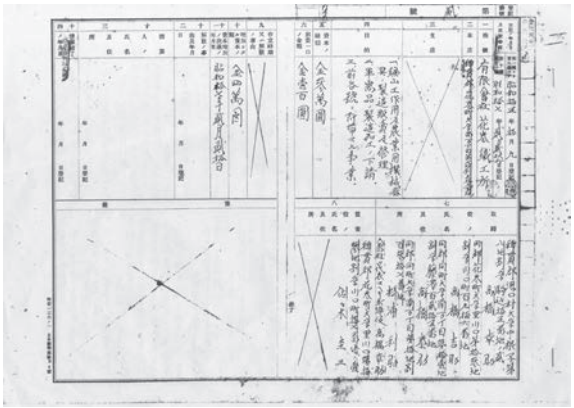
伊藤進氏

「花巻鉄工所」はどんな会社でしたか。

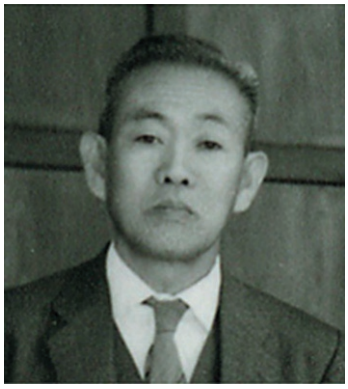
一言でいえば、戦後昭和 20 年に新興製作所が出来るまでは花巻第一の会社でした。従業員も 150 人程居りましたし、太平洋戦争の時代、兵隊に行かない人は皆ここで働きました。羽振りが良かったですよ。事務所、工場は花巻市相生町の国鉄線路脇にあり、材料や製品を運ぶのに大変便利でした。

どうしてそんなに羽振りが良かったのでしょうか。

ほら、当時は戦争をしていた時でしたから、会社は軍需工場の性格を帯びて需要が大きかったのです。何もない時代、倉庫には鉄鋼材としての銑鉄や石炭・コークスなどがいっぱいありましたよ。恐らく、県の鉄工連、あるいは県経済連を通して材料が運ばれていたのではないでしょうか。



花巻鉄工所登記簿謄本



長男 高橋幸助氏

四男 高橋吉助氏

五男 高橋泰助氏

花巻鉄工所建物機械評価表　合計4,957,620円

ところで、その会社はどなたが作られたのですか。

高橋幸助・吉助・泰助三人のご兄弟が昭和 15 年に作られた会社です。初代社長は幸助氏で、製造部長が吉助氏、営業部長が泰助氏でした。その後吉助氏が社長になられ会社を引き継がれました。

高橋幸助・吉助・泰助の三人のご兄弟は、明治中期花巻町にその人ありと知られた名棟梁“高常さん”こと、高橋常吉氏のお子様です。高常さんは高常組製作所を起こし、花巻市石神に工場兼事務所を建て、水車による精米加工や鉄工業を始められました。この工場、大正時代のモダンな建物は今も石神にあり、当時の面影を残しています（その後解体されました）。

この製作所の歴史で特筆すべきことがあります。社長高橋常吉こと、高常さんは水車大工としては近郷に右に出るものはないと言われ、気仙沼から盛岡まで広く知られた方でした。また、ご長男の幸助氏は大正時代まだ建設製図が不十分であった頃、通信教育で製図を学び新規矩法を創案し「建築規矩法」（11 部全 3 巻）を執筆され、建築実務関係者の大きな力となられた方です。そして、泰助氏はその後会社を離れ製菓販売店を開業し、あの銘菓「賢治最中」を考案販売された方です。

花巻鉄工所はどんな形で創業されたのですか。

ご長男の幸助様はお父様の常吉様と高常製作所で働いておられたようですが、昭和 13 年 3 月 3 日常吉様が突然亡くなられ、三人のご兄弟が製作所を引き継ぐことになられたとお聞きしました。特に、後に中心となられ花巻鉄工所を継がれる吉助様は、それ以前は函館に居られて木型木工製造のお仕事しておられたとも聞いております。こうして三人のご兄弟が製作所を引継ぎ協力し合い、木工製造から新たに農機具脱穀機や紡毛機の製造販売修理を行い、事業を拡大して行ったようです。

昭和 10 年代に入り戦時色が濃くなり、世の中の状況も変わりました。昔の花巻の大通りには国鉄の貨物倉庫や砂糖・塩倉庫、県信連の建物などがあり駅も近く、材料や製品の搬送に何かと便利な場所であったことから、国や県から

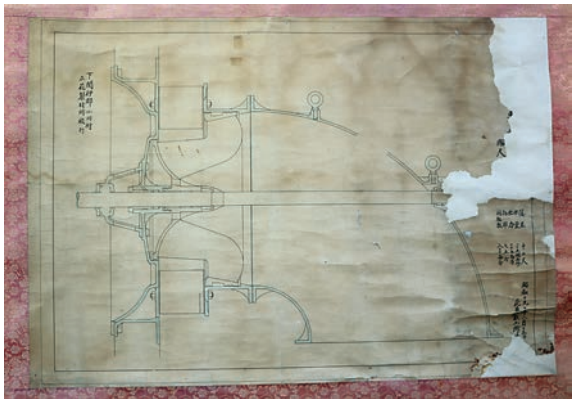
の後押しもあって石神町から相生町大通りに工場を移し花巻鉄工所を設立したのです。昭和15年10月9日のことでした。その登記簿の取締役の欄には社長高橋幸助、製造部長高橋吉助、営業部長高橋泰助とあり、目的の欄には

一、鉱山工作用及農業用機械器具ノ製造販売賣及修理

二、軍需品ノ製造加工ノ下請

三、前各号號ニ附帯スル事業

と書かれております。（前頁参照）こうして花巻鉄工所は創業され発展していったのです。



花巻鉄工所の下閉伊郡立花製材所殿機械設計図（昭和19年）

皆さんはいつ頃入社されたんですか。

私達三人は小学校高等科時代、昭和18年10月から3月まで学徒動員として花巻鉄工所で働きました。当時、花巻で学徒動員として働くところは花巻鉄工所と釘工場（北東金属㈱様）の二か所のみでした。その後、学校卒業と同時に入社したのです。昭和19年4月ことです。入社当時の月給は一日1円でしたよ。

及川健氏

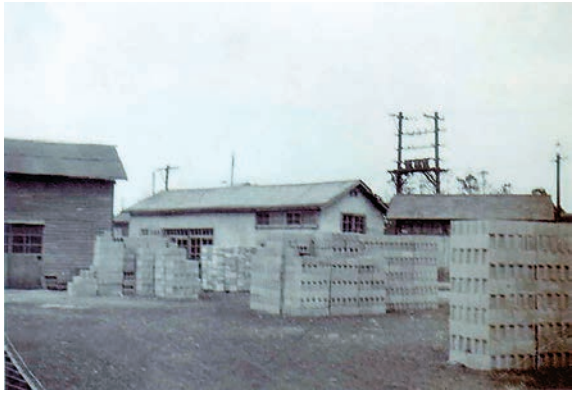
どんな製品を作っていたのでしょうか。

立万力にトロッコ、プーリーも作っていました。トロッコは当時今でいうダンプの役を果たしていたもので需要が多かった。それに脱穀機、当時「つばめ号」が人気でね。その製造・販売・修理を行いました。馬耕（田んぼを馬で耕す機械）も作りました。戦争が始まって国や県からの要請で金属加工・溶接作業もやりましたし、通信機の部品製造もやりました。今想えば、鉄工に関するものは何でも作っていたなあ。

佐々木邦夫氏

当時の労働はどんな形でしたか。

労働時間は午前8時から午後5時まで、8時間労働でした。会社の玄関にタイムレコーダーがあってカードを入れて出社。昼食には毎日わかめ汁が出されました。美味かったなあ。そして午後5時終業。その後、風呂に入って退社でしたね。


ブロックが積まれた敷地

その後、会社はどのようになって行きましたか。

花巻にもぽつぽつと鉄工所が出来始め、花巻鉄工所で働いた人がそちらに出て行くようになりました。その意味では、花巻鉄工所は職人を育てていたとも言えるでしょうし、花巻地方の鉄工産業の礎を築いたと言えるかも知れません。

会社の経営はどうだったのでしょうか。

戦争も終り国の援助もなくなり、北上にも鋳物工場が出来るなど会社の経営は以前のようには行かなくなっていったようです。そんなことから、会社は鉄工製品からブロックを作るなど、建築関係にシフトを変え懸命の努力をしたようです。しかし、時代の流れには逆らえず、経営は悪化して行ったようです。

当時の出納長

花巻鉄工所は倒産したのでしょうか。

倒産はしてないですよ。苦しいながらも会社は続いています。花巻に鉄工の火は消さなかった。今になって驚きながら感謝していることがあるんですよ。それは年金のことです。

ほら、少し前、厚生年金問題がありましたでしょ。あの時、国民の共済掛け金の調査が行われました。その結果、当時の会社が共済金を掛けていてくれていたことが分かったんです。昭和 17 年厚生年金制度が施行された時、会社は 4 月から 1 円 5 銭の掛け金で年金に入っていたのです。お陰さまで２万円程年金が上がりました。戦争時代から敗戦の時代、あのどさくさ時代によくもまあやってくれもんです。当時経営に当たられた方々は先を読んで我々職員のことを考えてくれていたんですね。ありがたいことです。本当に…。

左から伊藤進氏、佐々木邦夫氏、及川健氏、伊藤進康氏

ところで、皆さんとともに働かれた高橋吉助社長さんはどんなお人でしたか。

まあ一言でいえば、職人気質の人と言えるのではないでしょうか。良い製品を作るのに一生懸命で、そのためにはお金に無頓着と言っていい方だったと思います。吉助社長様は平成 24 年に 109 歳で旅立たれたのですが、その葬儀の弔辞に次のようなものがあります。

「自分が考えて設計したものはお客様からの仕事を止め

させてまですぐに製作させ、ご自分の設計技術者としての好奇心を満たそうとする方でした」と。

　そして、仕事は気合いをこめてやられる方で、何かを始める時は決まって手に唾をつけ、「さあ、一丁やるか」と言って手を力強く擦り合わせるのが癖でした。仕事で怪我などしないように心を込めて仕事に励んでいたのだと思います。私達もその姿に励まされ勇気づけられたもんです。今も懐かしいお姿です。

最後列中央が高橋吉助、その左が高橋泰助
中央列中央の右でネクタイをしているのが高橋幸助

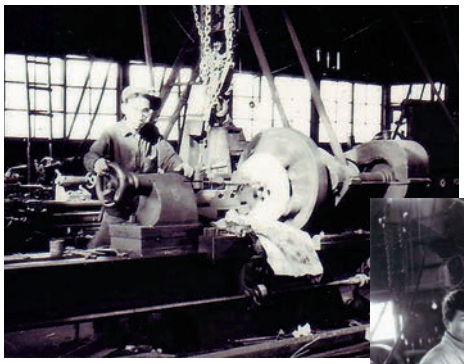
　花巻鉄工所の成り立ちや戦中戦後のお働きぶりなど、知らないことを沢山教えていただきました。会社の歴史に止め置くべきことばかりです。ありがとうございました。

前列左4人目は三菱重工社長郷古潔（岩手県出身）、後列左端高橋吉助

第3章 中央製作所Ⅰ（相生町）初代社長／高橋吉助

昭和26年～昭和40年

伊藤昌六氏



昭和32年頃の工場の様子

元社員

伊藤昌六氏、阿部正夫氏、滝田矢子氏、伊藤銑一氏に聴く

～やりがいのある会社でした～

昭和 15 年創業の有限会社花巻鉄工所は昭和 24 年に閉鎖、昭和 26 年に高橋吉助が中央製作所として改めて個人創業しました。その後昭和 40 年 10 月 4 日に株式会社として法人化、昭和 42 年には会社を現在の宮野目地区に移転し、発展の基礎をつくりました。その様子を当時の従業員伊藤昌六さん、阿部正夫さん、滝田矢子さん、伊藤銑一さんに伺いました。

みなさんはいつ「中央製作所」に入社されどんなお仕事をされましたか。

伊藤昌六さんは昭和 32 年入社し旋盤工で機械の部品つくり、阿部正夫さんは昭和 37 年入社し溶接作業が中心、滝田矢子さんは昭和 38 年入社しブロックつくり、伊藤銑一さんは昭和 39 年入社でとび職、当時従業員は 9 人でした。ゴムぞうりを履いて働いたもんです。

お仕事の内容を具体的に紹介してくれませんか。

第一工場は機械工場で、第二工場は鋳物工場、第三工場はブロック工場でした。そこで鋳物をつくり、機械の部品をつくり、溶接して完成させる。また、ブロックを作り現場に運んで組み立てる。さらに機械の修理などもしていました。また、社長が型紙を持ってきて私達が試作品を作り、完成させて製品化するといったこともしばしばでした。

みなさんの勤務と待遇はどのようなものでしたか。

8 時出勤 5 時退社、昼休みは 1 時間で、一日 280 円の日給制、月末に纏めて給料としていただきました。

28 日間休まないで働くと 2 日分の割増となりました。でも、給料を月末にまともにもらったことはなかったなあ。今日は出るかと思って出社しても出ない。会社を休んで安定所に行くこともありました。

そんな時に限って社長が家に来て「なんとか働いてくれ」と頭を下げる。それを親父が見ていて「社長を助けてやれ、マンマは食わせてやるから」という、そんな状態でした。

給料がなくてもなんとかなった時代だった。当時はどこの会社も似たり寄ったりだったと思いますよ。一番苦しい時、金ヶ崎の三菱製紙工場の重油タンクの仕事が入ってきた。年末も休まないで働きました。仕事があるということは嬉しいもんですよ。

昭和30年代の工場の様子

昭和32年頃、工場裏国鉄操車場

トヨタ車に乗る伊藤昌六氏

そんな会社、みなさんはどうして辞めなかったのでしょうか。

なぜなんでしょうねえ、やっぱり仕事が面白かったからかな。社長が図面一枚持ってきて作れという、ああしたらどうか、こうしたらどうかと考え考えやってみる。そんな繰り返しの中から新しい製品が生まれる。出来あがった時は嬉しいもんです。そんな喜びがあったことが辞めなかった理由かな。

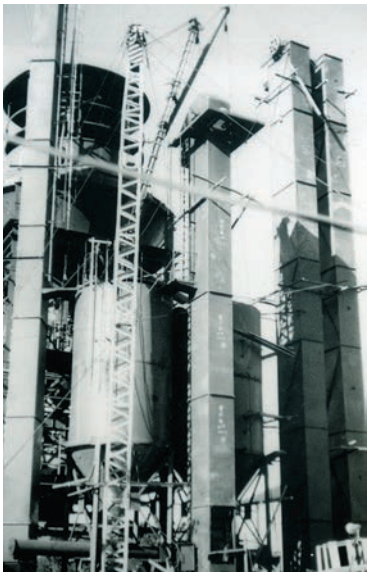
今は流れ作業、一つの製品を自分の手で完成させることはありません。私達は一枚の製図を見て工夫を重ねてものをつくり、現地で使ってみて改良する、そんなことのくりかえしでした。だから、腕も上がったんだと思いますよ。

宮城県釜房ダムセメントサイロ

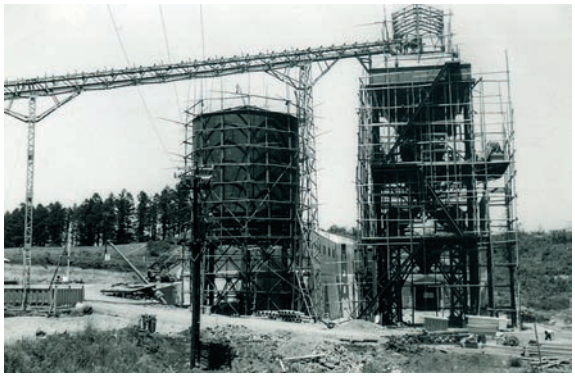
いやあ、いいお話ですね、まさに職人ここにありです。みなさんがいたからこそ今の会社がある、そう思います。その後、会社はどうなりましたか。

昭和 40 年代に入って社会が変わってきました。高度経済成長時代に入ったのです。鉄骨による建築が始まり、ブロックの需要が増え残業をするようになりました。9 時まで残業すると丸高タクシーの 2 階の店で焼き肉が振舞われました。腹いっぱいになって歩いて帰ったもんです。従業員も 40 名を超え、北上方面からの従業員もいてバスで送迎するようになりました。このような活気の中で坂田

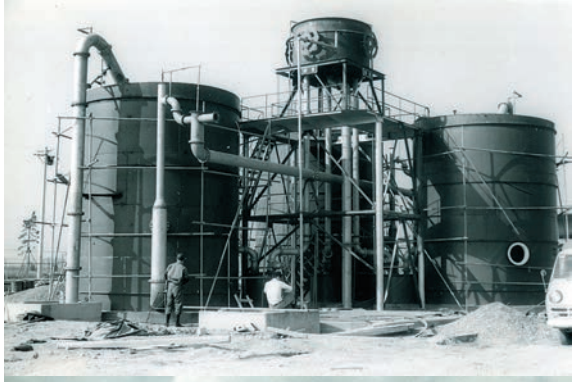
阿部正夫氏



仙台バッチャープラント



四十四田ダムセメントサイロ



埼玉県深谷市逆栓ろ過タンク

建材、台温泉の松田屋旅館、いとうわ、平野クリーニング店などが建設されていくのです。

北日本機械や和賀仙人の日本重化学工業からも仕事が入るようになり、鉄骨の組み立て、歩道の手すりも作りました。八幡製鉄所関係の仕事もやりました。日曜日もなかったし、年末まで働きました。大晦日、家族が食べないで待っていたこともありましたよ。

仕事も増え会社も順調、よかったですね。仕事も大型化すると技術の習得が大変ではありませんか。

私達は技術なしから出発、必要に応じて工夫して腕を磨いていきました。こんなこともありました。ろ過器を作る工事の時、クレーンがありません。私達は電柱３本でクレーンを作り、ウインチで巻き上げました。デリックも作りました。川崎などで仕事をした時に見た経験から知恵を絞ったのです。足場も丸太で組んだものです。今想えばよくやったもんです。富士大学の丸い屋根、ダイヤモンドトラスと言うんですけど、それもやりました。お前達よくやったなと言われましたね。

このように会社が上向きかけた時、佐々木郁夫氏が専務として会社に来られました。なにしろ佐々木専務は岩手大学工学部機械工学科出身、技術は確かです。専務に教えられながら働きました。こうして、四十四田ダムをつくり、湯田ダムのセメントサイロをつくり、釜房ダムの仕事もしました。八甲田のロープウェイもやりました。

現場は全国的に広がったんですね。どんな生活になったんですか。

青森の板柳、埼玉の深谷、春日部、函館でも仕事をしました。北は札幌から南は九州八幡製鉄まで広がりました。一現場二カ月が普通、主に旅館に泊まりましたが、のちには、民家に三度のご飯だけお願いし泊めていただくようになりました。もちろん夜具をはじめ生活用品一切を送っての生活です。その頃、ブロック部門は鉄工部門に吸収されました。

では、滝田さんも鉄工関係のお仕事をしたんですか。

やりましたよ、鋲投げとかね（真っ赤に焼いたリベットを上にいる作業員に投げ渡す仕事）。受け損じると作業着が焼けてしまってね。いやあ、滝田さんはなんでもできる人、男と同じように働きました。後には、新入社員の教育係で「この機械はこのように、その機械はこのように使う」と教えていました。

滝田矢子氏

会社も順調に発展し社員の待遇も良くなっていったでしょうね。

建築部門が誕生し会社は発展しました。仕事を終えるとご苦労分として飲まされ、漬物の差し入れもあり、嬉しく居心地が良かった。そして、毎日もっきり・梅割りを呑み、調子良ければ双葉町に流れ、縄のれんをくぐりました。

そして、忘年会も新年会も盛大に行われ、社員旅行も始まりました。第一回の社員旅行は男鹿半島で、その後沖縄にも北海道にも金毘羅さんにも行きました。野球部もでき各社対抗の大会も開催されました。

45 年から 50 年ごろまでが最盛期で、その頃会社で所得倍増の話も出ました。三月には給料相当額の年度末手当が出たこともあります。何もかもうまく回転していたんです。

男鹿半島への社員旅行

その頃のことで、今も語り草となっているエピソードがありますか。

宮古方面で仕事をした時のことは忘れられないなあ。ある職員の実家が船越にあるということで、それをいいことに上がり込んでお茶をいただいた。そのうちにみんな顔なじみとなりお昼を御馳走になり、最後にはお風呂をいただき泊まるようになった。お酒も飲めた、極楽この上なし。そうしたら何とその家は佐々木専務のご実家、私達は大いに助けられました。

中央製作所野球部

そういえば、こんなこともありました。若い社員が結婚をしました。お決まりの新婚旅行、行った先で奥さんはおかんむり、「なんでこんなところに連れて来たのよ」と。なぜって、そこは春日部、新朗さんが働いていたところ、

社員旅行における最上川下りの様子

伊藤銑一氏

しかも飯場です。彼は花巻以外にはそこしか知らなかった。今だから言える思い出話です。

会社は宮野目に移転したのですね。

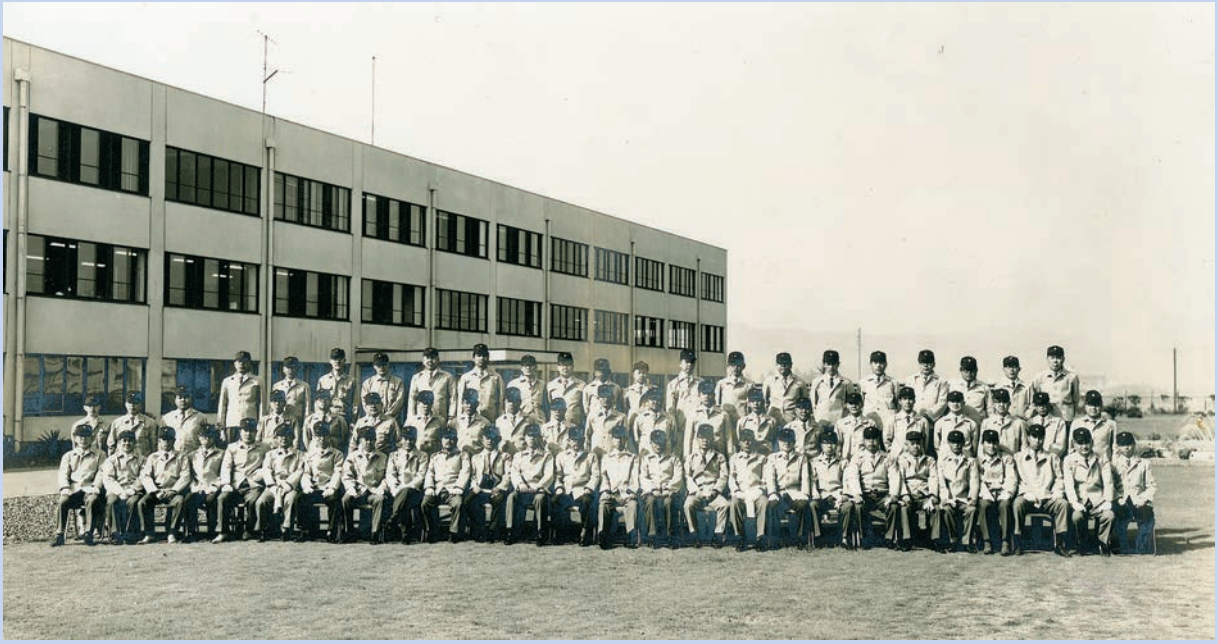
そのとおりです。昭和 42 年に中央製作所は宮野目の今のところに移転しました。そしていよいよ大発展していくのです。そのことは後輩が話してくれるでしょう。私達はこれにて失礼いたします。

左から滝田矢子氏、伊藤昌六氏、伊藤銑一氏、阿部正夫氏

皆様は退職後時々このようにお会いしていますか。

時々ね、「OB 会」がありますから。「OB 会」は高橋吉助社長が会長になってから誕生し、2 年置きくらいにやってきました。会長がお亡くなりになってやっておりませんので、今回の 50 周年がいい機会になるのではないかな。

皆様、本日はまことにありがとうございました。皆様のお話から会社の貴重な歴史を知ることが出来ました。とりわけ、皆様の職人魂が会社を支え発展さたと知り感動致しました。先輩諸氏あっての会社と改めて知り、この 50 年史編集の意義も高められたと思っております。本日はまことにありがとうございました。



スミフレームV指定鉄骨会社総会（昭和41年5月26日）前列左から2人目が高橋吉助社長

スミフレーム会全国大会 於有馬温泉中の坊有馬グランドホテル（昭和43年6月14日）前から3列目右端が高橋吉助社長

戸来諭氏

元花巻市助役　戸来諭氏に聴く

～先見の明ある措置でした～

中央製作所は昭和 40 年に法人化後、昭和 42 年に本社を花巻市東宮野目に移転、工場を新設し、鉄工業の基礎を固めました。この移転にあたって多くのお世話を頂いたのが当時市役所商工課に勤務され、その後助役まで務められた戸来諭さんです。当時の様子をご自宅で伺いました。

「中央製作所」が宮野目に移転したのが昭和 42 年、当時はどんな様子でしたか。

当時の花巻市政は企業誘致と地場産業の育成が二大施策でした。企業誘致条例をつくり誘致を促進し、既存の地場産業を育成し発展させることです。その代表例が和同産業で、南川原にあった本社工場を現在地に移転し、発展させたのです。

昭和50年代 宮野目工場外観

当時戸来さんはどんなお立場におられたのでしょうか。

当時私は市役所商工課勤務、土地開発公社初代の係長で、土地買収に奔走していました。中央製作所の宮野目移転、戸田鉄工所の山の神移転はその大きな対象でした。

中央製作所の宮野目移転のきっかけはなんですか。

昭和 39 年のことと記憶しておりますが、高橋吉助社長さんが市役所に来てこう話されました。

「今の会社のあるところは長い材料の出し入れに大変不便である。どこか適当なところはないものだろうか。できれば、国道筋がよいのだが、そう遠くには行きたくない。」この申し入れが移転の始まりです。

同地区ではS39年に花巻空港が供用開始（現在のいわて花巻空港）

ことはすんなりと運んだのですか。

当時、宮野目の瀬川橋の北側に「マッチ軸木工場」があり、神戸出身の方が将来の花巻の発展を予測して「この宮野目地区は重要な地域となる」と常々話しておりました。

私達もここは国道筋で眺めも良く将来性抜群と考えて

おりましたので、高橋吉助社長の申し出にこの宮野目地区を紹介したのです。

候補の土地は何もない田んぼで、国道には昔の奥州街道を証明する松も生えていました。幸いなことに、地権者も何らかの理由で土地を手放したがっており、ことは順調に運び土地の登記もすんなりといきました。

増設中の工場

広大な土地、購入資金も大変だったでしょうね。

いやぁ～、最初の購入は四・五反で、そう大きな金額ではなかったと思いますよ。その後、少しずつ購入し続けられ、今の工場地となったと思います。

のちのち聞いたところでは、当時中央製作所の経営は決して順調ではなかったようですが、幸いなことにその当時新しく花巻に進出して来られた銀行がありまして、その協力を得たとも聞いております。

昭和60年には新花巻駅が開業

それにしても先見の明ある措置だったのではないでしょうか。

そのとおり、まさに先見の明ある措置だったと思いますよ。会社も行政もね。ただ、ある意味では当時の社会情勢がその動きを促進させた面もあると思います。何しろ高度経済成長期、右肩上がり、それいけどんどんだったのですから。

それにしても、今の中央コーポレーションの発展を見る時、あの決定と措置は間違ってなかった。やってよかったとしみじみ思います。いやぁ～、ほんとうによかった。

なにかこぼれ話がありますか。

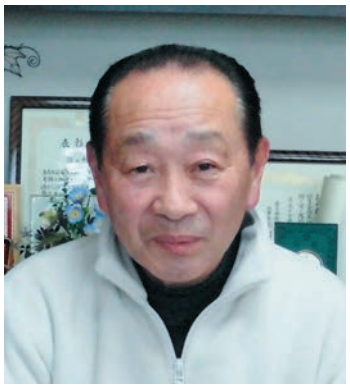
ハッハッハ、これ言っていいのかな。当時は土地買収などで一段落すると「一件落着、先ず一献」と言うのが当たり前でね。もちろん今はないが、当時はそれが当たり前だった。ところが、中央製作所に限ってはそれが一回もなかったんだ。高橋吉助社長さんはやらなかった。アッハッハッハハ。いやぁ～、失礼々々。

戸来論氏と佐々木礼子氏

最後は愉快なお話で締めて下さり、誠にありがとうございました。今後もよろしくお願致します。

第4章 中央製作所Ⅱ（宮野目）第二代社長／佐々木郁夫

昭和41年～昭和60年



畠山由二氏

元社員　畠山由二氏、藤井千三氏

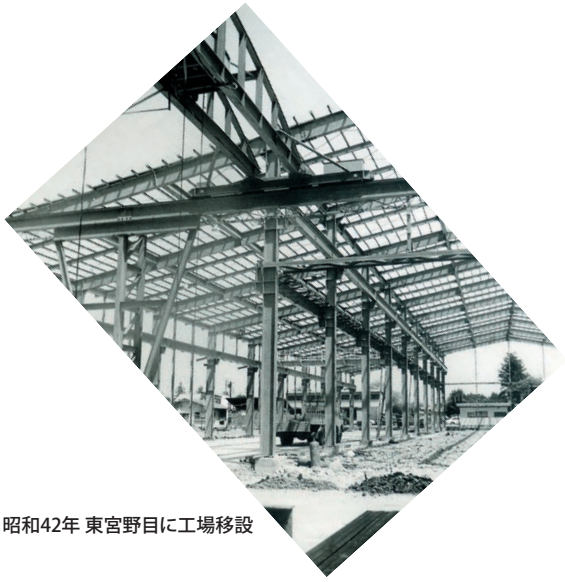
現社員　西塚保氏に聴く

～発展に次ぐ発展でした～

中央製作所は昭和 40 年に株式会社として法人化し、佐々木郁夫氏が専務取締役に就任し、新たな経営が始まりました。その頃の様子とその後の発展を、当時社員でその後も長らく中央製作所に勤務された畠山由二さん、藤井千三さん、現社員の西塚保さんに伺いました。

中央製作所は昭和 40 年に株式会社になりました。組織変更した理由は何でしょうか。

　やはり会社経営の近代化でしょうね。これからの会社はみんなで役割と責任を持ちながら発展させてゆく、そんな考え方からの組織変更だったと思います。その時社長の次女礼子さんの御主人佐々木郁夫さんは岩手大学工学部機械科出身で、東京で足立ベニヤの製造部長をやってらしたんですが、その後中央製作所の専務に就任されました。この佐々木専務が会社組織の法人化を進言し、高橋吉助社長の了承のもと現実化していったのではないでしょうか。



昭和42年 東宮野目に工場移設

そして工場を東宮野目に移転しました。当時の様子をお聞かせ願えませんか。

　花巻市大通りにあった前工場は入口が狭く、材料や製品の運搬に何かと不便でした。そんなことからの移転だったと思います。移転先の東宮野目は田んぼ、そこを整地し工場を建てました。

　花巻市大通りの事務所に出勤し、トラックで宮野目に行って働きました。クレーンなども大通りで作り、宮野目に運んで組み立てて作業したもんです。そのクレーンは今も現役で働いていますよ。

当時は高度成長期、仕事内容はどんなものでしたか。

仕事はどんどん来ました。橋梁・鉄骨・タンク・鉄塔など各種鉄鋼構造物をはじめ、起重機・集塵機など産業機械からプラント設備工事・配管・ダクト工事など仕事の範囲が広がりました。それに水門工事もあり、水処理機械も作りました。やがて、ステンレス製品、アルミニュウム製品も作るようになり、塗装も手掛けるようになりました。

昭和 51 年のこと、中国上海の宝山製鉄所を作ることになりました。私達は宮野目の工場で鉄骨を組み立て輸出しました。誇らしかったなあ。

昭和 50 年頃から国鉄の仕事が入ってきた。山田線、大船渡線の仕事もしました。なにしろ㊥の資格を持つ会社は私達のみ、しかも溶接技術を併せ持つ会社は東北地区には無かった。だから仕事がどんどん入ってきた。例えば、鉄橋の橋側歩道工事などはその代表で、なにしろ 500 トンもの蒸気機関車が走る振動に耐える工事、しかも絶えず列車が走る間の工事です。二人が工事し、その安全を確保のため前後に二人の見張りが付き、更に現場監督が付くという仕組みで、しかも山峡に材料をかついで運ぶという大変な仕事です。

さらに、会社は「納期は必ず守る」主義でしたから、私達は寝ないで働いて納期を守ったもんです。そんな仕事ぶりが認められ、今日のような会社になっていったのではないでしょうか。「会社は社長が作るのではなく従業員が作るもの」とよく言われますが、本当にそうだと思います。

昭和50年代に製作した小舟渡橋（花巻市）

小舟渡橋開通祝賀会での佐々木郁夫社長

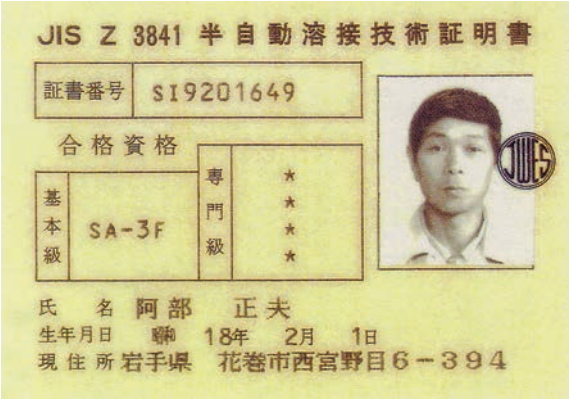
中国上海宝山製鉄所鉄骨組み立て

仕事が増えればそれに伴い技術も必要になったのではありませんか。

我々の世界は資格あってのなんぼのもの、資格の有無は生命線です。おっしゃるように当時は高度経済成長期、技術の向上は日常茶飯事、私達も技術習得に懸命になったもんです。みんな岩手県工業試験場に行って勉強しました。社長がそうすることを望んでいましたし、私達を快く送ってくれました。

ステンレスへの移行の時も、アルミニュウムへの移行の時も同じ、講習は軽金属協会によって開催されますが、

藤井千三氏



JIS Z 3841 半自動溶接技術証明書

証書番号 SI9201649

合格資格

基本級 SA-3F

専門級 ★★★★

氏名 阿部 正夫

生年月日 昭 18年 2月 1日

現住所 岩手県 花巻市西宮野目6－394

JIS半自動溶接技術証明書

ステンレスタンクの製作

ステンレスタンクの据付現場

当時会場は川崎市にしかありませんでした。私達はそこに出向いて資格を取りました。

講習は約１週間、費用は全額会社が負担してくれました。だから講習で不合格、資格なしでは帰れない、みんな必死で勉強しましたよ。鉄工所というと鋼のこととしか考えない時代、ステンレスやアルミニュウムの仕事などはまったく新しいことで、新しい資格を取って新しい仕事をすることは誇らしく、自分の仕事を自慢したいほどでした。先見の明ある会社だったんです。嬉しいことです、やりがいがありました。

仕事も増え人も増えれば安全管理も大変だったでしょうね。

当時は「怪我は手前持ち」というのが当たり前でね。でも怪我や事故はあまりなかったなあ。でも安全管理は大事なこと、特に岩崎安男さんがいらしてから「安全講習」が行われました。最初はなんでこんなことと思ったのですが、徐々に徐々にその意識は浸透し、互いに安全管理に気をつけるようになりました。会社が全国安全表彰を受けたのも技術習得とともに、この安全管理徹底の成果もあったと思います。

当時は労働環境も変わり労働組合の力も大きくなったと思います。その点はどうでしたか。

そのとおりです。私達の職場にも、その道の方々がオルグ活動に入り、昭和52年８月31日に結成大会が開催され、労働組合が誕生しました。スト権・団体交渉権など労働三権が確立され、労働環境の改善、賃金制度の改善、特別有給休暇制度、扶養手当の制度化、退職金制度等が次々と話し合われ、協定が結ばれていきました。さらに、労働時間の短縮、時間外労働、通勤手当、作業服の自己負担、公休日なども話し合われました。でも、スト騒ぎはありませんでした。労使協調路線を貫いたと思います。

最初はなんでも話し合わなければならなくて大変でしたが、会社も良く話を聞いてくれました。最初の半年間ほどは月に１・２回労使合同の勉強会も開きました。そんな

ことでお互い言いたいことを言えましたし、言ったことはやるという主義でしたので、お互いの信頼関係が生まれ、従業員が安心して働ける会社になっていったのではないかと思います。この話し合いの精神は今でも続いていると聞いています。

現在も続けられている花壇整備

労使協調路線で思い出すことはありませんか。

労使協調といっていいかわかりませんが、その一つの例として花壇整備が挙げられます。国道４号線が４車線に拡大され会社の前に花壇のスペースが生まれたことから、会社で花壇づくりが始まったのです。当時、市は「花いっぱい運動」に取組んでおりまして私達もそれに参加したのです。市から苗をいただき植え育てるのです。

花壇づくりと一言で言いますが、これは半端なものではありません。なにしろ 130 メートルもある花壇ですし、床づくり、苗植え・水やり・除草・追肥・花摘みなど毎日のように手入れが必要です。みんなでやりました。お盆などの休みにも会社に出てやりました。

お陰さまで、立派な花壇となり、旧建設省や国土交通省から何度も表彰されました。昭和 40 年頃から始めたこの花壇づくりは今も続いています。

このような社員一体となっての活動は、他には秋の花巻祭参加があります。みんなで神輿を担ぎ、街を練り歩きます。これもまた楽しみの一つです。今でこそ企業の社会貢献が叫ばれておりますが、私達はあの当時から始めていたんだと思います。

当時の花巻祭

その他に社員が一体となっての活動にどんなものがありますか。

社員旅行でしょうね。北海道道南・道東を始め、四国金毘羅さん、長崎ハウステンボス、沖縄にも行きました。平成８年頃には韓国ソウル、香港にも行きました。費用は旅行積み立て、半分ぐらい会社から補助がありました。そんな訳で２年に１回ほどだった社員旅行を毎年行うようになりました。

宴会も楽しかったなあ。沖縄に行った時、ある社員の

お土産は旅館からいただいたパイナップルのみ。実はその社員持っていたお金全部飲んでしまっていたのです。そんな豪傑もおりましたよ。

野球チーム（平成2年5月31日）

それに野球、みんなでやりました。昼休みはもとより、秋の獲り入れが終わると田んぼに出て練習、春は雪が解けるとまた田んぼに出る。これも楽しかった。その後、宮野目中学校グランドや北上鉄工所のグランドを借りて練習、対外試合も結構やりました。その結果でしょうか、実力もなかなかで職場対抗の大会にはA・B2チーム出場し、いい成績を上げたもんです。

しかし、昭和48年のオイルショックから鉄工業界は不況に入るのではありませんか。

西塚保氏

そうです。不況の時代に入りました。仕事が減り工場の半分は遊ばせる状態で、私達も仕事をゆっくりとやる。効率の悪いこと悪いこと、仕方なかった。

でも、賃金カットとか遅配は無かったし、解雇もなかった。新規採用を控えたり、会社はあの手この手と工夫を凝らしてくれたと思います。特に、ガソリンスタンドの営業利益で会社は救われたところもあったと聞いています。本当に大変な思いを致しました。

会社を法人化し発展させたり、労使協調路線を進めたり、社員の福利厚生を充実したり、不況を乗り越える工夫をされるなど大変だったと思います。どなたがお仕事の中心となって進められたのでしょうか。

専務時代の佐々木郁夫（右から2人目）

当時専務の佐々木郁夫さんです。昭和50年には社長になられました。お人柄の良い方で、いつも我々と同じ作業服を着て、クレーンも操り、なんでも仕事をこなしました。背広姿はあまり見たことありません。

こんなことがありました。三重県四日市で仕事を終えトラックに機械器具を積んで帰ろうとした時、当時の佐々木専務が「お前達は疲れている、トラックは俺が運転して帰るからお前達は新幹線で帰ってくれ」とのこと。その途中で専務は後ろから追突されることとなり、入院一か月。そんなお人でした。

北海道旅行 於昭和新山（昭和57年8月14日）

金比羅参拝（平成4年4月12日）

韓国旅行

会合へ出席する佐々木郁夫社長

パーティーで談笑する佐々木郁夫社長

それからこんなこともありました。ある社員が給料日に、給料全額を失くし途方にくれた時のこと。佐々木郁夫社長はどこから聞きつけたのか、その社員を呼んでこう言いました。

「お前、給料失くしたってな、お前はどうにかなるだろうが、奥さんはどうにもなるまい。これをやるから奥さんにもっていきな。返さなくてもいいよ。」

封筒には５万円入っていたというのです。そんなお人柄の社長だったんです。

それじゃ会社の雰囲気は最高だったのでは？

そうですよ、いい会社でした。なんとなく居心地のいい会社でした。郁夫社長のお人柄が職場に沁み込んでいたのでしょう。でも、やっぱり仕事がどんどん舞い込み忙しく、それに伴い新しい技術も身につき、自分が成長していくことを実感できることが嬉しかった。やりがいのある会社だったということに尽きると思います。

会社がどんどん発展して行った様子や皆さんがとてもいい雰囲気でお仕事をなさっておられたことを知り、とても心温まる対談となりました。ありがとうございます。

元常務 岩崎安男氏、現中央石油常務 高橋安英氏に聴く

～時代の先をよむ経営～

昭和 40 年に株式会社化し、新たな歩みを始めた中央製作所は、高度経済成長の波に乗り発展します。昭和 48 年のオイルショックによる不況も乗り越え、昭和 50 年には佐々木郁夫氏が社長に就任、鉄構業、建築業、石油油脂販売業をそれぞれ分社化し、各社が懸命の努力を重ね、再び発展を見せます。この経緯について元中央製作所常務取締役岩崎安夫さん、現中央石油常務取締役高橋安英さん、現中央コーポレーション取締役伊藤誠さん、そして当時経理を担当していた佐々木郁夫夫人礼子さん（初代社長高橋吉助氏次女）に伺いました。

岩崎安男氏

中央石油 宮野目給油所

昭和 40 年代の会社はどのようなものでしたか。

みなさんご存じのように、時は高度経済成長期、鉄骨で店を建てる時代となり仕事が多く舞い込み忙しく、花巻市の上町商店街に中央製作所のクレーン 2 台、大型トラック 2 台が常駐することもしばしばで、体を動かせば動かすほど儲かった時代、会社は大きく成長しました。

専務の佐々木郁夫さんも当時 30 代で若く、背広姿になることはなく、作業服を着てがむしゃらに働かれました。何しろお人柄がよく、他人の話をよく聞き入れ、率先垂範の方でした。

高橋安英氏

東宮野目に宮野目給油所を開設されますね。

当時吉助社長や佐々木専務が時代の先を読んでいたんですよ「やがて車社会が来る」と。昭和 47 年 11 月頃から調査が始まりました。国道 4 号線、会社の前を通る車の調査です。上り下りどんな車が何台通るか、特にトラックは何台通るか調査したんです。今でいう市場調査です。そして給油所開設を決断した。

しかし、事はそう簡単にはうまく運ばなかった。既存の石油業界の反対に会いました。そんな中で粘り強い努力が続けられ、何とか開設に漕ぎ着けた。

中央石油 花巻インター給油所

資源エネルギー庁長官表彰

資源エネルギー庁長官賞

工場内観

石油給油所は成功だったんですか。

大成功ですよ。その後、車社会の到来となりましたし、何より昭和 48 年の第一次オイルショックで日本中大変な騒ぎになりましたが、私達は石油給油所を開設していたお陰で燃料の心配は無用、大いに助けられました。先見の明とはこのことかと思いましたね。その後、昭和 57 年には東北自動車道花巻インターチェンジの脇に中央石油花巻インター店を開設し、平成元年には資源エネルギー長官賞もいただきました。宮野目店開設当時反発された石油販売業界の方々も「お前達、よくやったな」と話してくれました。

オイルショック後、不況の時代に入りましたよね。

日本中に不況の波が襲いました。特に鉄工業の不況は大変なもの、大手企業の合併も続きましたし、県内でも北上や水沢の同業他社の倒産が続き、花巻の大手と言われていた企業も会社更生法の適用を受けるなど業界が大変混乱致しました。

私達も昭和 50 年に建築部門を㈱中央建設工業に、油脂販売部門を㈲中央石油に分離し、新たに㈱中央製作所との 3 社体制でスタート致しましたが、それは一つの部門の損失が他の部門に影響を及ぼさないよう各社が責任を持って経営にあたるための体制をつくる措置だったのです。そして佐々木郁夫専務が新たに 3 社の社長に就任されました。

どうやってこの不況を脱出していったのでしょうか。

今話したように、昭和 50 年に 3 社に分社化して独立採算制を取り、中央製作所も昭和 52 年に「建築工事業」を建設許可業に追加登録、さらに昭和 57 年には「塗装工事業」、「管工事業」を追加登録するなど、鉄構事業の周辺分野を拡大していきました。

また、溶接分野においても鉄の溶接のほかに、ステンレス溶接やアルミニュウム溶接に加え、異種金属の溶接を研究し、技術的に難しい分野も開拓していきました。お陰さまで仕事の分野が徐々に拡がっていきました。

このような私達の姿勢を当時労働省の施設であったポリテクセンター岩手が注目し、技術講習に呼んで下さった

こともしばしばでした。大変名誉なことだと思います。あの頃の頑張りを今でも思い起こします。よくやったものです。そして昭和62年以降、日本経済はバブルの時代に入り鉄工業界も好景気の時代を迎えるのです。

伊藤 誠

好不況の波に揉まれ、労働環境も変わっていったのでしょうね。

昭和48年に大きな事故がありました。一人の工員が鉄の柵に挟まれるという事故です。また、ある時一人の工員が目にゴミが入って痛いというので眼科に行ったところ、ゴミではなく鉄の粉が入ったものでした。グラインダーの鉄の粉が入ったものです。「なぜ眼鏡を掛けさせないのか」と注意を受けました。

当時はいわば「仕事は盗んで覚えろ」主義、マスクをすることもなく、眼鏡を掛けることもなく、「怪我は手前持ち」という意識で、細やかな安全指導や安全管理の意識は低く「公傷制度」の認識もあまりありませんでした。

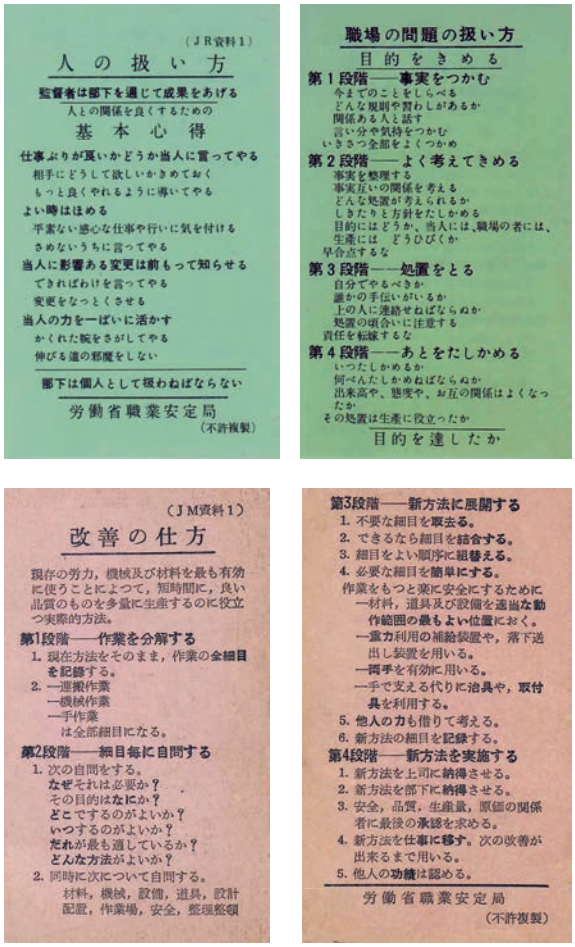
会社はこの事故を契機に安全管理、安全指導に取り組んでいくのです。

どのような安全管理指導を行ったのですか。

長らく取締役総務部長を務めていた岩崎安夫さんは前職で松尾鉱山に勤務していた時、社員にぎっくり腰が大変多く、ラジオ体操をすることによりそれが激減したという体験から、教育や安全指導を徹底すれば、ある程度怪我は防げるとわかっていました。そこでいわば中央製作所型を考え実践したのです。

まず、災害分析と仕事に関する基本事項の徹底です。第一に仕事の内容と怪我などの災害状況の分析、第二に仕事のやり方・教え方、特に実践手順の徹底、第三に仕事の改善方法の共通理解です。このことをみんなで共通のものとするために、手のひらサイズのカードを作り係長以上に配布しました。「人の扱い方」「人の扱い方指導指針」「仕事の教え方～用意の仕方」「仕事の教え方4段階」「改善の仕方」などです（次ページ図参照）。

次に行ったことは、社員への安全意識の浸透です。事故



（JR資料1）

人の扱い方

監督者は部下を通じて成果をあげる

人との関係を良くするための

基本心得

仕事ぶりが良いかどうか当人に言ってやる
相手にどうして欲しいかきめておく
もっと良くやれるように導いてやる
よい時はほめる
平素ない感心な仕事や行いに気を付ける
さめないうちに言ってやる
当人に影響ある変更は前もって知らせる
できればわけを言ってやる
変更をなっとくさせる
当人の力を一ぱいに活かす
かくれた腕をさがしてやる
伸びる芽の邪魔をしない

部下は個人として扱わねばならない

労働省職業安定局

（不許複製）

職場の問題の扱い方

目的をきめる

第1段階——事実をつかむ
今までのことをしらべる
どんな規則や習わしがあるか
関係ある人と話す
言い分や気持をつかむ
いきさつ全部をよくつかめ

第2段階——よく考えてきめる
事実を整理する
事実互いの関係を考える
どんな処置が考えられるか
しきたりと方針をたしかめる
目的にはどうか、当人には、職場の者には、生産には　どうひびくか
早合点するな

第3段階——処置をとる
自分でやるべきか
誰かの手伝いがいるか
上の人に連絡せねばならぬか
処置の項合いに注意する
責任を転嫁するな

第4段階——あとをたしかめる
いったしかめるか
何べんたしかめねばならぬか
出来高や、態度や、お互の関係はよくなったか
その処置は生産に役立ったか

目的を達したか

（JM資料1）

改善の仕方

現存の労力，機械及び材料を最も有効に使うことによつて，短時間に，良い品質のものを多量に生産するのに役立つ実際的方法。

第1段階——作業を分解する
1. 現在方法をそのまま，作業の全細目を記録する。
2. —運搬作業
—機械作業
—手作業
は全部細目になる。

第2段階——細目毎に自問する
1. 次の自問をする。
なぜそれは必要か？
その目的はなにか？
どこでするのがよいか？
いつするのがよいか？
だれが最も適しているか？
どんな方法がよいか？
2. 同時に次について自問する。
材料，機械，設備，道具，設計
配置，作業場，安全，整理整頓

第3段階——新方法に展開する
1. 不要な細目を取去る。
2. できるなら細目を結合する。
3. 細目をよい順序に組替える。
4. 必要な細目を簡単にする。
作業をもつと楽に安全にするために
—材料，道具及び設備を適当な動作範囲の最もよい位置におく。
—重力利用の補給装置や，落下送出し装置を用いる。
—両手を有効に用いる。
—手で支える代りに治具や，取付具を利用する。
5. 他人の力も借りて考える。
6. 新方法の細目を記録する。

第4段階——新方法を実施する
1. 新方法を上司に納得させる。
2. 新方法を部下に納得させる。
3. 安全，品質，生産量，原価の関係者に最後の承認を求める。
4. 新方法を仕事に移す。次の改善が出来るまで用いる。
5. 他人の功績は認める。

労働省職業安定局

（不許複製）

係長以上全員に配られた手のひらサイズカード

が発生する都度、「なにが原因で起こったのか」、「どうすればよいのか」をみんなで分析し、改善策を考え実践していきました。最初いぶかっていた社員も次第に積極的に参加するようになりました。

そして「安全講習会」を積極的に開催しました。事故事例やヒヤリハット事例を取り上げながら、全体としてやるべきことを明らかにし、会社全体で取り組んでいったのです。その中で「公傷制度」への理解を含め、制度適用も積極的に進めました。こうして、当社の安全管理は徐々に会社全体へ浸透していったのです。

安全管理の浸透はどんな効果をもたらしたのでしょうか。

まず第一に仕事が順序立てて行われるようになりました。全体見通しの中で、現場監督の指示のもと、秩序だって仕事が行われるようになったのが第一です。

第二に、問題が起こった時の処理が迅速になりました。誰がなにをどうするかがはっきりしてきたからです。併せて組長・班長の責任体制も明確になりました。

第三は、仕事の改善が始まりました。一人の発見がみんなで共有されるようになり、全体の成果に結びついて行ったのです。この効果は大きかった。こんなことからいつしか会社に視察者が増え、安全管理のモデルケースとされるようになり、県庁からも職員が見えるようになりました。

パソコンシステムを導入した佐々木礼子氏

その当時、会社にはパソコンも導入されたと伺いましたが。

そうです、昭和56年に導入しました。あの当時パソコンはまだどの会社にも、銀行にも会計事務所にも入っておりませんでした。ある日のこと、㈱ミロク情報サービスの盛岡営業所の方が会社を訪れ、パソコン本体を取り出し説明してくれました。一通り説明をお聞きして、「これは事務改善に役立つばかりではなく、会社経営の基礎固めになるのではないか！」と閃いたのです。

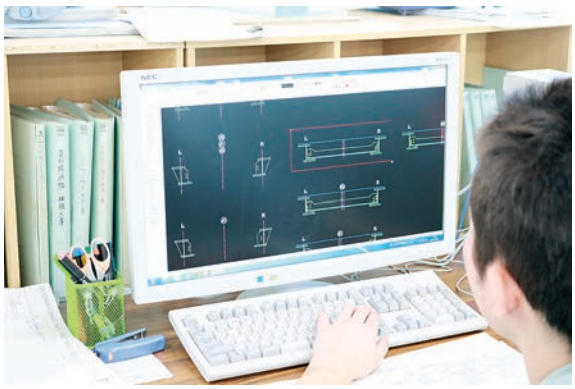
それから見よう見まねで勉強してみますと、システムの能力と可能性が理解でき、確かに会社経営の根幹をつくることができると解ったのです。社長にこのことを説明しパソコンの導入をお願いしましたところ「そうか、ひとつ

やってみるか」ということになり、導入を決めたのです。㈱ミロク情報サービス盛岡営業所民間導入第１号と言われました。

最初は職員の給与計算事務から始めました。次に貸借対照表、資産管理と進み、会社の工事台帳も作りました。これによって工事の原価状況がいち早くわかるようになり、毎月開催していた業務委員会において、工事原価資料、月次決算資料も整うようになりました。依頼された工事が採算に合うのか、進捗中の工事の原価状況や改善点がはっきりとしてきました。やがて資料が積み重ねられ、会社経営の基礎資料となって行きました。と同時に、会社の経営管理がビックリするほど変わって行ったのです。

その後の推移を見ましても、今や会社経営はパソコン抜きには考えられないことです。今思えば、パソコンの導入をあの時やっていて本当によかったと思います。あの頃のデータベースが今も役立っています。会社の発展にいささかなりとも貢献できたのではないかと思うと嬉しくなります。それも佐々木郁夫社長がパソコンの将来を感じ取っていてくれたおかげです。

パソコン導入当時の事務所風景


PCは現在事務所社員1人に1台

激動に時代みなさんよく乗り越えられましたね。

私達も頑張ったけれど、やはり社長が偉かったのではないかな。佐々木郁夫社長は以前東京の足立ベニヤの製造部長だったのですが、高橋吉助前社長の次女礼子さんと結婚され、花巻に帰省のたび工場を見て回られ、後継ぎがいないのはもったいないと話され、事情が許されるのなら私が後を継ぎたいと申し出られたと伺いました。

前にも話しましたが、佐々木郁夫社長は温厚篤実、他人の話をよく聞く人でした。自分の意見を言う前に他人の話を聞き、決断するとその仕事をその人に任せる人でした。しかも、私達と同じように作業服を着て現場で共に働かれる方だったのです。

仙台泉ペデストリアンデッキ（旧住友金属工業様向け）

そんな社長さんのお仕事ぶりをもう少しお聞かせ下さい。

私達の話をよく聞いてくれた佐々木郁夫社長は仕事も良くできる人でした。現場で仕事しながら機械の操作や仕事

の手順などいろいろなことを教わりました。仕事の現場は佐々木郁夫仕事塾と言ってよかったかもしれません。

会社経営ではこせこせせずに大きなものを狙うやり方で、しかもその裏では見えないことをしっかりと調べている人でした。やはり、佐々木郁夫社長あっての会社ではなかったかと思います。

そして、時々「俺、東京に行って来る」と言って一人列車に乗る人でもあったのです。当時、社長は東京で開催される「経営塾」のメンバーでしたし、また、新しい会社経営の考え方や技術の紹介などの研修会に出席される方でもありました。今思えば、社長は陰で自ら学んでいたんだと思います。いや、大した方ですよ、頭が下がります。

それぞれのお立場で会社の発展に尽くされました皆様のお話に本当に感銘いたしました。みなさんあってこその会社の発展とよくわかりました。それに佐々木郁夫社長さんのお人柄。そしてお仕事ぶり、まことに見事としか言いようがありません。お話本当にありがとうございました。

この人に聞く

基礎をしっかりと

佐々木郁夫氏

（㈱中央製作所）

戦後のドサクサのなかにまぎれ、自分の進みたい〝方向〟に進めないまま教師となり、その後東京での会社勤めを経て、現在に至ったという佐々木社長。前社長とともに会社を設立、五十年に社長に就任している。

「企業は存続していかなければならない。そのためには損失補てん、危険回避がぜひとも必要になる。それを可能にするためには、日ごろから最大利潤を追求するのではなく、適性な利益を蓄えていき、基礎を固めていくのが筋」というのが持論。

その時々の政策、景気に振り回されやすい業界の体質を知りつくしており、「加工度の高い、付加価値の高い製品に営業の主眼を置いてきた」成果が実り、「計画的な経営に近づいてきている」と会社の現状を分析している。

「性格的にこり性」という佐々木社長は、教員時代、会社員時代と現在ともその〝負担〟は同じだというが、「企業はこれで良いということがないのが違い」と語る。そして、日曜、祝日もない毎日に「家族からみれば不満も多いはず。自分の時間は少ないが、子どもたちといっしょの家族だんらんの時間は、できるだけ取るようにしているつもり」という。

鉄構いわて（昭和55年9月号）

前花巻地区鉄構工業会 会長　菊池章氏に聴く

～花巻鉄工業協同組合のこと～

花巻の鉄工業界も大同団結する時代を迎え、昭和 49 年に「花巻鉄工業協同組合」を結成し、初代理事長に当時株式会社中央製作所社長高橋吉助氏を迎えます。当時の鉄工業界の様子や「花巻鉄工業協同組合」の活動、その後の推移などを「花巻地区鉄構工業会」前会長の㈱菊池工業社長菊池章氏に伺いました。

前花巻地区鉄構工業会会長 菊池章氏

菊池様は高橋吉助氏とはどのようなご関係でしたか。

私は菊池工業を経営しておりましたので、鉄工業の同業者ということになります。でも、高橋吉助様は戦前から鉄工業を営んでおられましたから、私には大先輩も大先輩、後ろ姿から学んできたお方、この道の先達といってよろしい方だと思います。

とりわけ昭和49年に「花巻鉄工業協同組合」が結成され、中央製作所高橋吉助社長が初代理事長となり、会合でご一緒するようになってから親しくお付き合いをさせていただくようになり、多くのことを教えられました。

花巻鉄工業協同組合
初代理事長 高橋吉助

当時花巻には鉄工所はどれほどありましたか。

会社は 10 社位数えたでしょうか。もちろん、その第一は花巻鉄工所を前身とする中央製作所です。当時、各会社はそれぞれ得意なものを生産し、中央製作所は様々な機械部品を生産していました。除雪機や農機具を製造している現在の和同産業株式会社のような会社だったと思います。

当時の鉄工業界の経営はどのようなものでしたか。

どの業界も同じだとは思いますが、鉄工業業界も社会の好不況の波をもろに受ける業界です。戦中の軍需景気の時、戦後の物不足の時、高度経済成長の時、オイルショックの時、バブルの時など、それぞれの時代時代の動向に大きく左右されて来ました。

そんな中で、私は高橋吉助様の印象深く記憶している

花巻鉄工業協同組合
第五代理事長 佐々木郁夫

言葉があります。それは「俺は 18 回立ち上がった」という言葉です。なにせ 18 回は「七転八起」の倍以上ですからね。色々なご苦労がありながら不屈の闘志で歩んでこられたことを物語る言葉ではないでしょうか。

岩手県鉄工業50年の歩み 表紙

当時の仕事ぶりや労働環境を教えてくれませんか。

私が働き始めた頃は、物資不足の時代で大変でした。材料もなく、よく今弘商店に材料探しに行ったもんです。給料は日給で月二回の支払いでした。時には遅配のこともありました。それでもなんとかなったもんです。いい時代だったんですよ。

そして昭和 40 年代の高度経済成長期、どんどんものを作る時代、建設業も大きく伸びていきました。朝明るくなれば働いて一日中休みなし。中央官庁も勤務態様について煩くなかった。給料を貰うと温泉に直行、お金がなくなると働きに来るといった猛者もいました。

そんな職人を使いこなすのですから経営者も大変です。そんな時期、高橋吉助氏が腕のいい技術者を揃えていたのは素晴らしいことだと感服します。

その後、オイルショックもあり不況の時代を迎え、更に鉄からステンレス・アルミニュウムへと技術が進歩し、私達も時代の流れとともに歩んできました。

第6章　業界再編成と現況

る組合の先駆をつけた。この組合は、共同事業のほかに、金融事業を行うことにより、組合員の資金運用の円滑化を図ることを主なる目的とし、順調に運営されてきたが、昭和49年に花巻鉄工業(協)、同50年には花巻機械金属工業団地(協)が組成されて地区の業界組織が整い、また所期の目的もほぼ達成したので、同昭和49年解散総会に解散した。

・名称　花巻鉄工業協同組合。
・事務所　花巻市花城町10－22。
・地区　花巻市、石鳥谷町、東和町、大迫町、佐比内の地区。
・業種　金属製品製造業。
・組合員数　23名。
・設立年月日　昭和49年11月11日。
・出資金　（1口金1万円）金117万円。
・目的　本組合は、組合員の相互扶助の精神に基づき、組合員のために必要な共同事業を行い、もって組合員の自主的な経済活動を促進し、かつその経済的地位の向上を図ることを目的とする。
・事業　1.組合員の事業に関する共同施設の設置及び管理。2.組合員の事業の用に供するための土地の取得及び造成。3.組合員の委託を受けてする組合員の事業の用に供するための施設及びその管理。4.組合員の取扱品の共同加工。5.組合員の事業に関する経営及び技術の改善向上。又は組合事業に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供。6.組合員の福利厚生に関する事業。7.前各号の事業に付帯する事業。
・役員

理事長　高橋吉助（昭和49年11月～同50年4月）、戸田東助（同50年4月～同54年12月）、藤本和夫（同54年12月～同57年5月）、藤原有貞（同57年5月～同60年2月）、平賀武（同60年2月～現在）。
副理事長　戸田東助（昭和49年11月～同50年4月）、菊地安男（同60年4月～現在）。
専務理事　藤本和夫（昭和50年4月～同54年12月）、藤原有貞（同54年12月～同57年5月）、平賀武（同57年5月～同60年2月）、照井清美（同60年2月～現在）。
理事　藤本和夫（昭和49年11月～同50年4月）、谷本良治（同49年11月～同60年12月）、沢田智司（同50年4月～同54年12月）、小村田博司（同50年4月～同54年12月、同56年12月～同58年12月）、藤原壮司（同50年4月～同54年12月）、同56年12月～同58年12月）、藤原壮司（同50年4月～同54年12月）、照井清美（同52年4月～同60年12月）、平賀武（同52年4月～同57年12月）、八重樹年人（同54年12月～同60年12月）、菊池章（同54年12月～現在）、川村吉一（同54年12月～同56年12月、同58年12月～同60年12月）、藤原有貞（同60年12月～現在）、戸田東志（同60年12月～現在）、川村吉忠（同60年12月～現在）、藤根勉（同60年12月～現在）、花井喜三（同60年12月～現在）。
監事　佐々木次（昭和49年11月～同52年3月）、沢田智司（同49年11月～同50年4月）、菊池章（同49年11月～同54年12月）、川村吉一（同50年4月～同54年12月、同60年12月～現在）、八重樹年人（同52年4月～同54年12月、同60年12月～現在）、花井喜三（同54年12月～同60年12月）、藤根勉（同54年12月～同60年12月）、佐々木清助（同54年12月～同56年12月）。

－178－

花巻鉄工業協同組合の記事

その様な時代の変化の中に花巻鉄工業協同組合は誕生したのですね。

花巻に鉄工所も増え、切磋琢磨の中にも協調が必要となりましたし、時代の変化の中にその道の情報も必要でした。そんなことから同業者の親睦を深めるとともに、今後の発展のために情報交換を図るという趣旨で、昭和 49 年 11 月 11 日に法人格のある「花巻鉄工業協同組合」が結成され、毎月 2 回の例会が開催されました。その初代理事長に中央製作所社長高橋吉助氏が選出されました。翌年 4 月 1 日に第二代理事長は戸田鉄工所社長の戸田東助氏に引き継がれました。

現在も引き続き活動されてるんですか。

平成 2 年に「花巻鉄工業協同組合」は発展的に解消し、任意団体である「花巻地区鉄構工業会」として再出発致し、

例会は四半期ごとに開催することとなりました。会員は花巻をはじめ大迫、石鳥谷、東和エリアの鉄工業を営んでいる事業所及びその原材料（資材）を供給している卸売業者となっております。

主な事業としては会員相互の親睦と業界の情報交換を行うとともに、会員及び役職員の親睦を目的に年 1 回の野球大会とボーリング大会を行っています。この大会はどちらも職場対抗で行っており、その時代時代を反映して大変な盛り上がりを見せます。

その後、理事長及び会長職は別表（下図参照）に見るように引き継がれ、活動は継続されております。昭和 50 年には高橋吉助氏の跡をお継ぎになられた㈱中央製作所社長佐々木郁夫氏が「花巻鉄工業協同組合」第五代理事長となり、平成 25 年には現在の㈱中央コーポレーション社長佐々木史昭氏が「花巻地区鉄構工業会」第二代会長に就任されております。

花巻鉄工業協同組合歴代理事長
（昭和49年11月～平成2年）

理事長	氏　　名	所　　属
初　代	高橋　吉助	㈱中央製作所
第二代	戸田　東助	㈱戸田鉄工所
第三代	藤本　和男	㈱三協製作所
第四代	藤原　宥悦（ゆうえつ）	㈱岩手ハウス工業
第五代	佐々木郁夫	㈱中央製作所
第六代	平賀　　武	㈱ヒラガ
第七代	菊池　　章	㈱菊池工業

花巻地区鉄構工業会歴代会長
（平成2年～現在）

会　長	氏　　名	所　　属
初　代	菊池　　章	㈱菊池工業
第二代	佐々木史昭	㈱中央コーポレーション

その後、特徴的な動きがありますか。

昭和 49 年 7 月には岩手県鉄構工業協同組合ができ、昭和 52 年には東北の組織が出来ました。こんな組織結成の流れを見て参りますと、花巻は鉄工業関係では先進地であったと言えそうです。事実、歴代理事長は県の理事を務め、本県の鉄工業界の発展に尽力して参りました。私も理事としてささやかながら任務を務めさせていただきました。

特に、佐々木郁夫氏は岩手県鉄構工業協同組合の理事を長らく務められ、情報出版委員長としてご活躍された後、平成 10 年には岩手県鉄構工業協同組合の第二代理事長に就任され、本県鉄工業界の発展に大きく貢献されました。

花巻地区鉄構工業会
第二代会長 佐々木史昭

平成 24 年 2 月 20 日、108 歳で永眠された高橋吉助氏の葬儀にあたり菊池章氏は弔辞を寄せられ、「花巻の鉄工業の発展は、ひとえに会長高橋吉助氏の新しい時代感覚で、後に続く者が力を発揮できる土壌を培って下さったからだと思っております」と述べておられますが、菊池章様のお話からその内容をよく伺い知ることができました。本当にありがとうございました。

第5章 中央製作所Ⅲ

昭和61年～平成14年

常務取締役　菅原博氏に聴く

～新たな幕開け、地道な発展～

菅原 博

昭和の終期から平成の初期はバブルの時代、鉄構業界も好景気に沸きますが、やがてバブルがはじけ不況の時代に入っていきます。そんな折佐々木郁夫社長の長男史昭氏が東北大学工学部卒業して住友金属工業に勤務の後、平成6年に中央製作所に入社されました。史昭氏は有能な若手技術者として働き、後に中央製作所の専務取締役、そして中央コーポレーションの社長となり、会社は新たな発展を遂げました。その時代を共に過ごされた菅原博さん（現常務取締役）にその様子をお聞き致しました。

花巻市道地橋 ボルト締結式の様子

旧日本道路公団鞍掛橋

菅原様は昭和51年の入社ですが、会社の姿や歴史をどのように見ていらっしゃいますか。

一言でいえば、昭和50年代の中央製作所は、人格者で率先垂範の佐々木郁夫社長のもと、腕のいい職人肌の従業員たちが居て、引き受けた仕事は徹夜してでも納期に間に合わせるという気概を社風とする会社だったと思います。

また、会社経営の歴史は、高度経済成長の波に乗り成長し、オイルショックに揺さぶられ、バブルに乗って事業を拡大し、バブルがはじけて呻吟し、高度な技術の習得に励み、仕事の精度を高めて信用を得、徐々に大型工事の受注が実現するなど、その時々の社会経済の変化に揉まれながらも懸命に対応し、地道ながらも着実に発展を遂げてきたと言えるのではないでしょうか。

昭和61年から始まったバブル期、当時はどんな様子でしたか。

オイルショック後はその影響で会社経営は厳しいものだったと思いますが、昭和55年頃に当時の国鉄から

新幹線関係の仕事を数多く受注し、日本道路公団からも東北自動車道の工事を受注出来たことは何よりだったと思います。その後も、花巻市の橋梁や岩手県の照明鉄塔、スノーシェルターのほか、徐々に橋梁や鋼構造物工事の元請受注が増えていきました。

平成に入ると、岩手県の鉄構業界もバブル景気に沸き始めます。当社は鉄骨工事が少なく他社に比べ利益が少なかったように記憶しておりますが、旧来のお客様優先の工事受注の結果であったと考えます。

その後も、公共工事の元請や鉄道関連工事の受注が増え、岩手県の建設関連重厚長大産業の担い手として、大型の社会資本整備を担える会社へと成長して参りました。

JRすみ肉溶接技量試験

事業が拡大すればするほど技術習得も必要だったでしょうね。

私達の仕事は「技術あってなんぼ」ですから、常に新しい技術の習得は不可欠でした。

これまでも会社は新しい技術習得のため、社員を県の工業試験場や仙台、東京での講習会に積極的に派遣し技術・技能の習得に努めて参りました。

その中で平成7年の「JRすみ肉溶接技量試験」（列車荷重が載荷される重要構造物の製作に必要なすみ肉溶接技量資格）は圧巻でした。多くの鉄道工事の実績をもつ大手橋梁メーカーでも大変難しいとされるこの試験において、初回の合格者なんと10名という快挙でした。これから東北においても鉄道桁の溶接が出来る会社があってほしいというニーズがあってのことだったと思いますが、秋田新幹線に関わる田沢湖線の鉄道桁改修工事をてがけさせて頂きました。

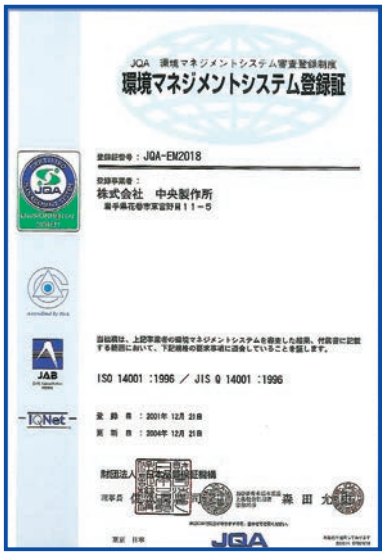
JRすみ肉溶接技量試験の計測状況

これが今でも続く東日本旅客鉄道株式会社様向けの「列車荷重が載荷される重要鋼構造物」製作の始まりであり、以来鉄道工事桁、本線鉄道桁、JES-HEP工法に於ける鋼製エレメント、バックルプレート桁改修工事など、数々の重要鋼構造物の製作実績を積ませて頂いております。

もうひとつ紹介したいものがあります。それはISO認証です。会社も発展し、大型工事も受注できるようになり、

JRすみ肉溶接技量試験最終会議

ISO9002認証取得時の登録証



当時のISO14001登録証

技術も高度化してきました。このような状況に対し、佐々木郁夫社長が国際標準に合わせた技術習得・品質管理を図ってみてはとの考えを述べられたことから、国際標準化機構による品質保証規格であるISO認証に取組むことになりました。

幸い平成10年にISO9002認証を取得することが出来ましたが、これは鉄構業界においては東北で初めてのことでした。

その後、平成12年にはISO9001認証を取得致しました。

さらに、平成14年には環境管理の国際規格であるISO14001を取得し、品質管理と環境管理のマネジメントシステムを構築し、良質な製品の生産と確かな工事施工が出来る会社へと発展してきたように思っております。

この頃には人事評価制度も確立し、恣意的なものが排除され、公正さが保たれた会社へと変化してきたように思われます。

腕に技術を持った皆さんは仕事もバリバリだったでしょうね。

そのとおりです。平成元年から平成5年にかけては、屋外運動場等の照明鉄塔の製作設置工事が多かったですね。平成2年の花巻市営野球場の照明塔製作設置工事をはじめ、茨城県、埼玉県、宮城県など各地でナイター設備の設置をやって参りました。その中で一番大型だったのは、平成4年のJリーグ創設に関わる、住友金属工業様向け鹿島アントラーズサッカースタジアムの照明塔製作設置工事ですね。

旧鹿島サッカースタジアム照明塔（旧住友金属工業様向け）

高さ44m、重量80tの製品を4基当社工場で製作し、現地に運搬、400tクレーンでそれぞれ設置しました。設置工事自体が非常に難しい工事でしたが、照明柱本体溶接部のX線検査結果が非常に良く、同時に施工した鉄骨の超音波検査も良好であったことから、元請建設会社から大いに褒めらました。

このほか、これまで製作したことのなかった厚板による螺旋形構造「泉中央駅ペデストリアンデッキ螺旋階段」製作、東京鉄骨橋梁様向け「首都高速道路向け鋼床版箱桁

製作工事」、東京農業大学校舎のSRC鉄骨製作、さらには当時の建設省三春ダム工事事務所の元請工事で「三春ダム大滝根ゲート設置工事」など、遠隔地の数々の難工事に大変良く頑張ってくれたものだと今でも感謝しております。

地元工事も多く手掛け、平成6年花巻市第二庁舎鉄骨工事、平成7年には花巻市総合体育館低層棟鉄骨製作、平成8年には花巻市不動大橋のニールセンローゼ形式の橋梁の主構造を製作、さらにJR田沢湖線雫石新駅の鉄骨工事、平成9年には豊沢ダム取水ゲートの老朽化に伴うスピンドル交換や胆沢第二発電所の水門設備点検などの設備点検業務も行ってきました。

地元のみならず東北や関東までの工事において、それぞれが新しい技術が必要な大型工事であり、勉強しながらの製作、設置工事は大変苦労しましたが、それ故に喜びも大きかったですね。

花巻市役所第二庁舎

花巻市不動大橋（横河ブリッジ様向け）

バブル崩壊から会社が這い上がる時期に現在の社長佐々木史昭氏が入社されました。どんな仕事振りでしたか。

現社長の佐々木史昭さんは平成6年の入社です。昭和61年に東北大学工学部を卒業され住友金属工業に入社、8年間橋梁設計と橋梁製作を手掛けられ、当社に入社されました。入社当時はバブル崩壊が一段落し始めた頃で、会社経営も右肩上がりだった時代とは違っていました。そのような中での入社で、かなりの意欲と覚悟を持って入ってこられたと思いますが、現実との狭間で苦労されたかも知れません。

しかし、会社に新しい風を吹き込んでくれました。第1に前職の住友金属工業時代の実績を活かしての仕事の受注です。先にお話し致しました大型工事の受注などは史昭さんのお力によるものが多かったですね。

第2は受注のあり方が変わり始めました。これまではどちらかというと下請けが主流だったのですが、史昭さんの努力で国や県、そして市の元請工事受注に対して、それまで以上に注力し、受注が出来るようになりました。

平成6年に県の大型工事を3件も受注したことは初めてのことでした。ただ、元請工事が入るようになったこと

岩手県豊沢ダム

現在の岩手県企業局胆沢第二発電所

現在のラック式サーバー

登録証

株式会社中央コーポレーション

JIS Q 9001:2008（ISO 9001:2008）

エイエスアール株式会社

現在のISO9001の登録証

長さ130mを超える花壇

羽黒排水路アドプト協定書

平成18年3月15日

株式会社中央コーポレーション

花巻市

豊沢川土地改良区

アドプト協定書と活動状況

から、資材発注ルートが今までとは異なり、最初は戸惑う事もありましたが嬉しい悲鳴を挙げたものです。

第３はIT技術の導入です。これまで会社のパソコンは事務処理や業務管理に活用していたのですが、あくまで係単位での活用でした。それを１人１台導入し、社内文書の統一化やメールの活用により、仕事の効率が数段上がったと感じたものでした。

そして何よりも会社にとっての大きな貢献は、時代に先駆けて確かな技術習得の取組を行ったことです。先に話しましたJRすみ肉溶接技量資格の取得も、ISOシリーズの認証取得も史昭さんのお力によるところが大きかったと思います。佐々木郁夫社長の考えもあった訳ですが、当社の発展に欠かせない技術力をつけるために率先して事に当たって頂いたと思っております。

仕事も順調で会社も新たな発展を遂げられ何よりですが、近年企業の地域貢献が話題となっています。その点はどうでしょうか。

当社はもともとそのような考え方をもっている会社でありました。私が入社する前から、国道４号線沿い長さ130mにわたる花壇を社員で協力し合って整備し、花巻市の花いっぱいコンクールで何度も表彰を受けておりますし、建設省岩手工事事務所長からも表彰されています。平成10年８月１日には建設大臣から感謝状を、平成14年８月10日には日本道路協会会長より表彰状を頂戴しました。一巡したわけでもないでしょうが、平成23年には花巻市長から、平成24年８月24日には岩手河川国道事務所長より改めて、感謝状を頂戴しております。

また平成18年には、花巻市、豊沢川土地改良区、当社の３者で「アドプト協定」を結び、当社近辺の農業用排水路や水辺の環境整備を行っております。これは年に数回、水路付近の草刈りと水路内のゴミや雑草の除去を社員がボランティアで行っており、地域の一員として、地域の皆様のお役立てばとの思いで毎年続けております。

また、毎年10月４日は当社の創立記念日にあったっていますが、当社が整備をした橋梁に限らず、市内の橋梁の

主だったところを、年により異なりますが 10 ～ 20 橋程度、点検や清掃活動等を行っております。この活動は橋梁整備に携わっている橋梁技術者を抱える地元企業として、当社ならではの地域貢献活動を意識して、2000 年から毎年行っており、花巻市が行っている橋守制度においても全面的に協力しています。

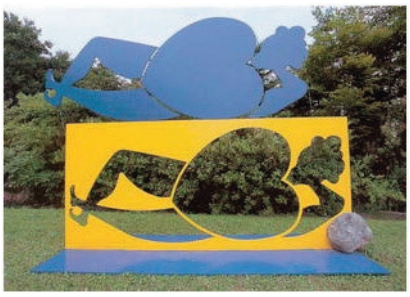
また 400 年を超える伝統を誇る地元の花巻祭りにおいて、当社は独自で毎年御神輿を担ぎ、御輿パレードに参加しております。社員及び関係者等約 100 名あまりの参加者で花巻祭りを大いに盛り上げています。

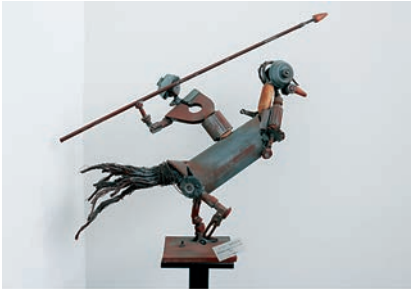
平成 14 年に日韓ワールドカップサッカーが開催された年には、郁夫社長の次女まり子さんが韓国人芸術家李準浩氏と結婚されてニューヨークにお住まいで、日韓共催の気運も高まり、花巻で韓国人芸術家と岩手県の芸術家がコラボレーションするイベント日韓芸術祭が開催され、当社もサポート致しました。実行委員会事務局長を当時専務史昭氏が務めており、著名な韓国人芸術家が当社に 1 週間ほど滞在して当社で社員とコラボレーションし、製作、塗装、現地据付をするという貴重な体験も致しました。

様々な形の社会貢献活動は社会インフラの整備に携わっている地元企業として、地域への感謝を形に表す貴重な機会として、これからも続けられていくことでしょう。

花巻市橋守制度に基づく橋梁の点検・清掃

花巻祭 神輿パレードの様子





2002年 日韓芸術祭の作品

第6章 中央コーポレーション 第三代社長／佐々木史昭

平成15年～現在

現在の本社屋

平成 14 年㈱中央製作所第三代社長に佐々木史昭が就任し、翌平成 15 年に㈱中央製作所と中央建設工業㈱を合併、㈱中央コーポレーションとして新たにスタートを切りました。

合併後は時代の荒波に翻弄されながらも、その時々に応じた最善の策をとり危機を乗り越え、その後一定の成長を見せ、現在に至っております。この間の大きな出来事を項目ごとに記していきます。

社長へ就任した頃の佐々木史昭

合併

当社は平成 6 年から平成 15 年まで、中小企業投資育成株式会社より株式投資を受け、筆頭株主となって頂いておりましたが、平成 14 年に社長に就任した佐々木史昭がその株式を全て買い取り、平成 15 年 5 月 15 日に鉄構事業中心の㈱中央製作所と建築事業中心の中央建設工業㈱を合併し、㈱中央コーポレーションとして新たに再出発致しました。当時、公共事業の大幅削減が続き両社とも業績が低迷しており、さらなる建設業界大競争時代に向け全社の企業力を高め、比較的競争力のある鉄構事業を中心に両事業の相乗効果を図り、2 社それぞれで管理していた経理や ISO のシステムを一本化し、経費削減を図ることを目的としたものでした。この合併は辻・本郷税理士法人様のアドバイスを頂き、合併により旧中央製作所の保有する資産を再評価し、評価差益を自己資本に繰り入れ、自己資本の充実を図ることができるよう、存続会社を旧中央建設工業株式会社にして行いました。

中央製作所から中央コーポレーションへ

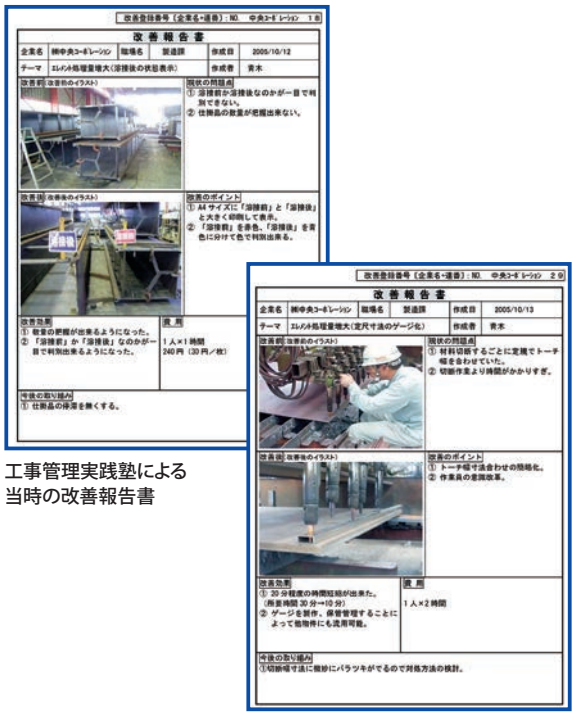
大幅赤字を経験

合併により決算期を 3 月から 6 月に変更したことから、中央製作所の決算終了後 3 ヶ月で新会社中央コーポレーショ

ンの 15 年 6 月期決算を行いましたが、変則決算だったこともあり、大幅な赤字を計上してしまいました。翌 16 年 6 月期はかろうじて黒字を確保しましたが、17 年 6 月期にはさらに大幅な赤字を計上してしまいました。

これは合併後新会社の建設業許可を得るまで時間を要し、2 ヶ月程官庁営業の出来ない期間が生じたことや、合併に伴う様々な費用が発生したこともありますが、何より事業環境の悪化に新会社の収益力がついていかなかったことが原因でした。

こうした状況の中、JR 様向け主に JES エレメントの受注量が増加してきたことから、岩手県が主催する「工場管理実践塾」に参加してトヨタ生産方式を取り入れた原価低減手法を適用し、工場の生産効率を大幅に上げることに成功、徐々に収益が改善して参りました。その後もしばらく公共事業は低迷しておりましたが、民間向けの製作案件で同様の原価低減手法により生産効率を高め、何とか厳しい時期を脱する事が出来ました。



工事管理実践塾による
当時の改善報告書

JESエレメントの製作状況（サブマージアーク溶接）

いわゆる 91 社問題による排除勧告

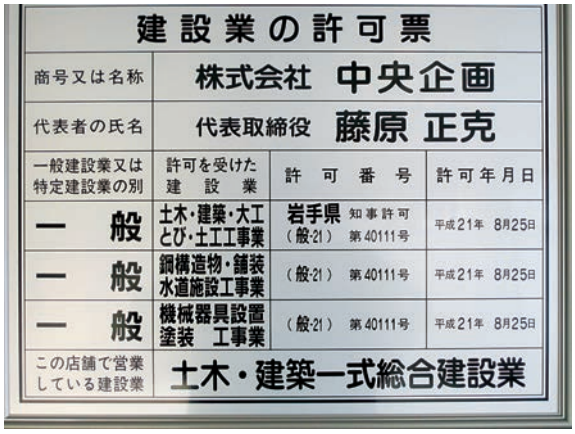
平成 16 年には岩手県建設業協会ぐるみで談合があったとして、公正取引委員会より独占禁止法違反で排除勧告を受けました。岩手県の建設業界のみならず岩手県の経済界全体を揺るがしたいわゆる「91 社問題」です。

平成 13 年度以前の岩手県が発注する建築一式工事の入札において、建築業界で談合があったとして県内建築会社 A 級 91 社全社に対し、平成 16 年 6 月 21 日に公正取引員会より一斉に排除勧告が行われましたが、業界ではそのような事実はなかったとして争い、審判の手続きに入りました。

当時、建築事業は旧中央建設工業㈱にて行っていましたが、平成 15 年の合併によって㈱中央コーポレーションが排除勧告を受ける事になったものです。

平成 17 年の審判開始から平成 22 年の審決まで 5 年の歳月がかかりましたが、審決を受け入れ、即日行政処分を受けることになりました。平成 22 年 3 月から、国交省 2 ヶ月、

出荷前のエレメント



建設業の許可票			
商号又は名称	株式会社 中央企画		
代表者の氏名	代表取締役 藤原 正克		
一般建設業又は特定建設業の別	許可を受けた建設業	許可番号	許可年月日
一般	土木・建築・大工とび・土工工事業	岩手県 知事許可（般-21） 第40111号	平成21年 8月25日
一般	鋼構造物・鋼装水道施設工事業	（般-21） 第40111号	平成21年 8月25日
一般	機械器具設置塗装 工事業	（般-21） 第40111号	平成21年 8月25日
この店舗で営業している建設業	土木・建築一式総合建設業		

当時の中央企画の建設業許可票

藤原正克

新銀 武

花巻市３ヶ月、岩手県６ヶ月、宮城県１年８ヵ月等、長期の指名停止処分を受け、官庁工事の入札に一切参加出来ない期間が長く続きました。

会社が一旦指名停止を受けますと、全事業が処分の対象となり、建築事業はもちろん、主力の鉄構事業においてもライバル他社が入札に参加出来るのに当社だけ参加出来ないという大変厳しい状況がしばらく続きました。指名停止により当該工事の下請受注も制限され、関連会社㈱中央企画で建設業許可を取得し、工場の委託製作の仕事を確保し、工場の操業だけは何とか維持致しました。

当社は談合があったとされる期間に岩手県の建築工事の元請受注は無かったため、課徴金や違約金は発生せず、指名停止期間を何とか乗り切ることができました。

人事刷新と社員の増加

平成 15 年の合併に合わせ、当社としては初めて岩手銀行から OB の藤原正克氏を取締役として招き、経理、財務、総務面の充実を図りました。それまで長年財務、経理事務を佐々木郁夫会長夫人が担ってきましたが、年齢的な面もあり、その道の優れたスペシャリストにより、業務の高度化を進めていこうというねらいでした。

受注高の増加に伴う運転資金の増加や、設備投資用の資金需要が高まるなか、金融機関の取引も安定的に行われ、平成 22 年には当社初の私募債を発行、岩手銀行 5,000 万円、みずほ銀行 5,000 万円を引き受けていただく等、金融機関との良好な関係が一層深まりました。

合併直後、就任したばかりの佐々木史昭社長は 40 歳になったばかりで、厳しい経営環境下で意見対立もあり、ベテラン部長職や営業職の中途退職もあり、混迷した時期もありましたが、残ったメンバーが一致団結してこれを乗り切り、その後採用も積極的に行い、平成 18 年には東北営業所長含め 7 名の中途入社者を採用、その後も営業幹部や技術者の採用を重ね、平成 19 年度末には社員数が 100 名を超えました。

高校、大学新卒者の採用も継続し、経験者、未経験者、U・I ターン者も含めて人物重視の採用を行い、平成 23 年には

技術士資格を有し大手メーカーやコンサルタントで活躍した技術部長新銀武氏を迎えほぼ現在の体制となり、平成27年10月現在社員数は140名となっております。

徐々に黒字体質へ

平成15年、16年、17年と厳しい時代を乗り越え、徐々に黒字体質へと転換した最大の要因は、公共事業の減少を民間向け大型の工場製作案件で補い、工場の生産効率を高め、これを収益へ繋げることに成功したことがあげられます。平成8年に秋田新幹線関連工事が本格化する前、JR東日本土木工事共通仕様書に規定する「すみ肉溶接技量資格」を取得する機会を頂戴し、JR向けの重要鋼構造物を製作できる環境が整ったことが大きかったです。平成12年からは当社にてJES－HEPエレメントを量産することになり、工場が安定稼働できるようになりました。

JESエレメントは、東日本旅客鉄道株式会社様が中心となり、ジェイアール東日本コンサルタンツ㈱様と鉄建建設㈱様が共同開発したJES－HEP工法という線路下に構造物を構築する工法向けの鋼製箱型構造物で、安全、迅速かつ低コストで線路下横断工事（アンダーパス）を施工できることから、開かずの踏切対策等で全国的に採用数が増え、当社は㈱ジェイテック様に継続してJESエレメントを供給しております。平成17年には年間生産量が1000tを超え、生産量が2000tを超える年もあり、その後も順調に生産量が推移しております。

また平成18年頃から当時住友金属工業㈱様向け鋼コンクリート合成床版であるTRC床版の製作が始まり、1ロットが大きいためさらに工場山積みが高まりました。その対策として労働組合と協定し昼夜2交代勤務制度を導入、生産量の増大と生産効率のアップを図りました。今では2交代勤務制度が定着し、クレーン待ちの減少、一日当たり機械設備稼働時間の上昇、残業時間の減少など、生産効率のアップに大きく寄与しております。

従来より、国土交通省、岩手県、花巻市、宮城県、仙台市等主だった官庁から、橋梁、水門、陸閘、スノーシェルター

JRすみ肉溶接技量試験の状況

当社からジェイテック様向けに出荷した
JR東海 中呂エレメントの施工現場

列車荷重が載荷される鉄道橋（塩釜街道架道橋）

テクノストラクチャー チラシ

Q1.0の住宅

増築された花巻市総合体育館（伊藤組様、滝田工務店様とJVで施工）

等の新設、補修、補強工事について一定の実績を有しておりましたが、官庁工事の直接受注割合は 50％を切る程度であり、91 社問題による長期の指名停止対策のため、民間工事のみで生き残れる企業体質を目指し、JR 東日本様、鉄道関連各社様、鉄鋼メーカーエンジニアリング部門様、大手橋梁水門メーカー様、ショーボンド建設様など優良な各種各様のお客様と良好な関係を深めることが出来たことは、まさにピンチはチャンス、当社にとって非常に大きな財産になったと考えております。

建築事業においては、建築の一分野としていた個人住宅分野を住宅チームとして独立させ、当時の松下電工㈱様とテクノストラクチャー工法で提携しモデルハウスを展開、年間数棟ずつではありますが実績を増やしておりました。近年松下電工様との提携を解消し、（一社）新木造住宅技術研究協議会（新住協）の高断熱・省エネルギーの木造 Q1．0（キューワン）住宅を提供、着実に実績を積み重ねております。

公共建築工事も徐々に持ち直し、花巻市発注の大型 RC 構造の集合住宅や石鳥谷消防分署新築工事のほか、大型プロジェクト「花巻市総合体育館増築（建築）工事」を JV にて完成させております。

積極的な設備投資

合併後、生産効率を高めるために設備投資を積極的に行いました。一つは工場敷地の拡張です。それまで工場敷地を分断していた市道の払い下げが出来ないか平成 16 年頃から市当局や農業委員会に相談していましたが、市道には代替道路が必要で、そのためには近隣農地を道路とするしかないが、その場所は農地転用が効かない、という大変やっかいな状況で、なかなか前に進めることが出来ませんでした。

しかし、平成 23 年当時の花巻市商工観光部長高橋穣児様に当社までお越し頂いて現状をご覧頂き、窮状を訴えたところ、地域産業の発展のためならばと県や国への農地転用を強く働きかけていただき、結果農地転用は許可され、代替道路用地を当社が購入し道路工事を行った上で当該市道と等価交換致しました。このことにより、当社は工場敷地

を一体運用できるようになり、仮組立ヤードを約 2 倍の長さ約 150m まで伸ばすことができ、20t クレーンも走行距離を大きく伸ばすことができ、大型構造物の仮組立も容易になりました。材料や製品ヤードも飛躍的に広くとれ、工場敷地全面にアスファルトを敷設し、フォークリフトによる移動も非常に簡単になりました。

平成 17 年には当社敷地の南側に隣接する約 400 坪強の土地を購入し、工事部の資材置き場として活用、敷地の再配置を行い、材料・製品ヤードを再拡張しました。平成 26 年には市道南側約 600 坪の農地を借用して約 130 台分の社員駐車場を移転、工場敷地利用の再配置を行い、復興工事で大型化する製品の保管期間の長期化に備え、さらに材料・製品ヤードを大きく確保致しました。

機械装置類の投資も積極的に行い、平成 20 年には建築部の倉庫であった建物を第 2 工場として活用すべく電源及び天井クレーンを整備し、アルミニウム、ステンレス製品の専用工場としました。またラフタークレーン（自走式クレーン）を従来の 10t から 25t に更新し、門型クレーンが配置されていない工場敷地においても、より重量のある材料や製品の保管が楽に出来る様になりました。このラフタークレーンは自社施工の工事現場はもちろん、社外のお客様にも対応し、フル稼働が続いています。

平成 21 年には NC 大型ガントリー孔明機を導入し、幅 3.1m、長さ 12m までの厚板を精度良く孔明できるようになり、大型橋梁のウェブや鋼床版、合成床版等にフル稼働致しております。

平成 22 年から 24 年までの 3 カ年では中期設備投資計画として、先に述べた中間市道の交換工事に伴う全体敷地の一体化の他、製品ブラスト設備（間口 4m ＊ 4m、奥行き 12m）の専用建屋とブラスト機、集塵機、研削材回収選別装置一式のほか、製品搬出入用台車とレールをいずれも自社設計施工にて整備しました。また塗装用移動上屋 2 基と 5t クレーンを増設致しました。これにより橋梁・水門等に不可欠な重防食塗装の品質管理、冬期間に於ける塗装工程管理が確実になり、粉塵飛散防止など労働衛生環境の改善にも大きく貢献しました。また大型橋梁の製作に必要な 50mm

敷地を分断していた市道

工事部の資材置場で購入した400坪

約130台の駐車場を増設

長さ約150mまで延長されたクレーンヤード

震災直後の沿岸部

被災した水門の調査

瓦礫を取り除き調査が進められる

燃料を求め、中央石油へ長蛇の列

を超える極厚板の橋梁フランジ材の歪み取り設備を自社にて整備、NC ガス切断機を更新、ステンレス・アルミニウム溶接用 TIG・MIG 溶接機を増設致しました。

平成 25 年には波形鋼板専用プレス機を導入し、工場内半門方クレーンを 2 基増設、平成 26 年には工場、事務所の照明を LED 化し、事務所屋上に太陽光発電設備を設置する等省エネ対策も行いました。平成 27 年は 50 周年記念事業「工場リフレッシュ計画」を立案し、劣化しつつあった工場コンクリート床の補修、工場鉄骨の美化再塗装、工場材料搬出入ルートの拡張と製品ヤードとクレーンの延長、ステンレス酸洗設備の新設、工場南面出入り口扉の改修、工場内クレーンの増設等を計画的に進めています。

東日本大震災

平成 23 年 3 月 11 日午後 2 時 46 分、東日本大震災が発生し、大津波が東北地方沿岸部を襲い、数百年に一度と言われる大災害となりました。

震災当初は当社も停電により被害状況も分からず大変な状況でしたが、夕方にはディーゼル発電機を稼働し事務所に電気を確保、テレビニュースを見て初めて被害の大きさを把握し、驚愕したものでした。

即日、社内災害対策本部を設置し、工場の被害状況を確認しましたが、幸いにも大きな被害はなく一安心致しました。同時に岩手県や花巻市と結んでいる災害協定に基づき、当社の担当する道路や橋梁の調査、点検等を実施し、内陸部はさほど大きな被害は発生していないことを確認しましたが、当日は多くの社員が社内に残り、翌日以降の対策を検討致しました。

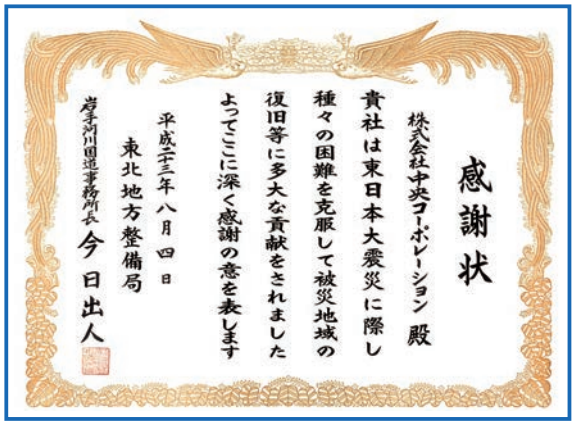
翌日には当社各工事現場の被害状況も判明し、岩手県発注の釜石港須賀地区オイルフェンス巻取機設置工事や大船渡地区水門工事、陸前高田市橋梁補修工事等において、設置済みの製品や現場事務所が津波により流出しましたが、幸いにも人的被害は無く、安堵致しました。発災翌日より岩手県鉄構組合として連携し、岩手県沿岸部の水門、陸閘等数百カ所にわたり、現地の被害調査、応急復旧対応を行い

ました。このことは後の震災復興工事に繋がる岩手県と地元鉄構業界との連携深化の契機となりました。

震災直後はガソリン、灯油等の燃料が品不足となり、当社の関連会社である㈱中央石油のガソリンスタンドにも長蛇の列が出来るなど、まさに非常事態でした。中央石油では在庫と入荷予定を睨みながら、当社はもとより、災害復旧に向かう工事車両への給油を続けつつ、現場の適切な判断により一般車両へも公平に給油を行い、大変感謝されました。

災害復旧の応急対応では、岩手県のみならず、平素から国土交通省岩手河川国道事務所管内北上川水系の水門設備点検整備を行っていることから、いち早く連絡を取り合い、応急対応を実施し、所長様から感謝状を頂戴しました。JR東日本様も平素のお付き合いの延長により様々な災害復旧に対応し、感謝状を頂戴しました。

被災地支援に関しては、混乱の中で社員が支援物資を確保し、お付き合いの深かった大船渡市豊島建設株式会社様を通じ支援物資を届けました。発災時工場ではJESエレメントの製作が最盛期を迎えていて、㈱ジェイテック様、元請会社である大鉄工業㈱様・鉄建建設㈱様、発注者の西日本旅客鉄道㈱様よりそれぞれ多大な支援物資を頂戴し、合わせて大船渡にお届け致しましたが、本当にありがたい出来事でした。本工事については、震災で工場が一時操業停止する事態となりましたが、最終的には工期に遅れることなく、無事JESエレメントを完納できたことから、発注者の西日本旅客鉄道株式会社大阪工事事務所・金沢工事所長様から「大震災による影響下においても工事工程に支障することなく全てのエレメントを良好な品質のもと納入完了されました」として当社宛に感謝状を頂戴致しました。


感謝状

株式会社中央コーポレーション 殿

貴社は東日本大震災に際し
種々の困難を克服して被災地域の
復旧等に多大な貢献をされました
よってここに深く感謝の意を表します

平成二十三年 八月 四日

東北地方整備局
岩手河川国道事務所長 今 日出人

国土交通省東北地方整備局 岩手河川国道事務所長様からの感謝状

集められた災害支援物資

感謝状

株式会社中央コーポレーション 殿

貴社は当工事所が施工監理する道路ボックス新設工事に使用するエレメントの製作に尽力され平成二十三年三月十一日の東日本大震災による影響下においても工事工程に支障することなく全てのエレメントを良好な品質のもと納入完了されました
これは日頃の業務に対する高い意識の現われでありその取り組み姿勢に敬意を表するとともに深く感謝の意を表しここに感謝状を贈呈します

平成二十三年五月二十七日
西日本旅客鉄道株式会社
大阪工事事務所 金沢工事所長
栗林 賢一

西日本旅客鉄道株式会社様からの感謝状

災害復旧・復興工事

未曾有の災害となった東日本大震災の復旧・復興のため、当社は直ぐにでもお手伝いしたいと思っておりましたが、しばらくは瓦礫撤去が中心であり、出番のない期間が続きました。

しかし、JR八戸線に関しては、JR東日本様で現状復旧

当社工場で補修されたJR八戸線大浜川橋梁

JR東日本様による大浜川橋梁の検査

完成した岩手県大船渡綾里地区災害公営住宅

送り出し架設中の川口橋（横河ブリッジ様とJVで施工）

須賀12号陸閘の走行実験（丸島アクアシステム様とJVで施工）

し、至急運行再開させる方針が決定し、JR 八戸線宿戸・陸中八木間大浜川 B 橋桁は、津波により流出した既設桁を改修・再利用するため、平成 23 年 7 月、JR 盛岡支社様、盛岡土木技術センター様、ユニオン建設株式会社様を通じ、当社にて補修・製作を行うことが決定しました。本工事は大正 14 年に製作されたリベット構造の鉄道桁を、健全な部分は再利用し、そうでない部分は新たに溶接構造で製作し、HTB で一体化し、現地に架設するという非常に難易度の高い工事でした。当社技術部において被害状況調査、補修計画、詳細設計を行い、JR 東日本構造技術センター様と何度も協議を重ね、何度も検査にお越し頂きましたが、無事製作、架設が完了し、平成 24 年 3 月に予定通り全線開通することができました。マスコミに震災復旧の象徴とし何度も取り上げられ、全国の橋梁技術者向けに土木学会鋼構造委員会に報告され、橋梁技術専門誌「橋梁と基礎」の平成 24 年 8 月号に大きく掲載されました。

平成 25 年には岩手県発注の「災害公営住宅（大船渡市綾里地区）新築（建築）工事」において RC 造 3 階建て全 30 戸の集合住宅が設計施工一括コンソーシアム形式で発注になり、当社を含むコンソーシアムが第一候補となりました。着工まで延び延びとなり、セメントなどの資材不足、鉄筋・型枠工に代表される技能工の不足など、工期管理、原価管理に大変苦労致しましたが、契約通り平成 27 年 3 月に無事完成させ、復興に貢献することができました。

橋梁、水門関係の復興工事は平成 26 年 1 月頃から本格的に発注が始まり、平成 26 年 3 月に岩手県発注「二級河川盛川筋塩場地区河川災害復旧川口橋上部工工事」を㈱横河ブリッジ様との特定共同企業体で受注し、これまで 3 径間連続鋼箱桁の送り出し架設を無事完了し、現在床版工事中で平成 28 年 3 月の完成予定となっております。

水門・陸閘工事では平成 26 年 3 月に岩手県発注「釜石港須賀地区ほか海岸災害復旧陸閘設備ほか工事」を㈱丸島アクアシステム様との復興 JV で受注し、もう 1 件大船渡地区で施工中であり、それぞれ平成 28 年 3 月、平成 29 年 3 月の完成に向け工事を進めております。

また㈱丸島アクアシステム様とは大型の WTO 物件で特定

共同企業体を構成し、「二級河川大槌川筋大槌の１地区ほか河川災害復旧水門設備工事」、「二級河川鵜住居川筋鵜住居地区河川災害復旧水門設備工事」、「二級河川甲子川筋甲子川水門設備工事」の３件を平成31年３月までの工期で進めております。

また特にここ数年、工事完成後に各発注者より頂戴する工事評点が非常に高得点となるケースが増え、優秀工事表彰を受賞する事例も多くなっております。平成25年11月には国土交通省三陸国道事務所より「畳石跨道橋補強工事」において安全優秀工事表彰、平成25年12月には岩手県より「向山スノーシェルター更新工事」において優秀工事表彰、平成26年７月には国土交通省岩手河川国道事務所より「北上川上流機械設備修繕工事」において優秀工事表彰、平成27年９月には岩手県「長沢川橋梁製作架設工事において」国土交通省東北地方整備局SAFETY表彰を受領いたしました。

東日本大震災の復旧復興工事においては、これまで岩手県内では経験したことのない大規模な水門、陸閘、橋梁工事が発注され、岩手県に本社のある当社は県外の大手企業各社さんと共同企業体を構成するなど、大変良好な関係を築きながら、工事を担当させて頂いております。このことは岩手県知事達増拓也様を初めとする岩手県関係者ほか多くのみなさまのご理解とご尽力の賜であり、今後地元企業として末永く、岩手県民を守る社会インフラが健全に機能するよう、全力で整備を続けていく所存であります。

国交省 三陸国道事務所より安全優秀工事表彰を受けた畳石跨道橋

岩手県より優秀工事表彰を受けた向山スノーシェルターの施工状況

製作中の岩手県小鎚川水門（丸島アクアシステム様とJVで施工）

シェル構造サーニットゲート

純径間	25.5m
有効高	3.81m

人を活かす経営

当社社員は圧倒的に地元の方が多く、入社されるにあたり既にレベルの高い技術・技能を保有している人は希ですが、その一方岩手県人らしく真面目で、派手さはありませんが、ひとたび取り組むと諦めずに最後までやり遂げる、という職人気質の方が多いように思います。当社ではそのような貴重な人材を磨き、成長してもらうため、様々な取り組みを行っております。

ひとつは積極的な社内勉強会の開催です。例えば、土木

施工管理技士受験のため、平成８年頃より毎年社員資格保有者による社内勉強会を開催して参りましたが、近年は顧問契約をしている有識者による勉強会を毎月開催し、平成25年度は１級３名、2級3名、26年度は1級2名、2級１名が合格しています。平成７年には１級５名、２級９名の有資格者でしたが、平成17年には１級21名、２級11名、平成27年は１級36名、２級14名となり、継続は力を実感しています。この有資格者の多さが復興工事における官公庁工事の入札・受注に大いに貢献しております。

特に近年、更に高度な技術を担う技術者の育成に取り組み、技術士及び技術士補の受験にチャレンジし、現在それぞれ１名、５名の資格保有者がおります。また土木学会や研修会、専門誌等で発表する機会を設け、業界に技術力を問うて技術力のPRにも努めております。

技能の修得においては、社内に溶接練習場を設置し、自分の時間で自由に練習できる環境を整え、年間計画をたて、若手にはベテランが個々に指導を行っています。毎年、岩手県溶接技術競技会へ出場する代表選考会を行い、全体レベルの底上げを図っています。岩手県溶接技術競技会において、当社はここ数年めざましい成果をあげており、平成25年度は半自動の部で菊池淳哉君が優勝、26年度は藤原裕城君が１位タイ、27年度はアークの部で佐々木国彦君が優勝と、３年連続で全国大会出場を果たしています。

前述のJRすみ肉溶接技量資格は３年に１度JRの規定する更新試験を受けなければならず、当社は平成８年以来７回連続して更新を続けております。この試験は大手橋梁メーカーでも合格率が低い大変難しい試験ですが、当社では数年単位で計画的に更新試験対策を行い、ここ数回は30名前後が挑戦し、直近の平成26年には13名が合格しました。しかもこの13名の平均年齢は31.８才でした。おそらく、これだけ若いすみ肉溶接技量認定者がいる鉄構会社は全国的にも珍しいのではないかと、密かに胸を張っております。

鉄工技能士にも毎年挑戦し、平成25年には１級１名、２級４名が合格、26年は２級２名が合格し、平成27年現在１級13名、２級26名の有資格者がおります。同じように平成７年には１級８名、２級11名でしたので、20年

土木施工管理技士保有者数

級	平成７年	平成17年	平成27年
１級	５名	21名	36名
２級	９名	11名	14名

溶接練習場での新入社員への指導

岩手県溶接技術競技会結果

平成25年	半自動溶接の部	優　勝	菊池 淳哉
26年	半自動溶接の部	1位タイ	藤原 裕城
27年	アーク溶接の部	優　勝	佐々木 国彦

鉄工技能士保有者数

級	平成７年	平成27年
１級	８名	13名
２級	11名	26名

間の地道な努力の成果が出ていると思います。

安全衛生の管理も力を入れています。社長を委員長とする安全衛生委員会を毎月実施し、経営層による工場巡回は毎日、工事現場の安全パトロールは毎月実施するなど、年間安全衛生管理活動計画に基づき、社員、関係者全員で、無事故・無災害を達成すべく取り組み、平成 19 年 6 月から平成 26 年 9 月まで 7 年 3 ヶ月間、連続無災害記録 200 万時間超を達成しました。これは本業界においては厚生労働大臣表彰に相当する価値があるとのことでしたが、残念ながら平成 26 年 10 月に工場内で事故を起こし、記録をストップさせてしまいました。その後、再び無災害記録を継続しておりますが、終わりのない地道な活動を続けています。5S 委員会を組織し、本社工場内の整理、整頓、清掃、清潔、躾に毎日時間を決めて全員で取り組み、清潔で明るい職場作りに努めています。

店社安全パトロール

新技術への取り組み

これからの社会資本整備においては、新設する以上に、既設の橋梁、水門、陸閘等をどう維持・修繕し、長寿命化に繋げていくのかが益々重要になって参ります。当社は、数ある鋼構造物の製作・現場の経験から、現場において社員直営でブラストを行い、現場溶射施工を行う中で、これまで金属溶射の封孔処理において問題となっていた箇所を改善した「省工程厚塗り対応型金属溶射工法」で平成 25 年 7 月に岩手県様から新技術の認定を頂戴し、その後さらに発展させ「金属溶射の塗装工程省力化工法（SIC 工法）」で平成 27 年 1 月に国土交通省から NETIS 登録（TH-140010-A）の認定を頂戴しました。鋼構造の現場に相応の技術者がいるからこそ気が付く新しい技術をこれからも産み出し社会に貢献出来る様、努力を続けて参りたいと思います。

岩手県新技術から発展させ、NETIS登録して防食技術

終わりに

当社は中央製作所時代は「貴為和以（和を以て貴しと為す）」を社是とし経営しておりましたが、平成 15 年中央コー

現在も役員室に掲げられる中央製作所時代の社是

ポレーションとなり、新たに経営理念として「顧客第一主義、鋼と建設の高度な技術で社会に貢献します」を掲げ、

①顧客の生涯の最大化を目指します

②社員及び関係者の物心両面の幸福を目指します

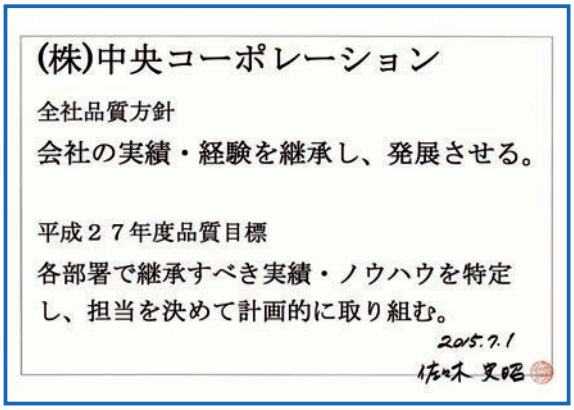
③グループ企業の永続的発展を目指します

の三方良しを目指す基本方針を明確にしました。

その肝は、旗を掲げて社員の向く方向を同一にし、個々の能力を引き出し、働きやすい環境を整え、風通しをよくし、日々の改善を継続する、これに尽きるのではないかと思います。それを全社で見える化してマネジメントプログラムにまとめ、各部署で立案実行し、毎月社長に個別報告し、レビューを受け、再アクションを行うという PDCA サイクルを確実に回しています。これが当社のエンジンであると思います。

これからの時代がどのように変わっていくのか全く予想も付きませんが、岩手という土壌で、岩手県人を主力とした社員及び関係者と共に、その時代の最前線で変化を感じ、当社なりの最適アクションを日々とり続け、これを継続してまいりたいと思います。

株式会社中央コーポレーションは、これからもみなさまの大切なパートナーとして、末永く、共に発展を続けて参りたいと思います。これからもご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。


(株)中央コーポレーション

全社品質方針

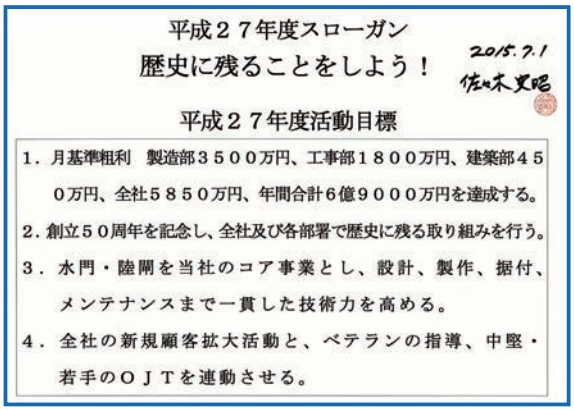
会社の実績・経験を継承し、発展させる。

平成２７年度品質目標

各部署で継承すべき実績・ノウハウを特定し、担当を決めて計画的に取り組む。

2015.7.1

佐々木 文昭


平成２７年度スローガン

歴史に残ることをしよう！

2015.7.1

佐々木 文昭

平成２７年度活動目標

1. 月基準粗利　製造部３５００万円、工事部１８００万円、建築部４５０万円、全社５８５０万円、年間合計６億９０００万円を達成する。
2. 創立５０周年を記念し、全社及び各部署で歴史に残る取り組みを行う。
3. 水門・陸閘を当社のコア事業とし、設計、製作、据付、メンテナンスまで一貫した技術力を高める。
4. 全社の新規顧客拡大活動と、ベテランの指導、中堅・若手のＯＪＴを連動させる。

Archive Ⅰ

【講演録】

創業社長 高橋吉助の講演より抜粋（昭和58年1月23日 於 花巻鉄工会）

（前略）

私のおじいさんは大沢で生まれております。12、3歳のころだと思いますが、大工になろうと思って大工奉公をしたわけですが、その先は鬼柳だったそうです。まず花巻からそこへ行く、それは相当有力な偉い師匠さんだったろうと思います。

（中略）

合計13年いたそうです。一生懸命やったに違いないのですが、これであればどこへいっても引けを取らない、大丈夫だからまずやってみろと返されてきた。その時30歳位だと推定しますが、（中略）花巻のどこかで独立して仕事を始めた。かなり急速に認められ数年の後、はっきりわかりませんけれども花巻のお城、御用大工の棟梁に選ばれたそうです。腕が良かったと思うし、前に居た人が年取って死んだとか何かがあって推薦されたようでありますが、私の親父から聞いたのは年俸、その当時武士と同じように100人扶持を貰ったそうです。100人扶持を全部自分で使うわけではありません。大工さんたちはもちろん、左官さんとか、石屋さん、屋根屋さん、そういったものに関連のある職人を100人くらいいつでも声を掛けたらすぐに集まる体制を作っておかなければならない責任がある。だから仕事をさせなくてもある程度の手当てをくれて、お城のご用のあるときはすぐ来てください、何を取りおいても行きます、という状態にして自分はやっと食べられるだけを頂戴し、出来るだけみんなでやらなければお城のご用は務まらないわけだから、そういう体制を整えていたそうであります。明治5年の廃藩までその状態で務めていました。

明治5年には皆さんご存知のように花巻は南部藩の出先、当然盛岡の南部藩も朝敵になったために役にも付かないでお城は解体させられ、現在もありませんが、花巻でもそれと同じになって、建物を解体して、解体した木材を町の人たちに柱一本いくら、として払い下げをしたそうです。お城に使うような立派なものではなかったそうです。建物は全部で、小屋とか倉庫、武器、弾薬の倉庫とかいろいろあって14棟あったそうです。本丸ともいうべきものは2階作りで頑丈な小屋、といったような造りであったようです。

（中略）

そして明治5年に私の父親常吉が生まれたわけであります。（中略）私の兄貴は皆さんもいくらかご存知かと思いますが、幸助（こうすけ）といいまして、その次は直助（なおすけ）、その次は良助（りょうすけ）、4番目の吉助（きちすけ）、その次は女、6番目で五男の泰助（たいすけ）が生まれております。この子供を育てるのに一介の職人ではだめだという親父の考えで、何か副業ということを考えて花巻の石神に自分の手で出来る、その当時動力といえば水車でしたから水車小屋を作って副収入を図ったわけです。私が学校を卒業したのは大正7年ですが、私が1年生の時に向う（石神）へ移りました。その時はまだ電気は無かったのですが、まもなく大正5年に電気が出来まして、動力は電気になって、水車じゃなくても米もつけるし製材もできる。その当時の精米機は杵ですが、丸鋸を引っかけて製材を行う、たいした評判で最も新しいやり方でした。

（中略）

私の母親は台におりました。おじいさんの弟子で

佐々木新蔵というものが居て、その人の３番目の長女を（父の常吉は）嫁にもらいました。弟子の娘を自分の次男にもらった。その佐々木新蔵という人は、人柄も良く非常に腕の良い人で明治 14 年に明治天皇が東北巡行の際の行在所を建てました。（中略）総檜でとても吟味した建物だったそうですが、大きさは証拠がなくてわかっておりません。それが明治 22 年の火災で焼けてしまいました。それはたいした吟味したものだったそうであります。

（中略）

ところが新蔵の長男の政吉は、安野の橋を請負い、すっかり損してしまった。その時は 30 才前後だったと思われますが、その当時花巻で県工事が出来る人はそれしかいなかったのです。（中略）どうして損したかといいますと、その当時向うから来た官選知事でお上から指名されて来る南の九州あたりから来た人で岩手県知事になって来て、それの子分が一緒に来ていて、その人が請負をしてその下請けをしたというわけです。

（中略）

かなり資力がなければできなかったわけです。新蔵という人はいくらか産があってやりくりが利く、信用もあったものですから、材木などは後回しでもいい、私の母親の兄貴、新蔵の長男政吉が請負したのです。すっかり出来て検査も合格、検査を合格すればお金が下がるわけですが、直接受け取るわけにはいかない。検査合格して直ちにその人は盛岡の旅館に時々来て泊まって、出来たころはもちろん来ていたのでしょうが、出来ていたために金を全部下げて、そのまま九州へ行ってしまったというのです。

（中略）

金をひとつも貰わないで親父の信用とか、まとめたのに一銭ももらえないでしまった。それでも親父は仕方がないと全部資産を売り払って、地元の人たちに迷惑をかけてはいけないというので屋敷だけ残してきれいに支払ってくれたそうです。そういうのが長男だったわけです。

その弟で、喜三郎は風流人、骨董屋で陶器や掛け軸を商いする人であったそうです。

喜三郎というのは私のおじさんになりますが、やぶやの初代佐々木圭三の父親であります。

（中略）

機械大工といったような私の親父が、主にもちろん大工でしたから木造が中心でありましたけれども、これからの機械は木ではだめだ、鉄でなければ機械にならないというので鉄を勉強した方がいいと言われましたので、私の兄貴、弟、協議いたしまして、早速旋盤１台買いました。６尺旋盤でしたが、中古品でさえも花巻にはどこにもありませんでした。もちろん新品ですが 180 円でした。

（中略）

昭和 13 年に父親が死んだというので直ちに帰って来ました。（中略）

葬式を済ませてまた３人でやりましょうと昭和 15 年に有限会社花巻鉄工所を作りました。今の建築の工場の所に経済連がありましてその隅に昭和 15 年に 200 坪の土地を買い、鋳物工場、機械工場全部を兼ねた 120 坪の建物を建てそこで始めました。

（中略）

現在の場所 3,000 坪を借りたいがとても借りられるものではないと言われましたが、前からお世話になっている相庄さんの旦那さんに頼みました。旦那さんとは昨年２月に亡くなった人のお父さんです。（中略）旦那さんと一緒に地主の宮善さん、梅とうさん、高橋豆腐屋さん、阿部さん、小原元二さん、その他いろいろありますが１日で全部借りました。若い者が

工場を建てるそうだがお宅の土地をお借りしたい、こいつは高常の息子だとの口添えがあり1日で全部借りることが出来ました。工場の配置は私が中心になって作り、昭和18年に1年で14棟作りました。

（中略）

18年に工場を建てましたが、その当時戦争がだんだん激しくなって食料も兵器と同じくらい大事だと国の政策で秋田県、岩手県と農機具を確保する工場を持たなければならないという法令ができ、県では岩手県農業会に言いつけてうちの工場を買いたい、買うけれども運営は任せる、仕事は減らさないように絶対やる、資金も必要であれば出す、農業会で工場を持たなければならない、借りたのではだめだ、という話がありまして、売ることにしました。無料で使えるし、国策なので、国のために働かなければならない時代でした。

（中略）

作ったものは足踏み脱穀機、馬耕、馬で引く鋤（すき）、これもずいぶん作りました。その当時県内配給でしたから、大型トラック2台あって資材の配給、製品の搬出等をやりました。

（中略）

その間、釜石製鉄所や日立製作所の協力工場になりました。釜石製鉄所からは艦砲射撃されることを予想していろいろな部品を頼まれる、空貨車のある時は製鉄所で作った平鉄、丸鉄、コークス、石炭をどんどん送って来て山盛りにしておりました。終戦と同時に全部もらうことになり、釜石より作っているのは平鉄と丸鉄だけで鉄板類は作っていませんでしたので、たいした恩恵はなかったけれども、物と交換して利用することができました。そうして終戦となって徴用で向うへ行ってきた人たちが帰って来て、腕ができていない人たちでも、人が欲しかったためにどんどん入れて、180人ばかりになりました。

終戦後に労働争議ができ、とても今のようではなく、悪質な労働組合で、その人たちのスローガンは工場を潰すのが目的で、何でもかんでもよこせ、よこせ、作ったものはろくなものではないから金も入らない、働かなくても賃金は優先である。月末になればもちろん払うのですが、釜石からよこされた資材が山のようにあってだいたい2,000トンありました。それを売って賃金を払うということを繰り返していたのですが、ただ居れば山をも食いつぶす、というようにたちまちに無くなって、工場を抵当に入れ、機械を抵当に入れて、金を借りて払う。実に経営者としては全くで、その人たちに応対するだけで、どうしてこうしようかという頭も廻らず、仕事もしなければならない、押され通しでたちまち破産ということになりました。それが昭和24年になります。

破産と同時に兄貴もこういうことは駄目だ、弟も銀行に借金が残り払っていかれなくなりましたが、私はやってやると思いました。なぜかというと、そうでなければ食べていかれない、ということは弁当持って手間を取ることが、私にはできなかったからです。

（後略）

―以上―

Archive Ⅱ

【講演録】

第二代社長 佐々木郁夫講演より（昭和55年10月4日弊社創立記念日あいさつ）

創立 15 周年の記念日にあたりまして一言ご挨拶を致します。昭和 40 年 10 月 4 日会社が設立されましてから 15 年が経過致しました。早いものでいろいろ遡って考えてみますともう 15 年経ったのかと思うような、光陰矢のごとし、という感そのままの感じでございます。昭和 26 年に会長が会社を興してからは 29 年になるわけですけれども、会社が正式に株式会社として設立されてから 15 年ということでございます。

（中略）

この工場が出来ましてから 13 年にならんとしています。最初に手をかけてからという意味ですが。それが最初の 5 年計画で一部出来上がり、さらに次の 5 年計画でそれに増設されて、途中で不況になって挫折をして、まだ完成を観ていないわけです。しかしこれらからさらにいろいろ計画を練り直して、もう少し働き良い職場にしなければならない、そういうふうに考えております。

（中略）

ここで皆さんにお願いしたいことは、企業は常に存続していかなければならないと思いますし、またそうでなければならない、途中で挫折してしまうようなことではいけない訳であります。ところが世の中は、どんどんどんどん進歩しますし、いろいろな変化が出て参ります。その変化についていけなければ、人後に落ちて、企業は消えていかなければならない、そういう運命にある訳であります。私共は 15 周年を迎え、日本の企業の平均寿命に達したところで、改めてこの先ずっと永続的な企業でいられるように頑張ることを、皆さんと共に誓いたいと思います。その為に必要な事はなんだろうか、ということを考えてみましたら、こういう事ではなかろうかと思います。これは私自身にも、皆さんにもよく考えながら日常の作業に取り組まなければならないことだと思いますが、その道のトップであれば、業界であれば、あるいは鉄構業界であれば、その鉄構業界の技術的にも内容においても、どの点からみても、一番優れた企業であれば、これは世の中が必要とする企業という事ですから、どこまで行っても消えることはないだろうと思います。その為に必要なことは、それぞれの立場で、自分の取り組んでいる仕事のエキスパートになる事であります。どこから見てもプロとして通用する、そういう技術を身に着け、仕事に取り組む、そういう姿勢が一番大切なのではないか、こういうふうに考えます。

（後略）

元岩手県知事、増田寛也氏と佐々木郁夫社長

Archive Ⅲ

【2015年正月年頭の辞】
第三代社長 佐々木史昭（平成27年1月5日）

1. はじめに

まず初めに社員のみなさん、そして協力会社のみなさんが全員そろって穏やかに新年の仕事始めを迎えることができますことを大変うれしく思うと同時に、心より御礼申し上げたいと思います。㈱中央コーポレーション、そしてみなさまにとりまして 2015 年がよりよい年になりますよう心よりご期待申し上げます。

私は社長としてみなさまにお話をする機会が多く、そのほとんどは仕事に関する事となっていますが、お正月の年頭のあいさつにつきましては、仕事を少し離れ、世界の潮流、日本の現状、今後の見通し等について、私なりの考えを述べさせて頂きたいと思います。どうぞ気楽に聴いて頂ければと思います。

2. 予断をゆるさない東アジア情勢

まず初めに、今や世界で最も不安定な地域の一つである東アジアの状況です。中国は共産党一党独裁の共産主義国家であり、習近平氏は共産党総書記に加え、中国国家主席、さらには人民解放軍総司令官にも就き、中国の権力基盤をほぼ掌握したようにみえますが、その裏で江沢民の金庫番であった周永康の摘発や前指導部の胡錦濤との権力闘争などまだまだ続いており、中国経済が失速し、バブル崩壊が起こり、民衆の暴徒化が止められなければ、最悪、中華人民共和国は人民解放軍のある７つの大軍区毎に分裂し、中華共和国連邦となり、台湾は８番目の中華連邦国家になると言われています。

また北朝鮮の独裁者金正恩は核兵器開発に邁進し、国際社会最大の懸案事項となっていましたが、2013 年 12 月に長年血盟を結んでいた中国との最大の架け橋であった張成沢を公開処刑して習近平の怒りは極限に達し、習近平は金正恩を切る決心をしたと伝えられています。中国の後ろ盾を失った北朝鮮には崩壊が現実のものとなりつつあり、米国と中国は北朝鮮の崩壊をどう軟着陸させ朝鮮半島を安定化させるかについて何度も話し合っています。韓国はアメリカの同盟国家ですが、朝鮮民族として歴史的に中国に対しアレルギーが少ないこともあり、昨年のパククネ大統領の状況をみているとどうやら韓国は米国より中国を頼みにしようと考えつつあるようです。

北朝鮮は、米国、中国、韓国、ロシアから愛想を尽かされ、昨年春から夏にかけて日本にすり寄って来ましたが、安倍晋三総理大臣も拉致問題を解決する絶好のチャンスと平壌訪問まで計画しましたが、アメリカから勝手なことをするなと諌められ、小康状態に陥っているのが今の状況です。

いずれ北朝鮮の崩壊は時間の問題であり、日本にとっては、同じ民主主義の価値観を有する韓国が、米国と日本の後ろ盾を受けながら朝鮮半島を統一し中国に対峙するのが最も好ましい状況ですが、どうもパククネ政権は反対の動きをしているようで、逆に朝鮮半島が中国寄りの政権によって統一されると、日本は反アメリカの国家体制と最前線で向かい合う形となり、安全保障上最も思わしくない事態に陥ってしまいます。沖縄の米軍基地問題はグローバルな安全保障体制全体の中で米国が判断をするのであり、沖縄基地問題が沖縄県民の民意だと言って国内で解決できると思っていること自体が世界を知らないということであり、民主党政権最大の負の遺産と言えると思います。沖縄はむしろ中国、台湾、東南アジアに最も利便性がよく、民主的価値で自由に行動できる特長を活かし、アジアの交流基地として生きる道を

選択すべきだと思います。

3. 日米の累積債務とアベノミクス

2008 年にリーマンショックが起こり、欧米各国は資本主義の危機を回避すべく国家が民間金融機関に莫大な財政出動を行いました。その結果経済危機は回避しましたが、ジャブジャブマネーが世界に溢れ、ユーロもドルも円も不安定な状況が続いています。アメリカ連邦政府の財政赤字は 2000 兆円にも達し、昨年 3 月連邦議会が債務上限引き上げに同意して危機は回避されましたが、長期金利がわずかに上がっただけで年間数 10 兆円ものお金が利払いで必要となり、長期金利が上がらないよう米国政府は必死です。第 1 次安倍晋三内閣は米国との関係を改善してアベノミクスを行い、日銀に円を大量に発行させ、米国国債を購入して円安ドル高を実現、日本の輸出企業も大幅な利益を上げることができ、日本の公的年金運用独立法人に日本株への重点投資を行わせて株高も演出し、さらに積極的な財政出動によりデフレ脱却を演出したところまではよいとして、消費税導入のショックを日本経済が思いの外引きずっていること、経済成長戦略に目立った成果が上げられず、円安により輸入金額が増加する弊害が目立ってきているなど、いよいよ正念場を迎えています。

政府の累積債務問題については、アメリカ人はこれらを真面目に返し続けようと考える人たちではありません。どのように合法的な方法でこれらを一掃するのか、戦略的に世の中をどう変えていこうかと考えるのか彼らの思考回路であり、ネオコンと言われる人たちは、これを戦争により行おう!借金をなきものにしよう!とチャンスをうかがっている方々です。オバマ大統領やバイデン副大統領はそのような考え方とは一線を画していますが、オバマ大統領は 2014 年秋の中間選挙で大敗して上下両院で過半数を割り込んだ状況ですので、残り任期の 2 年は大きな政治判断は難しいと思われます。

アメリカも決して一枚岩なのではなく、色々な勢力があって、米国内の民主的な選挙の結果、どのような世界観を持った方がリーダーとなり、どのような方針で国際政治のリーダーシップを取っていくのかが、結局日本には最も影響が大きいようです。日本は長年、自民党政権によって対米追従の政治が行われ、経済成長してきましたが、選挙により対米追従でない政権が出てきた場合、米国の意向か、官僚か、マスコミか、それ以外の勢力はわかりませんが、結果的に田中角栄、橋本龍太郎、小沢一郎、あるいは「米軍基地は最低でも県外」と明言した民主党政権が短命で終わったのは決して偶然でないように思います。

4. 第3次安倍晋三内閣の行方

2014 年 12 月に行われた衆議院選挙で自民党安倍晋三政権は大勝し、2018 年まで政権を担う権利を得ましたが、中国、米国、韓国などと比較して国内基盤の強い政権をもてたことは、日本にとっては大変よいことだと思います。民主党政権の 3 年間で、中国、韓国、ロシアなどの隣国から一斉に尖閣、竹島、北方領土などの領土問題をふっかけられたことは記憶に新しいところであり、やはり日本の政権は強くなければいけません。アベノミクスも強い政権でなければ実行することはできなかったのであり、株価があれだけあがらなければ各業界の年金基金などはどうしようもなく、株価が高いうちに解散するのが最善な方法と言えます。しかしアベノミクスによる官製バブルはそう長くは続きません。時間を稼いでいる間に、地方再生、経済再生を成し遂げなければ、本当に日本はアジア辺境の貧乏国家になってしまいます。2017 年に消費税は 10％に上がり、法人税は下がり、利益が出なくても払わなければならない外形標準課税を課すという新たな税制は、普通の中小企業にとっては大変厳しい施策です。個人的には反対ですが、グローバル経済に背を向けて日本経済がやっていけるわけでなく、グローバル企業に活躍してもらうための施策とは別に、地域の中小企業がしっかりやっていける施策をしっかり考えていただきたいと思います。

5. 冨山和彦氏「GとLの経済の違い」

冨山和彦氏は以前より著書を読んだりCDを聴いたりしていましたが、昨年は「なぜローカル経済から日本は甦るのか～ＧとＬの経済成長戦略」という冨山和彦氏の著書が評判になり、11月に岩手経済同友会に講師として来られ私も２時間の講演を聴き、懇親会でもお話させて頂きましたが、非常に端的に日本の現状を表していると感じました。冨山氏は東大卒業後司法試験合格、ボストンコンサルティンググループに入社し社長を務められ、2003年４月から産業再生機構の設立に参画されCOOに就任、ダイエー、カネボウ、大京、鬼怒川温泉、玉野総合コンサルタントなど大小41社の再生を手がけられました。2007年には株式会社経営共創基盤の社長に就任し、岩手県北バスなどの再生も手がけています。いわばグローバル企業とローカル企業の両方の経営と再生を経験されてきた方で、ＧとＬは根本が異なるので、明確に切り分けて考えなければならないとおっしゃっています。グローバルで競争する企業は世界標準の環境でグローバルな切磋琢磨をしつづけさせなければならない一方、地方においては、現場主義により１社１社異なる処方箋をつくり、労働生産性を高めるための施策を日常的に行い、緩やかな退出と集約化により寡占的安定と作りだし、地方の中小企業が利益を出し、雇用の受け皿となるようにしなければならない、ということをおっしゃっています。その通りだと思います。

6. 増田寛也の「地方消滅」

また、増田寛也の「地方消滅」は2014年に日本社会へ最大の衝撃を与えた一冊でした。人口動態は非常に確度の高い予測が可能であり、2014年に１億2700万人の人口が、このまま手をこまねいていては、2050年に１億人を切り、2100年には5000万人を切り、出生率を今すぐ１．４→１．８にしても、将来的な人口が１億人を割ることは避けることはできず、東京でさえ人口が減る時代となると警告してます。東京一極集中は地方の過疎化を進めると同時に、出生率１．２を切っている東京であるがゆえ、ダブルパンチで少子高齢化を進める悪循環となってしまっている。地方で良い仕事に就いて余裕をもった生活を送り、結婚をして子どもを産み、家族と共に地方の生活を楽しむ、このことが日本社会全体で求められていると論じています。当社はこの点についても、責任を果たしていかなければならないと感じます。

7. ホットスプリグスの人材育成戦略

この２年間私は花巻国際交流協会の理事長をさせてもらい、ホットスプリングスの姉妹都市コーディネーター、姉妹都市交流基金の理事長、地方銀行の頭取、大手年金運用会社の責任者、ホワイトハウスに勤務したことのあるサイバーセキュリティ会社のCEOなど、経済界の中心的な方々と良い交流をさせて頂きました。そのお付き合いから彼らの思考回路が非常に戦略的であり、遂行能力に富み、まさに覇権国家たるアメリカ人的であると非常に感心しています。彼らは地域の将来を真剣に考え、派遣プログラムに本当に優秀な学生を選び、花巻を訪問させて異文化を体験させ、その後ホットスプリングス姉妹都市基金の理事会に学生理事として参加させ、全米姉妹都市協会の学生理事に立候補させるなど様々な経験をさせ、将来はホットスプリングスへ戻って地域へ貢献してもらうような人材育成を行っています。都会が住みにくいと考える感性は米国人は日本人と同様でした。地域経営とは人材育成そのものであり、長期的視野に立って戦略的に行っているのがさすがです。地域の総意で行われるというよりは、トップの方々の話し合いにより行われ、早くて実行力があります。花巻では公平性や全体バランスを取ろうとするが故に、構想力や実行力がありません。視点が180℃違うと感じます。これでは将来花巻を担う優秀な人材が育たないと感じます。

8. ASMSAの交換プログラム

ASMSAというアーカンソー州で最も優秀な学生が

集まる全寮制高校がホットスプリングスにあります。ビルクリントン元大統領は中学生までホットスプリングスで育ち、1992年までアーカンソー州知事を務め、その後2期8年大統領を務めましたが、知事を辞める際地元への置き土産に、と作った高校がASMSAであり、2014年度全米高校ランキングでは第8位という全米有数のエリート高となっています。通常の高校とは異なる特別なプログラムで運営され、ハーバード、MIT、プリンストン、スタンフォードなど米国のエリート大学に何人も入学するトップ高です。このASMSAが国際交流を経験させたいと姉妹都市関係にある花巻へ申し出があり、私が間に入って橋渡しをしておりますが、花巻北高も花巻市も全く動きません。地域の高校生にとってこんな刺激のあるプロジェクトが舞い込んでいるのに全くアクション出来ないなんてどうかしていると感じますし、だから花巻は発展しないのだと言いたくなります。もの事にはタイミングがあり、この話は今進めなければなくなってしまうかもしれません。年間100万円程度の派遣費用でいいのだから、地域が何とかしなければならない。どこも動かないのであれば、中央コーポレーションが50周年記念事業として花巻北高へ寄付しようか!とも考えています。このようなアクションをして地域を活性化し、優秀な人材を育てて将来地域へ貢献してもらうことを戦略的に考え、実行していかなければならないと思います。

9. 欧米人のワインと日本人の酒

ところで欧米と日本の違いの顕著な例がワインと日本酒だと思います。ワインは古代よりヨーロッパで始まり、フランスやイタリア、スペインといった伝統的な地域において、こだわりと職人技により手の込んだ美味しいワインが造られ世界に輸出されていますが、アメリカ人はこれにハイテクと投資資金を持ち込み、その結果、米国カリフォルニアが安くて美味しいワインを製造するようになり、1990年代以降、チリ、アルゼンチン、オーストラリア、ニュージーランド、南アフリカ等に拡がり、これら新世界が、ヨーロッパよりむしろ安くて美味しいワインを産出するようになり、世界中で安く美味しいワインが楽しめるという事象が起こっています。

一方日本酒は、基本は日本国内だけで醸造され、輸出されている日本酒も徐々に増えてはおりますが、まだまだ日本でしか美味しい日本酒は飲めない状況です。これが欧米と日本の考え方の違いと思います。

ホットスプリングスの方々が日本に来たときに、どうしてアメリカで飲む日本酒はあんなに不味いのに、日本で飲む酒はこんなに美味しいのか?アーカンソー州で取れるお米からこのお酒が作れれば絶対にヒットする、日本酒の醸造方法を教えて欲しい、と姉妹都市が縁でホットスプリングスから最初は花巻市に、後に私に直接依頼が参り、南部美人の久慈社長に相談し、今、ベン・ベルというホットスプリングスのASMSA出身の32歳の男性が南部美人でインターシップを積んでいます。

南部美人の久慈社長は二戸から今や20カ国以上に日本酒の輸出実績をもつ岩手県を代表するグローバルな社長であり、日本酒が海外で造られるようになったら日本から輸出される酒のライバルになるかもしれないが、自分がやらなくても将来誰かの手によって行われるのであれば、むしろその支援をすることで南部美人のブランド価値が高まるほうに賭けようと、したたかな判断をしてくれました。ベンはあと半年ほど日本酒造りを勉強され、ホットスプリングスに戻った後、資本家からの投資を受け、日本酒の醸造会社を立ち上げる予定です。彼はまだ若いので自分のお金はありませんが、ビジネスプランに可能性があれば投資へ向かうお金は集まり、ビジネスが成功すればリターンが得られ、失敗しても投資が帰ってこないだけ、これが本当の意味での資本主義であり、世の中の効率的な発展を促していく仕組みです。私はこのことを改めて国際交流から学びました。

10. 震災国家日本

昨年末政府の地震調査委員会が地震予測地図を公開しました。30年以内に震度6以上の地震が発生す

る確率は、横浜市 78％、千葉市 73％、東京 46％ということです。首都直下型地震はいつ来てもおかしくありません。東海地震は静岡県、東南海地震は愛知県、三重県、南海地震は和歌山県、大阪府、徳島県、高知県が対象となりますが、震度 6 以上を赤く塗った予測地図を見るとこれらの地域は全面真っ赤です。岩手県で私たちは大変つらい経験をしましたが、同時に当社は震災復興需要を最前線で経験させて頂いています。大地震の前後に、これらの地域では岩手県で起こったような震災復興需要が必ず出て来ます。当社の水門、陸閘、橋梁、防潮堤等の経験は岩手県外でも必要とされるときが必ず来ます。

また生産年齢人口が加速度的に少なくなってくるこれからの時代においては、新設の橋梁や水門だけを求めていったのでは、世の中のニーズを見失ってしまいます。鉄構技術を極めつつも鉄のみに固執せず、工種、地域などフレキシブルに構え、インフラ整備、補修に関わる技術を徹底的に高め続けることが、当社の進むべき方向であり、永遠のテーマです。

11. ILC誘致の向けて

ILC 候補地が北上山地に一本化され、昨年も様々な調査や誘致イベントが行われましたが、ILC の誘致を決めるのは最終的に日本政府であり、ここ 2 年間であれば、結局自民党安倍総理大臣次第ということになります。日本商工会議所の会頭は三村明夫新日鐵住金名誉会長ですが、安倍総理とは第 1 次安倍内閣前からの旧知の中で、ILC 誘致についても三村会頭が重要な役割を果たす可能性も高いと考えられます。三村さんは新日鐵住金のネットワークを使ってホットな情報を得ようとするはずで、東北支店長の宮崎哲夫氏はその最前線におられ、東北 ILC 推進協議会の中心メンバーとして活躍されています。折しも岩手県鉄構工業協同組合の 40 周年記念事業が 3 月 5 日に開催予定で、私が実行委員長を務めていますが、「ILC が誘致された場合の鉄構業界へのインパクトを探れ！」題してパネルディスカッションを宮崎さんにコーディネーターをお願いし、東北大学理学部教授、経済学部教授、鹿島、東芝、三井物産各支店長にパネリストとしてトークしてもらうことを企画しています。宮崎さんはこれを機会にさらに ILC について調べられ、三村会頭に直接お話する準備に活用しようとされています。大変ありがたいお話で、貴重なパネルディスカッションになることと思います。もし ILC 誘致が決まれば、新日鐵住金や宮崎さんがキーパーソンとなる可能性もあり、当社にもどこでどのようなチャンスが巡ってくるかわからないと思います。もともと北上山地で ILC が建設される場合、当社は現地に最も近い鉄工会社であり、英語で仕事をする準備がもし出来るようであれば、圧倒的なチャンスが巡ってくる可能性もあると思っています。

12. 中央コーポレーション創立50周年

さて、2014 年は丸島アクアシステムさんと WTO 工事を 3 件受注できるなど大きな飛躍の年になりましたが、2015 年には大同機工さんとの協働が始まります。大同機工さんの徳永社長と私とは 15 年来のお付き合いとなります。当社は平成 7 年から 15 年まで 8 年ほど東京中小企業投資育成株式会社の投資を受け筆頭株主となって頂いていた時代があり、その頃若手経営者の会でお会いして交流させて頂いておりました。大同機工さんは社員 100 名弱しかおられませんが、全国に 10 カ所も支店網を持ち、各営業所 3 名ほど技術と営業を兼務できる社員が居られ、20 億円程の売り上げで 1 億円程度の利益を出している会社です。自己資本比率も非常に高く、参考にできるところの多い会社です。最近いいお付き合いさせて頂いている丸島アクアシステムさん、旭イノベックスさんとも、大変優秀な会社であり、当社にとっては本当にありがたいことだと思っています。

また2015年は当社が昭和40年に法人化して以来 50 年となりますが、遡ると創業者高橋吉助の中央製作所の個人創業は昭和26年、その前に倒産しましたが花巻鉄工所は、戦争中は軍需工場、その前の高常組は水車大工として名高く、祖父が花巻城の宮大工であったという、興味深い歴史もあります。これら当社

の歴史を振り返る創立50周年記念誌を策定中であり、今年 11 月 3 日には記念式典を開催する予定ですが、ぜひみなさん楽しみにして頂きたいと思います。

13. 人生で最も大切なことは考え方である

昨年、製造部の中堅・若手 3 名の結婚ご披露宴にお呼び頂き、多くの社員と共にお祝いをさせて頂きましたが、社員が結婚し、ご本人はもちろんご家族のみなさまの幸せなご様子を拝見することは、社長にとって最もうれしい事の一つです。今年はできればもっと多くの社員に結婚して頂きたいものだと思います。仕事はもちろん大切ですが、人生決して仕事だけではないし、結婚をして子どもを持ち、育てることから学ぶこと、PTA 活動や地域社会から教えられることもたくさんあります。そのような経験を通じてさらなる人間性が育まれ、地域社会へ貢献することにも繋がります。会社も共済会と連携しながら、独身者の婚活を応援し、花巻に幸せな家庭を増やしていきたいものと思います。

みなさまには、ぜひ当社の中長期的カーブと、社員みなさまの人生カーブを重ね合わせて考えて頂きたいと思います。みなさまにも様々なチャレンジの場が訪れることと思いますが、ぜひそれらを前向きに、楽しんで挑戦していただきたいと思います。会社だけが良い、あるいはみなさんだけが良い、という片方だけの幸せはあり得ません。ぜひ両者が共に幸せになれるよう知恵を出し合い、協力し合っていきたいと思います。

私は毎年社長年頭の辞で「人生にとって最も大切なことはものの考え方だ」ということを申し上げてきました。世の中必ずしも納得できない、面白くないこともあろうかと思います。しかし、ぜひそれらを現実としてしっかりと受け止め、前向きに明るく建設的に対応していって頂きたいと思います。何事も前向きに捉えれば、ピンチはチャンス!であり、その方がみなさん自身のためにもなります。そのような考え方ができる社員を私は頼りにし、大切にして参りたいと思います。

正しいものの考え方に基づき、しっかり考え、話し合い、信念に基づいてやり抜く。顧客満足の追求、社員関係者みなさんの物心両面のしあわせ、会社の発展をめざし、三者バランスをとりながら、鋼と建設の高度な技術を磨き、社会へ貢献して参りましょう。

最後に、日々取り組んで頂いている無事故・無災害運動の徹底をお願いし、この 1 年がみなさまにとりましてかけがえのないよい年となりますようご期待申し上げ、㈱中央コーポレーション代表取締役としての 2015 年年頭のごあいさつとさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

－以上－

資 料

1. 50周年記念行事

〈1〉50周年記念「社章」制作

社章バッチ

当社の社章は、創業者高橋吉助の次男高橋治のデザインによるもので、創立当初より使われておりますが、このたび創立 50 周年を記念して社章バッジを制作致しました。

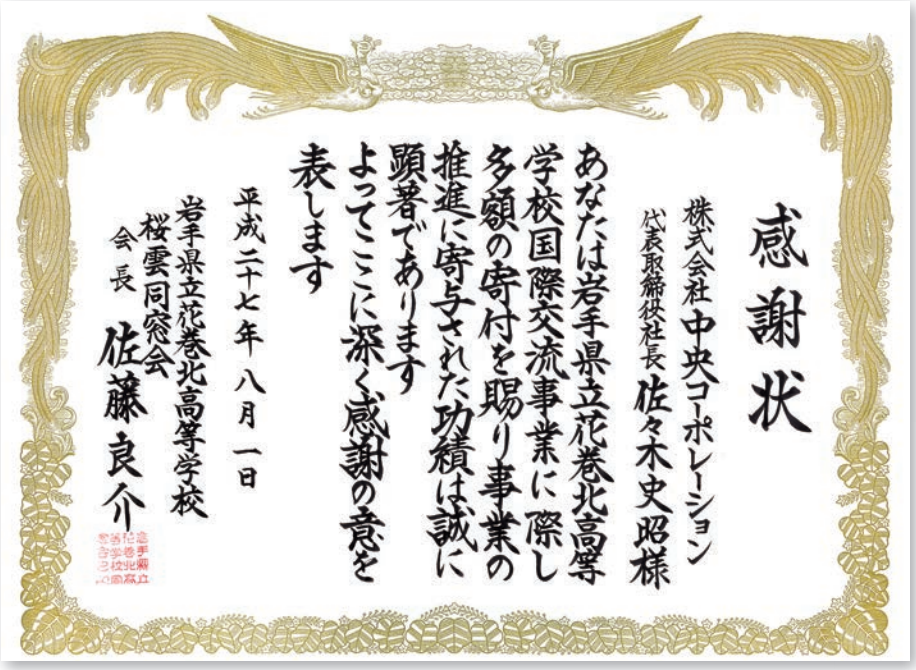
高橋治は昭和 46 年まで当社の監査役を務めた後、独立して芸術活動に入りました。

手書きの社章ロゴ

50 周年記念事業を推進するにあたって、花巻市の社会福祉法人光林会るんびにい美術館アートディレクター板垣崇志氏に依頼し、当社の 50 周年記念の公式ロゴと手書きの社章ロゴを制作致しました。下図は、記念式典でお配りするトートバッグに公式ロゴを用いたデザイン画です。デザインは、障がいのあるデザイナー 小林覚氏によるものです。

50周年記念トートバッグデザイン画 by 小林覚氏

〈2〉岩手県立花巻北高等学校 桜雲同窓会へ100万円寄付



感謝状

株式会社中央コーポレーション
代表取締役社長 佐々木史昭様

あなたは岩手県立花巻北高等学校国際交流事業に際し多額の寄付を賜り事業の推進に寄与された功績は誠に顕著であります
よってここに深く感謝の意を表します

平成二十七年八月一日

岩手県立花巻北高等学校
桜雲同窓会
会長 佐藤良介

感謝状授与式の様子

感謝状授与式でのあいさつ

〈3〉50周年記念「工場リフレッシュ計画」

実施工程表

	整備名称	内訳詳細	2015(平成27)年								
			8月			9月			10月		
			上	中	下	上	中	下	上	中	下
1	工場建屋(鉄骨) 塗装修繕	柱・間柱・大梁・小梁・胴縁・母屋 (概算塗装面積:4,000㎡) 塗装色:明るい緑(H32-70T)	修繕塗装 8／3～施工開始								
2	工場設備機械塗装修繕	対象機械:シャーリング2台、200,400tプレス、 フェイシングマシン、650,1000鋸盤、ブラスト集塵機 塗装色:現況色	施工工程検討 製造工程の合間に施工			修繕塗装					
3	工場内作業場修繕 (コンクリート床)	作業床凸凹修繕	Co打替え工事完 表面修繕計画再検討中			試験施工		コア削孔・穴凹修繕			
4	工場内外天井・門型 クレーン塗装修繕	工場内　西棟:4台、中棟:5台、東棟:4台 工場外　東側:3台、5t門型1台、20t門型1台 塗装色　工場内:H42-70D(増設クレーン塗装色) 工場外:H22-80V(黄色)	塗装工程の合間								
5	旧塗装上屋修繕	上屋フレーム塗装修繕:2棟 塗装色:グレー 上屋テントシート更新		シート施工中							
6	場外クレーンガーダー (架台)塗装修繕	工場東側ヤード全域 ガーター増設及び修繕塗装 塗装色:工場建屋と同色						施工			
7	場外エリア別ライン引き	通路、車輌置場、製品保管場所明示	計画図作成			準備			実施		
8	液体酸素タンク周辺敷地・ ヤード延長整備工事	液体酸素更新移設 移設に伴いヤード延長 北側駐車場の有効活用	計画実施								
9	ゴミステーション 全体移設 及び周辺ヤード整備	国道側に全施設施設 移設後地面整地(平に)	見積・施工準備					施工開始			
10	工場南側天井クレーン 出入口整備	出入口からの鳩害対策	施工図作成				見積				
11	工場外壁修繕	損傷箇所の外壁交換	施工計画作成		見積・施工準備			修繕開始			

〈4〉創立記念日橋梁点検ボランティア

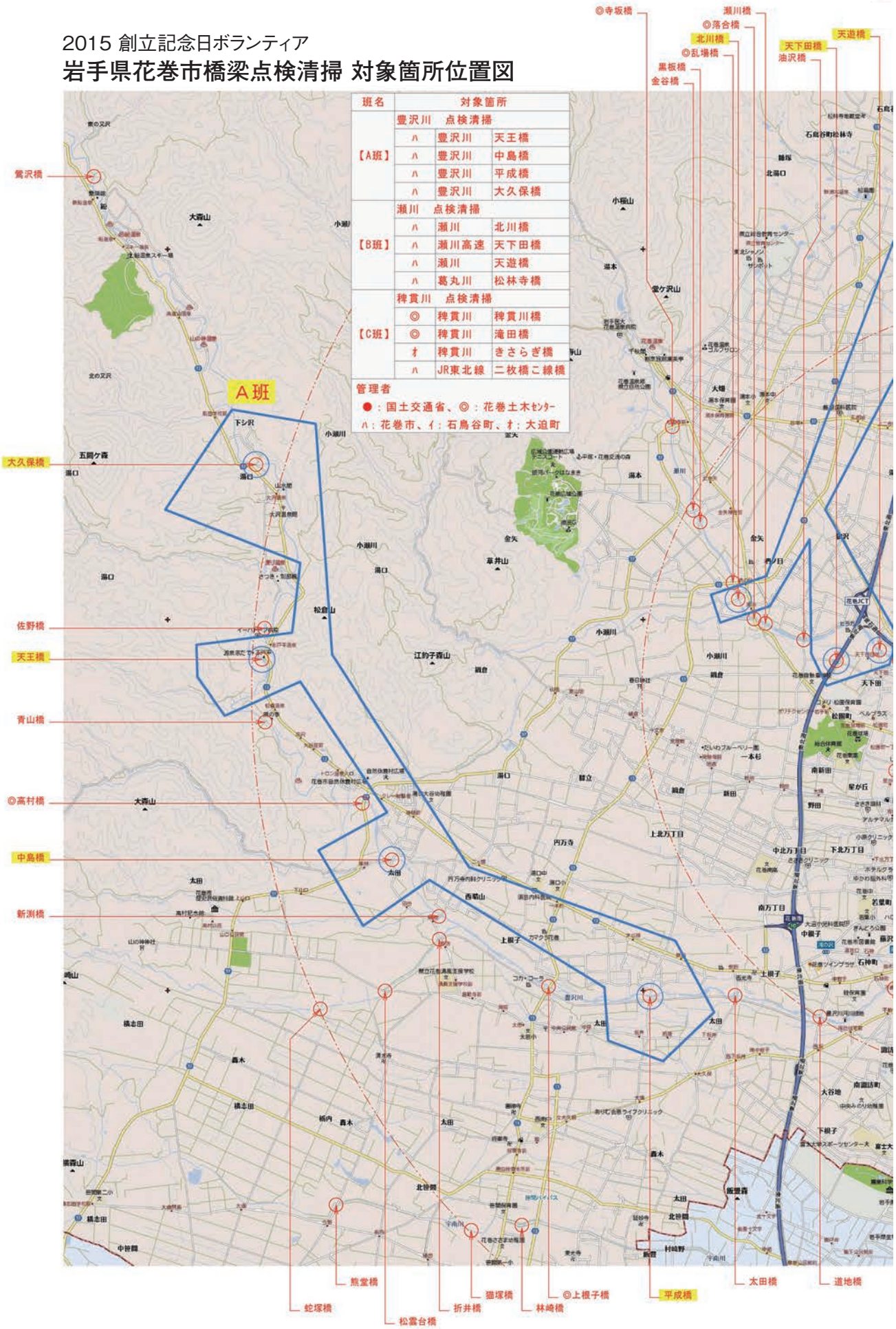
創立記念日　橋梁点検清掃ボランティア資料

平成27年　10月

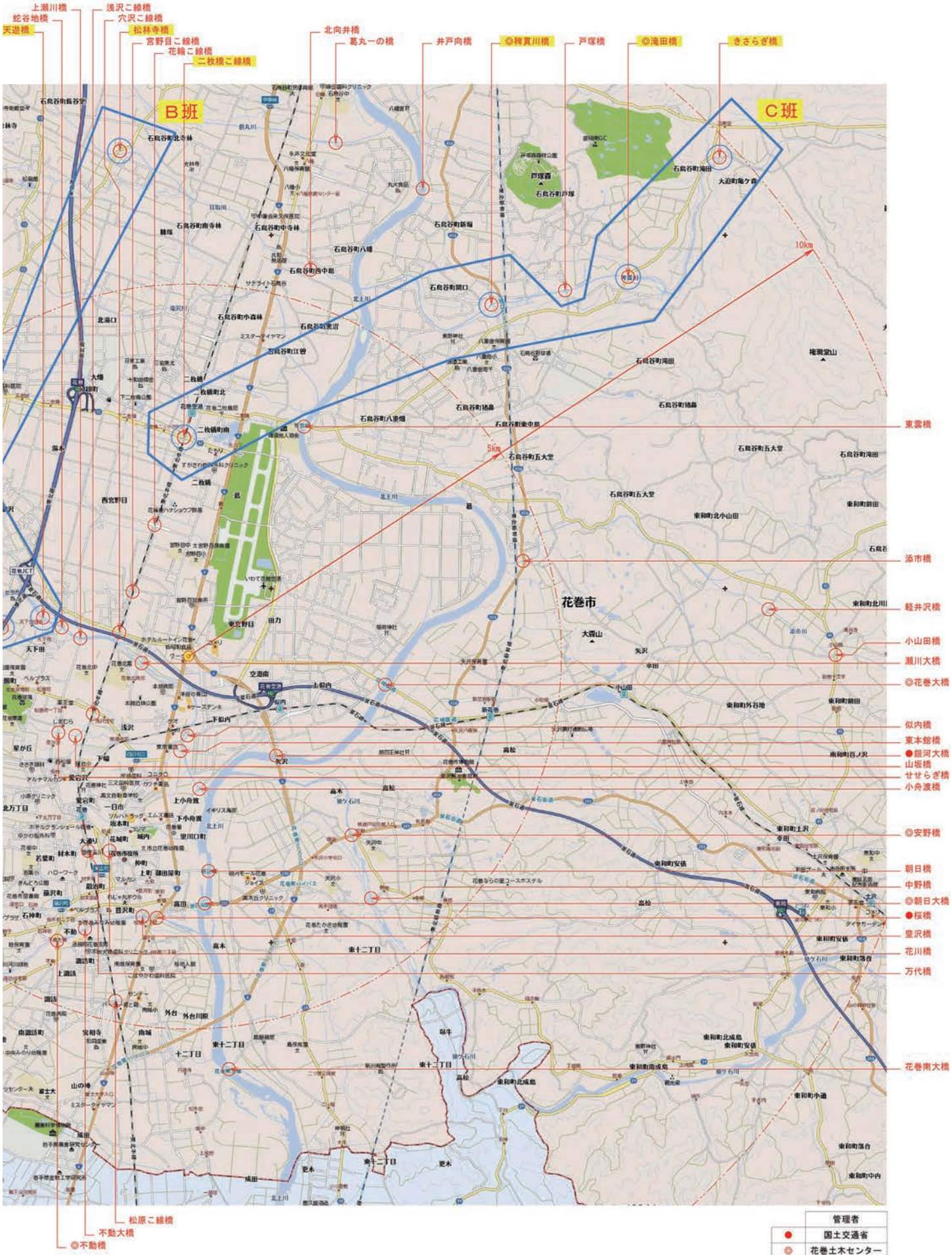
㈱中央コーポレーション

2015 創立記念日ボランティア

岩手県花巻市橋梁点検清掃 対象箇所位置図



班名	対象箇所		
【A班】	豊沢川　点検清掃		
	ハ	豊沢川	天王橋
	ハ	豊沢川	中島橋
	ハ	豊沢川	平成橋
	ハ	豊沢川	大久保橋
【B班】	瀬川　点検清掃		
	ハ	瀬川	北川橋
	ハ	瀬川高速	天下田橋
	ハ	瀬川	天遊橋
	ハ	葛丸川	松林寺橋
【C班】	稗貫川　点検清掃		
	◎	稗貫川	稗貫川橋
	◎	稗貫川	滝田橋
	オ	稗貫川	きさらぎ橋
	ハ	JR東北線	二枚橋こ線橋



	管理者
●	国土交通省
◎	花巻土木センター
	市町村

点検清掃実施箇所　履歴一覧表

		河川名	橋名	管理者	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
					H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
															清掃	清掃					
	1	豊沢川	中山1号橋	花巻市		○															
	2	豊沢川	鶯沢橋	花巻市				○			○			○			○				
	3	豊沢川	佐野橋	花巻市	○	○	○	○			○			○			○				
	4	豊沢川	天王橋	花巻市	○	○	○	○			○	○		○					○		
	5	豊沢川	青山橋	花巻市		○	○	○			○			○			○				
	6	豊沢川	高村橋	花巻市	○	○								○			○				
	7	豊沢川	中島橋	花巻市	○	○	○	○			○			○					○		
	8	豊沢川	新渕橋	花巻市	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○				
1	9	豊沢川	上根子橋	岩手県	○	○	○	○	○	○			○				○				
	10	豊沢川	平成橋	花巻市	○	○		○						○					○		
	11	豊沢川	太田橋	花巻市	○	○	○	○	○	○	○	○	○								
	12	豊沢川	道地橋	花巻市	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○						
	13	豊沢川	不動橋	岩手県	○	○	○	○				○		○			○				
	14	豊沢川	不動大橋	花巻市	○	○	○	○	○	○			○	○	○						
	15	豊沢川	豊沢橋	花巻市	○	○	○				○	○			○	○					
	16	豊沢川	桜橋	国交省	○	○	○	○	○	○					○						
	17	豊沢川	大久保橋	花巻市							○								○		
2	1	大堰川	花川橋	花巻市			○				○	○		○							
3	1	寒沢川	蛇塚橋	花巻市		○	○	○			○			○							
	2	寒沢川	横湯橋	花巻市			○							○							
	3	寒沢川	松雲台橋	花巻市			○	○	○	○	○	○	○	○			○				
	4	寒沢川	折居橋	花巻市				○			○	○		○			○				
4	1	宇南川	熊堂橋	花巻市			○	○			○	○		○			○				
	2	宇南川	猫塚橋	花巻市				○	○	○	○	○	○	○			○				
	3	宇南川	林崎橋	花巻市				○	○	○				○			○				
5	1	枇杷沢	せせらぎ橋	花巻市	○	○	○	○			○			○	○	○					
	2	枇杷沢	山坂橋	花巻市	○	○	○	○			○			○							
	3	枇杷沢	枇杷沢川橋	花巻市										○	○						
6	1	猿ヶ石川	中野橋	花巻市	○	○								○				○			
	2	猿ヶ石川	安野橋	岩手県	○	○	○	○	○	○			○					○			
7	1	北上川	朝日大橋	岩手県	○	○	○	○	○	○			○	○				○			
	2	北上川	朝日橋	花巻市	○	○	○				○	○			○	○					
	3	北上川	花巻大橋	岩手県	○	○	○														
	4	北上川	花巻南大橋	花巻市	○	○	○														
	5	北上川	東雲橋	花巻市			○	○										○			
	6	北上川	銀河大橋	国交省			○	○	○	○											
	7	北上川	井戸向橋	石鳥谷町				○	○	○			○					○			
8	1	耳取川	北向井橋	石鳥谷町				○										○			
9	1	葛丸川	葛丸一の橋	石鳥谷町				○	○	○			○					○			
	2	葛丸川	松林寺橋	石鳥谷町				○	○	○			○						○		
10	1	添市川	軽井沢橋	花巻市		○	○	○	○	○	○		○								
	2	添市川	添市橋	花巻市			○														
	3	添市川	小山田橋	花巻市				○													
	4	添市川	八幡1号橋	花巻市				○													
	5	添市川	前田橋	花巻市				○													
11	1	猿ヶ石川	猿ヶ石大橋	岩手県					○	○	○		○								
12	1	瀬川	寺坂橋	岩手県	○	○	○	○						○				○			
	2	瀬川	金矢橋	花巻市	○	○	○							○				○			
	3	瀬川	黒板橋	花巻市	○	○	○							○				○			
	4	瀬川	乱場橋	岩手県	○	○	○	○						○				○			
	5	瀬川	北川橋	花巻市	○	○	○							○					○		
	6	瀬川	落合橋	岩手県	○	○								○							
	7	瀬川	瀬川橋	花巻市	○	○		○													
	8	瀬川	油沢橋	花巻市	○	○															
	9	瀬川	天遊橋	花巻市	○	○	○				○								○		
	10	瀬川	上瀬川橋	花巻市	○	○	○								○	○					
	11	瀬川	瀬川橋	国交省	○	○	○		○	○											
	12	瀬川	似内橋	花巻市	○	○	○	○	○	○	○	○	○								
	13	瀬川	小舟渡橋	花巻市	○	○	○	○			○			○	○	○					
	14	瀬川	蛇谷地橋	花巻市			○		○	○	○		○								
	15	瀬川 高速	天下田橋	花巻市				○			○								○		
	16	瀬川	東本館橋	花巻市				○	○		○		○					○			
	17	瀬川	瀬川大橋	花巻市				○			○			○	○	○					
13	1	瀬川上流	土沢橋	花巻市		○															
	2	瀬川上流	小又沢下の橋	花巻市		○															
14	1	中居川	堂の前橋	花巻市				○													
15	1	稗貫川	稗貫川橋	岩手県			○					○							○		
	2	稗貫川	滝田橋	岩手県			○												○		
	3	稗貫川	きさらぎ橋	大迫町				○	○	○			○						○		
	4	稗貫川	よこまくら橋	大迫町				○	○	○			○								
	5	稗貫川	そやの橋	大迫町				○	○	○			○								
16	1	三ツ沢川	三ツ沢橋				○														
17	1		馬立橋								○										
18	1	JR釜石線	似内こ線橋	花巻市			○	○													
	2	JR釜石線	白橋	花巻市				○	○												
19	1	JR東北線	万代橋	花巻市			○	○			○	○			○	○					
	2	JR東北線	松原こ線橋	花巻市				○			○				○	○					
	3	JR東北線	黒橋	花巻市				○	○												
	4	JR東北線	穴沢人道橋	花巻市				○	○	○	○	○									
	5	JR東北線	二枚橋こ線橋	花巻市											○	○			○		
	6	JR東北線	花輪こ線橋	花巻市											○	○					
	7	JR東北線	宮の目こ線橋	花巻市											○	○					
	8	JR東北線	浅沢こ線橋	花巻市											○	○					
	9	JR東北線	中央橋	花巻市											○						

〈5〉50周年記念社員旅行

出発当日のご案内

◆集合日：**2015年5月21日（木曜日）**

◆集合場所：**いわて花巻空港　1階**

JAL チェックインカウンター前

◆集合時間：**８時３０分**

宿泊施設

1日目　5月21日　（木曜日）

京都新都ホテル

〒601-8412
京都府京都市南区西九条院町17
Tel: 075-661-7111

2日目　5月22日（金曜日）

ホテルプラザオーサカ

〒532-0025
大阪府大阪市淀川区新北野1-9-15
Tel: 06-6303-1000

ご案内

◆添乗員は全日程同行致します

佐藤　泉（さとう　いずみ）

携帯電話番号　080-2015-8651

当日の緊急連絡先

日下　徹　（くさか　とおる）

携帯電話番号　090-7795-8907

月日･曜日	行　　程
2015年 5月21日 （木）	【集合】いわて花巻空港 8:30 ―JL2180→ 9:25 ―貸切バス― 10:55 11:20 12:30 13:30 《工場見学》 14:00 15:30 ―― **東大寺(参拝)** 16:00 17:30 ―― **京都市内川床にて夕食** 18:45 20:45 21:00 ※視察先　大和郡山市丹後庄町300　㈱丸島アクアシステム
5月22日 （金）	ホテル 9:00 ―貸切バス― **清水寺(参拝)** 9:30 11:00 ―― **金閣寺(参拝)** 11:40 12:40 ―― **嵐山(散策＆昼食)** 13:00 15:30 **神戸ディナークルーズ**(ルミナス神戸) 19:00～ 20:30 ―― 21:20
5月23日 （土）	8:45 ―貸切バス― **なんばグランド花月** 9:15 9:45～12:00 ―― **通天閣(車窓)** 12:15 13:15 **あべのハルカス(展望見学)** 13:35 15:00 15:30 17:00 ―JL2187→ いわて花巻空港【解散】 18:25 18:45

<ご注意事項>

〔服装等について〕

・全行程、カジュアルな服装でご参加下さい。

・靴は履き慣れたものでお出掛け下さい。

・折りたたみ傘などの雨具のご準備もお願いします。

・健康保険証を携行、又は保険証番号の控えをご持参下さい。

・普段ご使用されている常備薬などをご用意いただく事をお勧めいたします。

〔ホテルアメニティーについて〕

・歯ブラシ／シャンプー／リンス／ボディーソープ／シャワーキャップ／くし／バスタオル／フェイスタオル／パジャマ

上記、ホテル各部屋に備え付けがございます。

〔ご旅行中のお願い〕

・集合時間、及び団体行動中は、時間を厳守下さいますようお願いします。

・旅行中のお忘れ物には充分お気をつけ下さい。バス降車の際は再度ご確認下さい。

・ホテルに着きましたら非常口を確認し、自室からの道順をご確認ください。

・旅行中疲れを感じたら休養しましょう。ご都合でお食事や観光などにご参加できない場合や、体の調子が悪い時などは、添乗員にお申し出下さい。

・天候不順、及び当日の道路混雑等の理由によりスケジュールが変更になる場合がございますので、予めご了承下さい。

◆1日目
ホテル：お部屋番号『　　階　　号室』

◆2日目
ご朝食：　　階『　　』
ご出発：　　時　　分
ホテル：お部屋番号『　　階　　号室』

◆3日目
ご朝食：　　階『　　』
ご出発：　　時　　分

◆◆◆ MEMO ◆◆◆

◆◆旅行手配会社◆◆
東武トップツアーズ盛岡支店
〒020-0022
岩手県盛岡市大通1-11-13-6 F
ＴＥＬ :019-651-8800
ＦＡＸ :019-653-2093
e-mail: i_sato@toptour.co.jp
担 当 ： 佐藤 泉

TOBU TOP TOURS

株式会社中央コーポレーション
社員研修旅行

旅のしおり

～～　旅行期日　～～

2015年5月21日（木）～5月23日（土）

2泊3日

2. 主な工事実績

〈1〉橋梁・水管橋工事

全368件中89件抜粋

No.	年　月	納　入　先	受　注　先	工　事　件　名	工　事　内　容
1	1967	岩手県　雫石町		雫石歩道橋製作工事	
2	1968	岩手県　久慈市		上の橋歩道橋工事	
3	1969	岩手県		一関・大槻町歩道橋製作据付工事	
4	1970	東北農政局		花巻西部農業用道路橋工事	
5	1976	岩手県　東山町		木和田掘橋製作据付工事	
6	1977	青森県　三沢市	三沢市	姉沼橋橋桁製作工事	
7	1978	岩手県		小谷木橋添架歩道橋橋桁組立工事	
8	1982	岩手県　江刺市	江刺市	王行田橋橋梁災害復旧(上部工)工事	W3.0×L26.9
9	1982	岩手県	岩手県	通常砂防(橋梁)工事(土沢橋、小又沢下の橋)	W5.0×L23.4　2橋
10	1983	岩手県	岩泉土木事務所	県単橋梁整備(上部工)工事　(砂子3号橋)	W6.0×L34.0
11	1983	岩手県	岩泉土木事務所	県単橋梁架替(架設、床版)工事	W6.0×L34.0
12	1984	岩手県　花巻市	花巻市	小舟渡橋橋梁整備(上部工)工事	W10.75×L45.90
13	1986	岩手県　釜石市	新日本製鉄㈱	大浜渡橋共同専用橋製作架設工事	W1.0×L26.15×5連
14	1986	大槌町	新日本製鉄㈱	深渡橋上部工工場製作	W4.0×L46.0
15	1987	大槌町	岩手県　大槌町	おおはたけ橋上部工製作架設工事	W5.0×L27.5
16	1987	岩手県　花巻市	花巻市	せせらぎ橋製作架設床版工事	W16.0×L23.5
17	1988	岩手県　花巻市	花巻市	駅西第5地区山坂橋橋梁新設(上部工)工事	W16.0×L22.0
18	1988	岩手県　遠野市	遠野市	橋梁整備(中滝橋)工事	W5.0×L24.0×2連
19	1989	岩手県	盛岡地方振興局	広域農道整備事業岩手地区第54号工事(岩手橋)	W3.6×L33.0
20	1989	岩手県	盛岡土木事務所	大村橋地区緊急地方道路整備(上部工)工事	W10.0×L32.0
21	1990	岩手県　遠野市	遠野市	一の渡白見線(鍋割橋上部工)工事	35t
22	1990	栃木県二宮町	住友金属工業㈱	町道4182号線道路新設プレハブ橋梁製作輸送工事	3橋、70t
23	1991	首都高公団	住友金属工業㈱	首都高速亀戸地区補強増桁製作輸送工事	280t
24	1991	岩手県	久慈土木事務所	久慈岩泉線たもの木1号橋上部工製作工事	L38.0×W6(8
25	1991	岩手県	岩泉土木事務所	県道宮古岩泉線間渡橋県単橋梁整備(上部工)	L35.0×W7.0
26	1991	岩手県	岩泉土木事務所	一般県道宮古岩泉線間渡橋上部工(輸送架設)	61.725t
27	1991	岩手県	久慈土木事務所	久慈岩泉線たもの木1号橋上部工輸送架設工事	L38×W8、64t
28	1992	岩手県	盛岡地方振興局	広域農道整備事業岩手地区82号工事	架設415.5t
29	1993	岩手県　花巻市	花巻市	蛇塚地区橋梁上部工工場製作工事	5W×30L、24.5t
30	1993	岩手県	北上土木事務所	一般県道北上和賀線山口橋上部桁輸送架設工事	L41.3×W6.0
31	1994	岩手県	花巻土木事務所	主要地方道花巻大曲線中山1号橋上部工(架設)工事	82.5t
32	1994	岩手県　花巻市	花巻市	公共下水道花巻温泉第1幹線台川水管橋設置工事	L=34m、8t
33	1994	岩手県　衣川村	衣川村	新山村振興沼野地区連絡道整備橋梁上部工工事	L47×W6.2、82t
34	1994	岩手県	花巻土木事務所	主要地方道花巻大曲中山1号橋上部工製作工事	L40m×W8m、59.5t
35	1995	岩手県	千厩土木事務所	千厩川筋色の御前橋製作工事	8.0m×38.7m、60.3t
36	1995	岩手県	盛岡土木事務所	津志田白沢線矢巾歩道跨線橋上部工製作工事	3.0m×34.5m×2橋、64t
37	1995	岩手県	花巻地方振興局	広域基幹林道四ノ宗山線(2工区)その2開設工事	5m×40m、47t
38	1995	岩手県	岩泉土木事務所	一般国道340号横道2号橋上部工(製作)工事	L43.5m×W13.5m、148t
39	1996	岩手県	一関土木工事事務所	市野々地区二号橋上部工製作工事	2径間連続非合成鈑桁　99.1t
40	1997	岩手県	一関土木工事事務所	市野々原地区2号橋上部工輸送架設工事	L59m×W9m、輸送106.1t　架設96.6t
41	1997	建設省	東北地方建設局	大船渡立根歩道橋上部工工事	11.6t
42	1998	岩手県	二戸地方振興局	二戸安代線似鳥4号橋上部工輸送架設工事	PL橋　L61.6m、127t
43	1998	岩手県	遠野地方振興局	一級河川宮守川筋沢田前橋上部工製作・架設工事	単純非合成鈑桁　62.28t
44	1998	岩手県　花巻市	花巻市	道地橋橋梁整備(上部工製作)工事	非合成4径間連続鈑桁　210t
45	1998	岩手県	二戸地方振興局	瀬月内橋下尾田線地方特定道路整備	単純鋼鈑桁　L31.5m×W12m、76.6t
46	1999	岩手県	盛岡地方振興局	小柳沢筋小柳沢渓流保全工(その2)工事	単純非合成鈑桁　41.5t
47	1999	岩手県	二戸地方振興局	瀬月内橋下尾田線下尾田橋上部工輸送架設工事	単純鋼鈑桁　L31.5m×W12m
48	2000	岩手県　花巻市	花巻市	大堰川筋プロムナード整備事業人道橋新設(桁製作工)工事	歩道橋　L35.5m×W3.2m、48.7t
49	2000	岩手県	水沢地方振興局	町道尿前槻木平線小白沢橋上部工製作工事	鋼単純非合成鈑桁　L37.5m×W9m、102.14t
50	2000	岩手県	水沢地方振興局	町道尿前槻木平線小白沢橋桁輸送架設工事	鋼単純非合成鈑桁　L37.5m×W9m、 支間長36.6m
51	2000	岩手県	水沢地方振興局	平成11年度ふるさと林道黒滝衣の滝線橋梁工事	鋼単純非合成鈑桁　94t
52	2000	岩手県	大船渡地方振興局	平成11年度ふるさと林道加茂線鋼橋製作架設工事	単純合成鈑桁　L27.3m×W6m、 支間長26.5m　30t

53	2001	日本道路公団	東北支社	東北横断自動車道鞍掛橋(鋼上部工)工事	鋼2径間連続合成鈑桁 L119.2m×W10.3m、支間長44.8m
54	2001	岩手県	花巻地方振興局	ふるさと農道緊急整備事業舘迫落合地区第4号工事	4径間連続非合成鈑桁 L149.1m×W12.5m、支間長40.9m　325t
55	2002	青森県	八戸土木事務所	浅水川住宅関連促進橋梁(鼠田橋上部工)工事	2径間連続非合成鈑桁　L57.5m×W5.2m、34t
56	2002	青森県	八戸土木事務所	島守是川線道路改良(鷹ノ巣大橋)工事	2径間連続非合成鈑桁　L59.5m×W7.2m、90t
57	2002	岩手県　花巻市	花巻市	瀬川大橋上部工製作工事	2径間連続非合成鈑桁 L80m×W16.8m、247.6t
58	2002	岩手県　花巻市	花巻市	上似内跨線橋上部工製作工事	単純非合成鈑桁　L30m×W16.8m、91.5t
59	2002	国鉄精算事業団本部	日本鉄道建設公団	武蔵野操(基)半田彦成こ線橋桁製作運搬その1	単純非合成鈑桁　L38.2m×W9.8m、支間長29.6m、78t
60	2002	岩手県	盛岡地方振興局	一本木バイパス3号橋上部工製作・輸送・架設工事	2径間連続合成鈑桁　L69m×W14.1m、支間長38.2m、180t
61	2003	岩手県　花巻市	花巻市	瀬川大橋上部工架設(交付金)工事	2径間連続非合成鈑桁 L80m×W16.8m、247.6t
62	2003	岩手県	県南広域振興局	ふるさと林道金矢大沢線(第2工区)橋梁工事	単純非合成箱桁　L54.4m×W5m、支間長54.2m、130t
63	2003	岩手県　一関市	一関市	一ノ関駅東口連絡跨線橋(鋼橋製作)工事	3径間連続非合成鈑桁　L=58.4m、108t
64	2004	日本道路公団	東北支社	東北自動車道東根跨道橋(鋼上部工)工事	鋼単純合成鈑桁　L34.4m×W10m
65	2004	岩手県	遠野地方振興局	一般県道土淵・達曽部線附馬牛第2号橋上部工工事	非合成単純鈑桁　L77m×W9.2～12.2m、ベント式トラッククレーン
66	2006	岩手県	一関地方振興局	市野々原地区6号橋上部工工事	鋼2径間連続2主鈑桁　L98.1m×W7m、170t、送出し架設
67	2006	国土交通省	東北地方整備局	矢沢歩道橋設置工事	製作・仮設・橋面舗装　約44t
68	2006	岩手県	遠野地方振興局	遠野第二ダム建設事業付替県道橋梁上部工工事	3径間連続非合成鋼鈑桁　L84.5m×W8m(9.2m)　落橋防止装置
69	2007	国土交通省	東北地方整備局	太刀打こ道橋上部工工事	ラーメン橋、L55.5m、鉄筋コンクリート床版、w=195t、支間長53.3m
70	2007	岩手県	県南広域振興局	好地地区歩道橋(製作)工事他1工事	L37m×W2.5m、下路式単純プレートガーダ、落橋防止装置
71	2007	国土交通省	東北地方整備局	南長内沢橋上部工工事	2径間連続4主鈑桁　L63m×W8.7m、116.9t
72	2008	岩手県	県南広域振興局	ふるさと林道金矢大沢線橋梁上部工工事	鋼単純非合成鈑桁　工場製作33t、 鋼橋架設、現場継手1554本、支承6基
73	2008	宮城県	仙台東土木事務所	新市川橋上部工工事	2径間連続非合成鈑桁　L66.6m
74	2008	宮城県	大崎土木事務所	宇津野3号橋上部工工事	4径間連続非合成鈑桁 L91m×W10.2m、支間長24.7m、127t
75	2009	国土交通省	東北地方整備局	獅子ヶ森横断歩道橋工事	下路式、単純非合成桁 L25.2m×W1.5m、支間長23.3m、37t
76	2009	岩手県　花巻市	花巻市	天遊橋上部工製作工事	2径間連続鈑桁L68m×W16m、192.1t、 支承工、落橋防止装置
77	2010	岩手県	盛岡地方振興局	梁川ダム付替国道106号10号橋上部工製作・架設工事	3径間連続活荷重合成2主鈑桁 L226m×W14m、支間長86m、850t
78	2012	岩手県　花巻市	花巻市	市道本館下似内線似内橋上部工製作工事	2径間連続非合成鋼鈑桁(W10m)
79	2013	国土交通省	東北地方整備局	宝来橋側道橋外復旧工事	(宝来橋)単純上路式デッキプレート床版鈑桁3連　60.1t　L91.81m、支間長39.9m(浪板橋) 2径間連続合成床版　41.1t　L45m、支間長23.6m
80	2014	岩手県	沿岸広域振興局	一般国道397号高屋敷橋上部工製作架設工事	鋼単純非合成鈑桁　158.5t、L44.5m、 架設167.3t、床版171㎡、舗装517㎡
81	2014	岩手県	沿岸広域振興局	津付ダム付替国道397号3号橋上部工製作架設工事	鋼単純合成2主鈑桁　L32.5m
82	2013	宮城県　仙台市	仙台市	仙台松島線(岩切)横断歩道橋設置工事	L35m×W2.6m、支間長30m、44t
83	2013	岩手県　花巻市	花巻市	市道本館下似内線似内橋上部工架設工事	2径間連続非合成鋼鈑桁　L76.4m×W10m、桁架設155.1t
84	2014	宮城県　仙台市	仙台市	川内旗立線動物公園1号・2号連絡橋橋梁上部工工事	工場製作46.7t、橋梁架設48t、 橋梁床版46㎡
85	2014	岩手県	沿岸広域振興局	宮古西道路(仮称)長沢川橋上部工製作架設工事	鋼単純非合成鈑桁　L56.4m×W14.7m、356.1t　送出し架設
86	2015 竣工予定	岩手県　花巻市	花巻市	市道熊野内野線太田橋上部工製作工事	4径間連続非合成鈑桁　L144m　254t、付属物23t、大型ゴム支承　20基
87	2016 竣工予定	岩手県	岩手県知事	二級河川盛川筋塩場地区河川災害復旧川口橋上部工工事	3径間連続鋼箱桁　L182.1m×W9.5m、701t、 現場塗装530㎡、RC床版523㎡他
88	2016 竣工予定	岩手県　花巻市	花巻市	市道熊野内野線太田橋橋梁上部工架設工事	4径間連続非合成鈑桁　L144m　架設277.6t 床版385m3　舗装1397㎡　他
89	2016 竣工予定	岩手県	県北広域振興局	一般国道281号新芋谷橋上部工工事	鋼単純箱桁　L54m199.47t、床版551㎡、舗装478㎡、他

〈2〉橋梁補修工事

全80件中41件抜粋

No.	年　月	納　入　先	受　注　先	工　事　件　名	工　事　内　容
1	1998	岩手県	宮古地方振興局	繋下の橋橋脚補強工事	鋼製橋脚補強板2基、11.3t
2	2000	岩手県	宮古地方振興局	一般国道106号川内橋橋脚補強工事	L14.0m　W9.0m　橋脚高19.0m
3	2002	岩手県　花巻市	花巻市	湯本南方地区水管橋製作架設(その1)工事	水管橋製作架設
4	2002	岩手県	宮古地方振興局	一般国道106号達曽部川橋橋脚補強工事	鋼板巻立工9.8t
5	2004	青森県	八戸県土整備事務所	八戸環状線橋梁補修対策工事	旧橋解体、工場製作,架設

6	2004	岩手県　花巻市	花巻市	湯口中部地区農業集落排水事業第1号水管橋工事	パイプビーム型水管橋支間長5.0m、施工延長10m、橋台
7	2005	岩手県　花巻市	花巻市	朝日橋橋梁修繕（高欄）工事	鋼製高欄コンクリート打設及び取壊し
8	2005	岩手県	宮古地方振興局	一般国道106号達曽部橋橋梁維持修繕工事	伸縮装置取替工
9	2006	岩手県　花巻市	花巻市	万代橋高欄補修工事	支柱補修、トップビーム補修、サブビーム補修、照明柱補修
10	2006	岩手県	遠野地方振興局	一般国道283号寒風跨線橋落橋防止装置設置工事	L55m　W11m　落橋防止装置　17t　箱桁橋
11	2006	岩手県　東和町	東和町	白金橋改修その2工事	吊橋メインワイヤ架設、下部工、搬入路工
12	2007	岩手県	県南広域振興局	平和橋橋梁（落橋防止設置）工事	落橋防止装置工（PCケーブル）14基
13	2007	宮城県	仙南・仙塩広域水道事務所	名取川水管橋耐震補強工事	ダンパー設置　6基、変位制限装置設置
14	2008	岩手県	二戸地方振興局	主要地方道一戸葛巻線落合橋橋梁補修（その2）工事	L33m、塗装塗替工、断面修復
15	2008	岩手県	二戸地方振興局	一般国道395号猿越橋他耐震補強工事	落橋防止、縁端拡幅、橋座補修、段差防止工
16	2008	岩手県	二戸地方振興局	主要地方道一戸葛巻線落合橋橋梁補修工事	工場製作0.37t、伸縮継手13m、橋面防水210㎡、舗装210㎡、塗装塗替210㎡
17	2008	宮城県	大河原土木事務所	松川橋外橋梁耐震補強工事	落橋防止、橋脚巻立、主桁補強、橋体補修、地覆防護柵改修
18	2008	岩手県	県南広域振興局	一般国道107号背高橋橋梁補強工事	鋼板巻立、落橋防止、横桁増設、沓座取替
19	2009	岩手県	県南広域振興局	一般県道夏油温泉江釣子線夏油大橋橋梁災害復旧工事	桁製作加工1.8t、加熱矯正、現場溶接、仮設油圧ジャッキ
20	2009	宮城県	仙南・仙塩広域水道事務所	仙南・仙塩広水　古内水管橋他耐震補強工事	変位制限装置設置、ダンパー設置、コンクリート巻き立て、炭素繊維シート貼り
21	2009	岩手県	県南広域振興局	一般国道342号市野々原橋地区橋梁災害復旧工事	復旧延長55m、W9.0m、支承取替、伸縮装置取替、深礎工、落橋防止装置設置
22	2009	岩手県	県南広域振興局	一般国道396号愛宕山橋橋梁維持修繕工事	L67.84m、伸縮装置補修、支承防錆、橋面防水、橋面、コンクリート舗装
23	2010	岩手県　二戸市	二戸市	舌崎陸橋補修補強工事	塗替塗装、横桁設置、落橋防止、支承工、床版工、地覆工、主桁切断、伸縮装置設置
24	2010	国土交通省	東北地方整備局	胆沢ダム付替国道3工区橋梁補修工事	支承取替、対傾向・下横構交換、床版打換え
25	2010	岩手県	県北広域振興局	猿枝上の橋橋梁修繕工事	L29m、橋梁塗装、支承取替、伸縮装置取替
26	2010	岩手県	県南広域振興局	一般国道283号岩根橋橋梁補修工事	支承取替・補修、落橋防止装置、排水施設、現場塗装、舗装補修、仮設
27	2010	岩手県	県南広域振興局	一般県道夏油温泉江釣子線内鱒沢橋橋梁災害復旧工事	桁製作加工、工場製品輸送、ガス切断工、仮設横桁設置
28	2010	岩手県	県南広域振興局	主要地方道花泉藤沢線北上川橋橋梁補修工事	L275m、沓座拡幅、仮支点部補強、台座コンクリート、支承取替、伸縮装置取替
29	2010	岩手県	沿岸広域振興局	一般国道340号堂道橋ほか橋梁補修工事	工場製作3.9t、伸縮継手装置取替79.6m、舗装打換681㎡、橋面防水681㎡
30	2010	岩手県	沿岸広域振興局	一般国道340号　大渡橋耐震補強工事	落橋防止装置、変位制限装置、伸縮装置、橋脚コンクリート巻立、支承防錆
31	2011	宮城県	北部土木事務所	敷玉橋橋梁補修工事	L112.68m　W5.5m　落橋防止装置20組、変位制限装置10組、支承金属溶射
32	2011	宮城県　仙台市	仙台市	仙台泉線北根横断歩道橋補修工事	落橋防止装置製作・据付18基、橋面撤去・復旧、現場塗装、目隠し板設置
33	2012	宮城県　栗原市	栗原市	御館橋他1橋橋梁災害復旧工事	御館橋L120m×W9.0m、小田橋L125m×W9.0m
34	2013	国土交通省	東北地方整備局	畳石跨道橋補強工事	排水管設置、支承防錆、橋梁塗装、断面補修、舗装、支承取替拡幅、落防装置、変位制限装置、制震ダンパー装置
35	2013	岩手県	沿岸広域振興局	一般県道大槌小鎚線古廟橋地区橋梁災害復旧工事	主桁・横桁30t、支承12基、橋梁用防護柵133m、鋼製橋脚2本、床版・舗装・土留仮締切　1式
36	2014	宮城県	大崎広域水道事務所	大崎広水北屋敷水管橋耐震補強外工事	L187m、上部工耐震補強、落橋防止装置設置、塗装修繕
37	2014	岩手県	県南広域振興局	一関北上線江雲橋耐震補強（上部工）工事	転落防止製作・設置、変位制限製作・設置、地覆補修、防護柵補修、現場塗装
38	2014	宮城県　仙台市	仙台市	（市）澱橋通線澱橋橋梁補修工事	工場製作、主桁端部補強材・排水管製作、床版、断面修復、主桁端部補強、橋梁付属物、排水施設、現場塗装
39	2014	岩手県	県南広域振興局	主要地方道花巻衣川線新田橋耐震補強（その2）工事	落橋防止装置、変位制限装置、支承取替、現場塗装、伸縮装置補修
40	2015	岩手県	沿岸広域振興局	袰野大橋耐震補強（上部工その1）工事　ほか1工事	施工延長180m、支承防錆、落橋防止装置、橋面防水
41	2015 竣工予定	岩手県	盛岡広域振興局	一般県道盛岡鶯宿温泉線猿田橋橋梁補強補修工事	L114.3m×W　6.5m、落橋防止ダンパー、緩衝チェーン、緩衝ベルト、支承交換18基、現場塗装2,580㎡　等

〈3〉水門・陸閘工事

全372件中88件抜粋

No.	年　月	納　入　先	受　注　先	工　事　件　名	工　事　内　容
1	1967	岩手県		チリ地震津波対策工事大船渡地区水門	
2	1969	岩手県		猿ケ石ダムローリングゲート木部取替工事	
3	1970	岩手県		碁石海岸高汐対策水門工事	
4	1971	建設省	東北地方建設局	青木水門扉製作据付工事	
5	1972	岩手県		女遊戸海岸水門・建家工事	
6	1973	岩手県		清水海岸防汐横引水門工事	

7	1976	岩手県　企業局	県南施設管理所	仙人発電所取水口制水門扉ワイヤーロープ取替工事	
8	1977	建設省	東北地方建設局	排水機場水門新設工事	
9	1978	山形県		袖崎地区サイフォン管製作据付工事	
10	1982	岩手県	北上土木事務所	河川工作物関連応急対策工事（鍵沢水門）	W2.55×H1.675
11	1982	岩手県　大船渡市	大船渡市	碁石漁港海岸局改門扉工事	アルミゲート　W5.2×H0.95
12	1983	岩手県	花巻土地改良事業所	排水対策事業幸田地区第4号工事	転倒ゲートW3.5×H0.3
13	1983	建設省	東北地方建設局	下河原排水樋管ゲート等新設工事	スライドゲートW0.6×H1.1
14	1984	岩手県	花巻土木事務所	耳取川筋長谷堂地区スルースゲート製作工事	W1.6×H1.05
15	1985	岩手県	宮古土木事務所	田老漁港県単海岸保全維持修繕工事	SUSフラップW1.2×H1.2
16	1986	岩手県	北上土木事務所	和賀川筋瀬畑地内河川工作物関連（水門）工事	W4.85×H1.7
17	1987	建設省	東北地方建設局	佐野揚水機場樋管（主ゲート）新設工事	W1.5×H1.5　ラック式
18	1988	建設省	東北地方建設局	前堀排水路・佐野樋管ゲート新設工事	W1.8×H1.6×2　　ラック
19	1989	建設省	東北地方建設局	中島排水樋管ゲート設備新設工事	W1.9×H1.9電動
20	1990	岩手県	大船渡地方振興局	門の浜漁港海岸保全（第1号）工事	アルミ合金製　W3.3×H2.5
21	1991	岩手県	大船渡地方振興局	門の浜漁港海岸保全（第2号）工事（アルミゲート）	
22	1993	岩手県	大船渡土木事務所	大船渡港清水地区11号陸閘門扉据付工事	アルミ合金製　W4.0×H2.2m
23	1993	建設省	東北地方建設局	下新田第2樋管外1箇所ゲート新設工事	ローラーゲート　W2.0×H2.0×1
24	1993	建設省	東北地方建設局	瀬川田排水樋管ゲート新設工事	ローラーゲート　W1.5×H1.5×2
25	1994	建設省	東北地方建設局	佐倉排水樋管ゲート新設工事	ローラゲート　W3.6×H1.9×3
26	1995	建設省	東北地方建設局	岩木川地区樋管ゲート改造その1工事	電動ローラゲート　W1.5×H1.5×2
27	1995	建設省	東北地方建設局	北上川救急排水ポンプ設備点検整備	電動ローラゲート　W2.0×H2.0
28	1995	建設省	東北地方建設局	阿久戸排水樋管ゲート新設工事	電動ローラゲート　W3.6×H2.1×4
29	1996	岩手県	大船渡土木事務所	大船渡港清水地区1号陸閘門扉製作工事	アルミ合金製横引ゲート　W4.0×H1.75　3方水密
30	1996	建設省	東北地方建設局	倉町・小金沢排水樋管ゲート他新設工事	2門
31	1996	建設省	東北地方建設局	大蜂第四排水樋管ゲート改良工事	
32	1996	建設省	東北地方建設局	大滝根ダムゲート設備新設その3工事	W4.0×H3.0×1　スライドゲートW2.0×H1.5×1
33	1996	建設省	東北地方建設局	狐禅寺水位観測所扉修繕	水密ゴム交換、ドアロック装置修繕
34	1996	建設省	東北地方建設局	二級河川小鎚川筋小鎚地区仮設陸閘製作 据付工事	B8.0m　W1.65m　8.0t
35	1996	建設省	東北地方建設局	倉町排水樋管ゲート据付工事	ローラーゲート、手動ラック
36	1996	建設省	東北地方建設局	五間堀排水樋管ゲート新設工事	鋼製ローラーゲート　W3.5×H2.25×2
37	1996	建設省	東北地方建設局	十文字地区樋管ゲート設備工事	5箇所ゲート設備製作・据付
38	1996	建設省	東北地方建設局	松の木排水樋管ゲート新設工事	
39	1997	建設省	東北地方建設局	了徳樋管他ゲート設備工事	ゲート4門
40	1997	建設省	東北地方建設局	管内ゲート設備修繕	扉体上限ストッパー
41	1997	岩手県	大船渡地方振興局	川原川筋曲松地区水門製作据付工事	ステンレス製水門
42	1998	岩手県　企業局	県南施設管理所	第二北上中部工業用水道取水塔ゲート補修工事	
43	2000	建設省	東北地方建設局	白鳥上樋管他ゲート応急対策工事	W1.5×H1.5　他2門
44	2000	建設省	東北地方建設局	太郎沢排水樋管外3箇所ゲート応急対策工事	W2.85×H2.85×2
45	2000	建設省	東北地方建設局	中神第一排水樋管ゲート設備新設工事	鋼製ローラーゲート　W2.5×H2.5×1、管理橋29.3m
46	2001	岩手県　花巻市	花巻市	高円万寺浄水場取水口スライドゲート更新工事	ステンレススライドゲート　W1.0m×H0.6
47	2002	国土交通省	東北地方整備局	板柳排水樋管ゲート改良工事	鋼製ローラーゲート、管理橋、操作台上屋
48	2002	岩手県	久慈地方振興局	種市漁港県単改良工事	アルミ合金製片開式戸、フラップゲート、補助ゲート
49	2002	岩手県　企業局	県南施設管理所	柏台発電所水門機器製作据付工事（2）	ローラーゲート　W2.77×H2.0×4
50	2002	国土交通省	東北地方整備局	桜ノ目排水樋管ゲート応急対策工事	開閉装置据付、機側操作盤、引込開閉器盤他
51	2002	岩手県	宮古地方振興局	大浦漁港海岸保全（第4号）工事	アルミ製横引きゲート、防雪カバー、防護柵
52	2004	国土交通省	東北地方整備局	管内水門設備等改修工事	アルミ合成横引きゲート2門、管理橋1橋、ピット蓋
53	2004	岩手県	大船渡地方振興局	大船渡漁港海岸保全（陸閘製作・据付）工事	アルミ陸閘製作、扉体、戸当り、防雪カバー
54	2004	国土交通省	東北地方整備局	水沢管内排水樋門ゲート新設工事	フローティング起伏ゲート5門、油圧式開閉装置
55	2005	岩手県	水沢地方振興局	胆沢平野地区第392号（常盤転倒ゲート製作・据付）工事	手動式トルク式型SUS製転倒ゲート製作輸送・据付
56	2005	岩手県　遠野市	遠野市	加茂神社水路①整備工事	ベベルギア式スライドゲート1門、鋼製操作台グレーチング1式
57	2006	岩手県　陸前高田市	陸前高田市	要谷1号水門整備工事	躯体工事、扉体製作、戸当り製作、開閉装置
58	2006	岩手県	北上地方振興局	大荒沢川筋川舟地区鋼製スリット設置工事	
59	2006	宮城県	気仙沼土木事務所	外尾川防潮水門機械設備工事	
60	2007	岩手県	宮古地方振興局	茂師漁港海岸陸閘（門扉改修）工事	門扉製作据付
61	2007	国土交通省	東北地方整備局	古川排水樋門ゲート新設工事	電動ラック式鋼製ローラゲート製作据付
62	2007	宮城県	石巻土木事務所	洲崎海岸陸閘ゲート製作据付工事	アルミ合金製横引戸　W4.0m×H1.2m

63	2008	岩手県　陸前高田市	陸前高田市	要谷門扉整備工事	
64	2008	岩手県	大船渡地方振興局	広田漁港海岸保全(扉体製作据付)工事	アルミ合金製横引戸、バランスウェイト式フラップ
65	2008	国土交通省	東北地方整備局	北上川上流樋門設備等改修工事	工場塗替塗装、現場塗替塗装、改修箇所撤去及び据付
66	2008	岩手県	宮古地方振興局	大沢漁港海岸保全(扉体製作据付)工事	スライドゲート2門　アルミ合金製横引戸
67	2008	岩手県	宮古地方振興局	山田漁港海岸門扉補修工事	門扉補修
68	2009	岩手県	大船渡地方振興局	大船渡漁港海岸保全(水門扉体製作据付)工事	ステンレス製スライドゲート　W3.0m×H1.35m
69	2009	岩手県	沿岸広域振興局	大船渡漁港海岸保全(陸閘扉体製作据付)工事	アルミ合金製横引戸　3門バランスウェイト式フラップ
70	2010	岩手県　陸前高田市	陸前高田市	脇之沢漁港門扉整備工事	
71	2010	岩手県	大船渡地方振興局	大船渡港野々田地区水門扉体製作据付・電気設備工事	ローラーゲート　1門
72	2011	岩手県　陸前高田市	陸前高田市	脇ノ沢漁港門扉整備工事	据付工　2門、製作工　1門
73	2011	国土交通省	東北地方整備局	北上川上流樋門ゲート修繕工事	
74	2011	岩手県	岩手県	岩手県大船渡管内水門・陸閘一次点検調査業務委託	
75	2011	国土交通省	東北地方整備局	北上川上流樋門ゲート修繕工事	土橋排水樋管:吊り部改造・開閉機電動化、電源設備・照明設備、ゲートのフラップ化
76	2011	岩手県	岩手県	大船渡・陸前高田・釜石地区門扉調査・設計業務	水門・陸閘の測量・調査・設計　160基
77	2011	岩手県	沿岸広域振興局	大船渡漁港海岸保全(陸閘扉体製作据付)工事	アルミ合金製横引きゲート
78	2012	国土交通省	秋柴重機㈱	北上川上流大堰川排水樋門新設工事	鋼製ローラゲート製作据付　3門、管理橋・防護柵製作据付、機側操作盤、水位計
79	2013	岩手県	県北広域振興局	野田地区海岸(泉沢)災害復旧機械設備工事	ステンレス製階段1.7t、開閉器分解整備　3基、開度計曲がり矯正　現地作業　1基
80	2014	岩手県	県北広域振興局	種市漁港県単災害復旧(水門等)工事	アルミフラップ製作　1門、開閉装置整備　2基、撤去・据付工　1式
81	2014	岩手県	沿岸広域振興局	田老地区海岸災害復旧工事	1号・2号樋門ゲート(製作・据付)油圧ユニット(オートゲート)　1式
82	2014	国土交通省	東北地方整備局	北上川上流機械設備修繕工事	開閉装置等交換1式、塗替塗装工、足場支保工
83	2015	岩手県	沿岸広域振興局	農地海岸保全施設災害復旧事業合足地区第2号水門機械設備工事	プレートガータ式ステンレス製ローラゲート　1門、アルミ合金製横引戸　1基
84	2016 竣工予定	岩手県	岩手県知事	釜石港須賀地区ほか海岸災害復旧陸閘設備ほか工事	須賀陸閘7基、須賀水門1基、大平陸閘1基、大平樋門2基　SUS304製、製作・据付、他水門2基
85	2017 竣工予定	岩手県	岩手県知事	二級河川須崎川筋須崎川ほか水門設備工事	須崎川水門:鋼製シェル構造ローラーゲート1門 野々田水門:アルミ合金製プレートガーダ構造ローラーゲート1門、他電気設備等
86	2019 竣工予定	岩手県	岩手県知事	二級河川大槌川筋大槌の1地区ほか河川災害復旧水門設備工事	大槌川水門:鋼製シェル構造ローラーゲート4門 小鎚川水門:鋼製シェル構造ローラーゲート3門 その他電気設備等一式
87	2019 竣工予定	岩手県	岩手県知事	二級河川鵜住居川筋鵜住居地区河川災害復旧水門設備工事	鵜住居川水門:鋼製シェル構造ローラーゲート5門 その他電気設備等一式
88	2019 竣工予定	岩手県	岩手県知事	二級河川甲子川筋甲子川水門設備工事	甲子川水門:鋼製シェル構造ローラーゲート4門 その他電気設備等一式

〈4〉JR・鉄道構造物

全727件中71件抜粋

No.	年　月	納　入　先	受　注　先	工　事　件　名	工　事　内　容
1	1973	日本国有鉄道	日本国有鉄道	山田線　大槌川橋梁橋側歩道災害復旧工事	253m
2	1974	日本国有鉄道	日本国有鉄道	山田線　長内川橋梁橋側歩道新設工事	77m
3	1975	日本国有鉄道	日本国有鉄道	釜石構内　第5釜石街道BV橋桁防護工架設工事	2基
4	1976	日本国有鉄道	日本国有鉄道	花巻駅旅客上屋鉄骨工事	
5	1978	日本国有鉄道	日本国有鉄道	花巻駅構内花巻公共地下道新設金物工事	
6	1978	日本国有鉄道	日本国有鉄道	東北本線　胆沢川橋梁橋側歩道修繕工事	220m
7	1979	日本国有鉄道	日本国有鉄道	北上線　第1沢入川外4橋梁橋側歩道新設工事	38m
8	1980	日本国有鉄道	日本国有鉄道	東北本線　和賀川橋梁橋側歩道修繕工事	400m
9	1981	日本国有鉄道	日本国有鉄道	大船渡線　矢作川橋梁橋側歩道新設工事	61m
10	1982	日本国有鉄道	日本国有鉄道	山田線　第1水海川外1橋梁検査足場取付工事	7基+待避所4基
11	1983	日本国有鉄道	日本国有鉄道	大船渡線　気仙川橋梁橋側歩道新設工事	138m
12	1984	日本国有鉄道	日本国有鉄道	大船渡線　第3砂鉄川外3橋梁橋側歩道修繕工事	288m
13	1985	日本国有鉄道	日本国有鉄道	東北幹北上ST北部待避所設置	26箇所
14	1986	日本国有鉄道	日本国有鉄道	東北幹　水沢江刺駅乗降場階段手摺修繕工事	SUS手摺4箇所
15	1987	東日本旅客鉄道㈱	東日本旅客鉄道㈱	東北幹　保守用通路補強枠製作運搬工事	1500箇所
16	1988	東日本旅客鉄道㈱	仙建工業㈱	東北本線　松島駅構内自由通路上部工工事	鉄骨組立架設
17	1988	東日本旅客鉄道㈱	東日本旅客鉄道㈱	東北幹　316K600M付近外5逆L防音壁新設工事	560m
18	1989	東日本旅客鉄道㈱	東日本旅客鉄道㈱	東北本線　津志田B橋桁修繕工事	2箇所
19	1990	東日本旅客鉄道㈱	東日本旅客鉄道㈱	盛構内自由通路新設1(桁製作運搬)工事	L56.5m×W2.5、67t
20	1990	東日本旅客鉄道㈱	東日本旅客鉄道㈱	糠ノ目駅構内自転車等通路新設(鉄骨製作)工事	L51.6m×W5.8、98t

21	1991	東日本旅客鉄道㈱	三井建設㈱	愛宕こ道橋刃口、スカート製作運搬工事	115t
22	1992	東日本旅客鉄道㈱	東日本旅客鉄道㈱	盛岡上盛岡間境田Bv新設（鉄桁製作）工事	埋設桁20t
23	1993	東日本旅客鉄道㈱	東日本旅客鉄道㈱	ほっとゆだ・ゆだ高原間第4鬼が瀬川B橋桁他修繕	10箇所
24	1994	東日本旅客鉄道㈱	仙建工業㈱	ほっとゆだ構内自由通路新設（桁及び鉄骨架設）工事	90t
25	1995	東日本旅客鉄道㈱	東日本旅客鉄道㈱	北上新花巻間（下）453k980m外385箇所グレーチング手摺修繕工事	386箇所
26	2000	東日本旅客鉄道㈱	㈱ジェイテック	浜松町エレメント製作・輸送	306.326t
27	2002	東日本旅客鉄道㈱	㈱ジェイテック	耳取川橋梁新設　標準エレメント	284.757t
28	2002	東日本旅客鉄道㈱	㈱ジェイテック	浜松町エレメント製作・輸送	306.326t
29	2003	東日本旅客鉄道㈱	東日本旅客鉄道㈱	東北本線盛岡駅構内工事桁製作・運搬	工事桁製作・運搬
30	2003	東日本旅客鉄道㈱	東日本旅客鉄道㈱	二本松B改築（工事桁製作運搬）工事	工事桁製作運搬L12.4m　15.3t
31	2003	東日本旅客鉄道㈱	㈱ジェイテック	磐越西線田付川橋梁改築橋台エレメント製作運搬	橋台エレメントL7.0m　34.39t
32	2004	東日本旅客鉄道㈱	㈱ジェイテック	成田駅構内不動ヶ岡調整エレメント	調整エレメント103t
33	2004	東日本旅客鉄道㈱	㈱ジェイテック	燕・燕三条間井戸巻跨道橋新設	調整エレメント10t
34	2004	東日本旅客鉄道㈱	㈱ジェイテック	浦和駅構内高架化橋台エレメント製作運搬	標準エレメント310.4t、調整エレメント30.9t
35	2004	東日本旅客鉄道㈱	㈱ジェイテック	東北本線長町駅構内郡山閑上こ道橋改築工事	橋台エレメント196t
36	2004	東日本旅客鉄道㈱	㈱ジェイテック	東北線片岡・矢板間木幡通りこ道橋エレメント製作	標準エレメント375.037t、調整エレメント30.603t
37	2004	東日本旅客鉄道㈱	㈱ジェイテック	川尻・高萩間関平こ道橋外1エレメント製作・運搬	標準エレメント130.82t、調整エレメント30.57t
38	2005	東日本旅客鉄道㈱	東日本旅客鉄道㈱	東北新幹線くりこま・一関間一関T外1緩衝工製作・運搬	第2有壁トンネル緩衝工40.8t、一関トンネル緩衝工51.6t
39	2005	東日本旅客鉄道㈱	㈱ジェイテック	中央線日野春・長坂間長坂BVエレメント試作運搬	標準エレメント183.9t、調整エレメント15.1t
40	2006	東日本旅客鉄道㈱	㈱ジェイテック	槻木・岩沼間岩沼排水路エレメント	標準エレメント357.65t、ダミーエレメント40.88t、調整エレメント43.57t
41	2006	東海旅客鉄道㈱	㈱ジェイテック	島田エレメント	34.655t
42	2006	東日本旅客鉄道㈱	㈱ジェイテック	中神エレメント	233.1t
43	2007	東日本旅客鉄道㈱	鉄建建設㈱	新宿基盤整備人工地盤新設1　PC工事桁連結金具製作	工事桁連結金具10.25t
44	2007	東日本旅客鉄道㈱	㈱ジェイテック	久曽津川Bエレメント	75.628t
45	2007	東日本旅客鉄道㈱	㈱ジェイテック	山形駅構内双葉町BVエレメント製作	819.4t
46	2008	東日本旅客鉄道㈱	㈱ジェイテック	吉川エレメント	1057t
47	2009	東日本旅客鉄道㈱	東日本旅客鉄道㈱	仙石線松島海岸・高城町間磯崎こ道橋桁製作運搬	桁42.650t、かんざし梁9.378t
48	2009	東日本旅客鉄道㈱	東日本旅客鉄道㈱	（仮）東北新幹線トンネル緩衝工	第二栗須T3t、蔵王T37t、第3利府T17t、第二左足山T272t他
49	2009	東日本旅客鉄道㈱	ユニオン建設㈱	六原・北上間鬼柳bv（上）橋桁他衝撃災害応急工事	橋桁修繕、桁下防護工修繕
50	2009	東日本旅客鉄道㈱	仙建工業㈱	西大崎・岩出山間　新堀川橋りょう桁取替工事	桁製作
51	2009	東日本旅客鉄道㈱	㈱ジェイテック	金町BVエレメント	860t
52	2010	東日本旅客鉄道㈱	東鉄工業㈱	日陰橋バックルプレート桁改良	バックルプレート桁　7.6t
53	2010	東日本旅客鉄道㈱	第一建設工業㈱	新庄・升形間 備前川橋りょう橋桁取替工事	0.635t
54	2011	東日本旅客鉄道㈱	㈱吉田産業	呉服橋架道橋バックルプレート桁改良	43.5t
55	2011	東日本旅客鉄道㈱	ユニオン建設㈱	大浜川B橋桁他撤去災害応急（桁補修）工事	鉄道桁補修（10.2m×4本　1本当り6t）　1式
56	2011	東日本旅客鉄道㈱	鉄建建設㈱	夏井川谷津作B改良エレメント製作運搬	工場製作工　87.676t
57	2012	東日本旅客鉄道㈱	ユニオン建設㈱	災害応復旧（太平洋地震）八木橋橋りょう補修工事	5m、桁補修　1式、桁撤去・据付工　1式
58	2012	東日本旅客鉄道㈱	東鉄工業㈱	日陰橋バックルプレート桁製作	バックルプレート　7.7t
59	2012	東日本旅客鉄道㈱	第一建設工業㈱	新庄・升形間桂堰橋りょう桁取替工事	0.7t
60	2012	西日本旅客鉄道㈱	㈱ジェイテック	米永エレメント	エレメント　203t、FRP貼付　192.5m
61	2013	東日本旅客鉄道㈱	東鉄工業㈱	浜崎第4架道橋バックルプレート製作	バックルプレート　38t
62	2013	東日本旅客鉄道㈱	㈱横河ブリッジ	新橋駅改良（I期）作業用構台　鉄骨製作運搬	工場製作工　676.5t
63	2013	東日本旅客鉄道㈱	東鉄工業㈱	内田町第一架道橋バックルプレート桁製作	バックルプレート桁　7.5t
64	2013	東日本旅客鉄道㈱	㈱ジェイテック	高崎線桶川・北本間二ツ家Bv新設	エレメント715.3t、ダミーエレメント210.5t、調整エレメント95.2t　計1,021t
65	2014	東日本旅客鉄道㈱	㈱吉田産業	平泉駅構内乗換こ線橋新設他（架設）工事（仮）	こ線橋桁架設 地組・架設 22t、階段桁架設 地組・架設 22t、EV塔屋架設 地組・架設 15t
66	2014	三陸鉄道㈱	仙建工業㈱	三陸鉄道㈱南リアス線　恋し浜駅旅客通路新設工事	
67	2014	東日本旅客鉄道㈱	仙建工業㈱	仙石線高城町・陸前小野間災害復旧工事（太平洋地震）（鉄道桁）	トラフガーダー　L6.5m、主桁H488×300×11他5.186t
68	2014	東日本旅客鉄道㈱	仙建工業㈱	中野栄駅エレベータ新設他	連絡通路部L26.625m、こ線部L15.9m 60.164t、亜鉛メッキ工306m2／56.06t　1式
69	2014	東日本旅客鉄道㈱	ユニオン建設㈱	新月・気仙沼間切通橋りょう橋桁取替工事	切通し橋橋梁桁架設　アンカー削孔、既設桁撤去、新設架設　4.6t
70	2014	東日本旅客鉄道㈱	㈱ジェイテック	品鶴線大崎駅構内住吉こ道橋他新設（エレメント）工事	エレメント本体454.832t、調整エレメント39.525t、FRP貼付992m
71	2015	東日本旅客鉄道㈱	㈱ジェイテック	岩崎川橋りょう台エレメント製作	エレメント製作63.133t、メッキ38.32t、（JES形鋼）

〈5〉スノーシェルター・合成床版・ハイブリッド防潮堤

全61件中34件抜粋

No.	年　月	納　入　先	受　注　先	工　事　件　名	工　事　内　容
1	1982	岩手県	PSコンクリート㈱	二枚橋跨線橋スノーシェルター製作据付工事	
2	1986	岩手県	岩手県	花巻大曲線鉛地区スノーシェルター上部製作工事	
3	1987	岩手県	岩手県	107号線杉名畑地区スノーシェルター上部工	
4	1988	岩手県	二戸土木事務所	軽米大沢頭地区スノーシェルター第2工区工事	
5	1988	岩手県	新日本製鉄㈱	湯田町下前地区スノーシェルター工事	
6	1990	岩手県	一関土木事務所	一般国道342号祭時の4地区スノーシェルター上部工工事	72m, 105t
7	1991	岩手県	北上土木事務所	107号線大荒沢の1地区スノーシェルター上部工製作工事	39m, 71.3t
8	1995	岩手県	北上土木事務所	一般国道107号和賀仙人2地区スノーシェルター製作工事	L=51m, 96.5t
9	2000	建設省 関東地方建設局	住友金属工業㈱	新神宮橋サンドイッチ床版製作・輸送工事	パネル31台　236.7t
10	2001	宮城県	住友金属工業㈱	大沼通線橋梁TRC床版製作・輸送工事	TRC床版
11	2002	日本道路公団	住友金属工業㈱	東海北陸自動車道栗ヶ谷橋TRC床版製作・輸送工事	合成床版166t
12	2004	名古屋公社	住友金属工業㈱	亀山ハイウェイオアシス橋国道1号跨道部TRC床版	TRC床版　L50.4×W6.890、40.18t
13	2005	福島県	ショーボンド建設㈱	別茶屋橋上部工工事	ショーボンドプレキャスト床版、ハンチ加工1.9t
14	2005	岩手県	ショーボンド建設㈱	(仮称)高洞谷橋合成床版製作	プレキャストパネル26t
15	2005	国土交通省 東北地方整備局	ショーボンド建設㈱	和賀大橋床版工工事	ウルトラ床版2,215㎡
			高田機工㈱	和賀大橋床版工工事	ツインプレート床版6,283㎡
16	2006	秋田県	ショーボンド建設㈱	吉野橋ウルトラ床版製作・運搬	加工数量41.7t
17	2006	日鐵エンジ	住友金属工業㈱	国道280号TRC床版製作	TRC床版52パネル　1464㎡、111.5t、鋼製型枠273m、9.30t
18	2008	トピー工業	住友金属工業㈱	胆沢TRC床版製作	277t
19	2008	片山他JV	住友金属工業㈱	古渡橋　TRC床版製作	442t
20	2008	国土交通省	㈱横河ブリッジ	館野高架橋パワースラブ製作	製作
21	2009	岩手県	盛岡地方振興局	一般国道106号区界地区スノーシェルター改築工事	製作加工118.8t、屋根材62.3t、架設119.7t、屋根架設2503㎡　他
22	2009	岩手県	㈱横河ブリッジ	簗川5号橋パワースラブ製作・輸送	パワースラブ1
23	2009	国土交通省 関東地方整備局	㈱横河住金ブリッジ	横町第二TRC床版製作	TRC床版　耐候性鋼板　4000㎡
24	2010	国土交通省 青森河川国道事務所	㈱横河ブリッジ	大林川橋パワースラブ製作	パワースラブ74.519t、スイープブラスト666㎡
25	2010	兵庫県	㈱横河住金ブリッジ	石守広見第13高架橋TRC床版	TRC床版2097㎡
26	2011	国土交通省 長野国道事務所	ショーボンド建設㈱	H22淺川新橋床版修繕他工事	合成プレキャスト床版36枚 27.084t、塗装775㎡
27	2012	岩手県	県南広域振興局	一般国道107号向山スノーシェルター更新工事	工場製作・工場塗装・既設シェルター撤去・架設140.4t
28	2012	国土交通省 中国地方整備局	㈱横河住金ブリッジ	海山IC橋・TRC床版製作	TRC床版3678.7㎡
29	2012	東日本高速道路㈱	㈱横河住金ブリッジ	東京外環自動車道(ランドクロストラス桁製作)	トラス桁94.6t、横桁48.2t、補強材27.2t、補強材取付112本
30	2012	茨城県	㈱横河住金ブリッジ	水府橋TRC床版製作	TRC床版3,300㎡
31	2013	岩手県	日本コルゲート㈱	平成橋波板ウェブ橋りょう製作	波形鋼板ウェブ橋梁製作　349t
32	2014	樋下建設㈱	㈱横河住金ブリッジ	宮古港海岸藤原地区防潮堤工事(ハイブリッド防潮堤)	フーチング金物146.79t、連結金物59.136t、コンクリート打設210㎥　総延長1.9km(予定)
33	2014	東京都	㈱横河住金ブリッジ	大橋トンネル用TRC床版	TRC床版5,000㎡
34	2014	秋田県	日本コルゲート㈱	葛原一号橋波板ウェブ製作	波形鋼板ウェブ橋梁製作　118.3t

〈6〉ダム・発電所関連

全434件中24件抜粋

No.	年　月	納　入　先	受　注　先	工　事　件　名	工　事　内　容
1	1982	岩手県　企業局	施設総合管理所	岩洞第2発電所水槽制水門扉水密ゴム取替工事	
2	1983	建設省	東北地方建設局	御所ダム共同取水口階段設置工事	
3	1984	建設省	東北地方建設局	御所ダム水位計管理用手摺設置工事	アルミ手摺28.5m
4	1985	岩手県　企業局	県南施設管理所	胆沢第2発電所若柳堰堤ゲート機器防雪装置新設	
5	1986	岩手県　企業局	県南施設管理所	仙人発電所取水口取り付け道路階段補修工事	5基
6	1987	青森県	ゼニヤ海洋サービス	下湯ダム流木止め設備(網場、通船ゲート)工事	
7	1988	建設省	東北地方建設局	田瀬ダム左岸堤体階段取付工事	
8	1989	建設省	東北地方建設局	御所ダム繋船設備改造工事	
9	1990	建設省	東北地方建設局	田瀬ダム予備ゲート格納場改造工事	架台、階段
10	1991	建設省 東北地方建設局	㈱神戸製鋼所	宮ケ瀬ダム骨材生産設備	183t

11	1992	建設省	東北地方建設局	御所ダム浮桟橋補修工事	浮桟橋3基
12	1993	建設省	東北地方建設局	繋船設備工事（田瀬ダムレイクリゾート）	製作・据付
13	1994	建設省 東北地方建設局	㈱イスミック	四十四田ダムクレストゲート扉体改造工事	3.59×4.9, 3t
14	1995	建設省	東北地方建設局	繋船設備補修工事	四十四田・御所・湯田ダム
15	1998	建設省	東北地方建設局	四十四田ダム流木集積設備製作	
16	1998	東和電力所	電源開発㈱	東和電力所放水口ドラフト配水管補修工事	
17	1998	岩手県　企業局	県南施設管理所	仙人発電所放水路ゲート巻上機増設工事	
18	1999	岩手県　企業局	県南施設管理所	仙人発電所水圧鉄管補修工事	マンホールφ726
19	1999	東和電力所	電源開発㈱	東和電力所水圧鉄管伸縮管他補修工事	
20	2004	国土交通省	東北地方整備局	湯田ダム堤内階段設置工事	
21	2005	国土交通省	東北地方整備局	四十四田ダム堤内階段設置工事	
22	2005	岩手県　企業局	菱和建設㈱	岩洞第一発電所逆川堰堤維持放流設備設置その他工事	500×500スルースゲートステンレス製
23	2007	岩手県　企業局	菱和建設㈱	岩洞取水塔補修及び更新工事（スクリーン製作4基）	SUS304スクリーン製作　H14m×W2.3m、3.58t／基　4基
24	2013	岩手県　企業局	県南施設管理所	胆沢第四発電所水圧鉄管据付工事	水圧鉄管　t=9、45m、12.64t、 代替放流管　t=9、24m、5.1t

〈7〉その他

全980件中65件抜粋

No.	年　月	納　入　先	受　注　先	工　事　件　名	工　事　内　容
1	1965	建設省 東北地方建設局		四十四田ダムセメントサイロ工事	
2	1967	新興製作所		第二ビル五階鉄骨工事	
3	1967	青森県　五所川原市		ハイセトラー自動逆洗炉過機据付工事	
4	1968	㈱鉄興社		南部鉱業所　駅前選鉱場増設改良工事	
5	1968	八甲田観光㈱		八甲田ロープウェイ鉄塔製作・据付工事	
6	1969	㈱日立製作所		キソワクブラケット他製作工事	
7	1970	昭産商事		ブロイラー冷蔵庫付帯設備沈殿充水槽給排水処理設備工事	
8	1970	岩手製鉄㈱		焼結工場集塵用サイクロン製作据付工事	
9	1971	北東金属㈱		北東金属工場新築工事	
10	1971	足立ベニヤ㈱		足立ベニヤコールプレートリターン装置製作据付工事	
11	1972	日本重化学工業		アズミン製造設備工事	
12	1972	岩手県　水沢市		常盤小学校体育館鉄骨工事	
13	1973	日本飼料ターミナル		飼料貯蔵プラント増設工事	
14	1973	岩手県　湯田町		川尻保育園鉄骨工事	
15	1973	P.Sコンクリート㈱		新幹線軌条枠端板　他	
16	1974	太田農協		カントリーエレベーター据付工事	
17	1974	新日鉄釜石製鉄所		一次スクリーン架台改造工事	
18	1975	岩手県		花巻農業高校産振施設鉄骨工事	
19	1975	新日鉄釜石製鉄所		高炉用原料供給コンベア製作（2基）工事	
20	1976	小野田セメント		除塵機製作据付工事	
21	1977	日本道路建設公団		紫波サービスエリア高架水槽、レストハウス他鉄骨工事	
22	1977	小野田セメント		焼成設備機械煙道及ダスト沈降室製作据付工事	
23	1978	日本舗道㈱		アスファルト合成設備グクトその他製作据付工事	
24	1966	㈱今弘商店	㈱今弘商店	ホイストジブクレーン製作据付工事	1.0t×4m
25	1968	千葉春商店	千葉春商店	天井走行クレーン製作据付工事	2.0t×11m
26	1970	岩手日立商品	岩手日立商品㈱	天井走行クレーン製作据付工事	2.5t×13m
27	1972	㈱野崎商店	㈱野崎商店	天井走行クレーン製作据付工事	2.8t×18m×2台
28	1980	春山建設㈱	春山建設㈱	天井走行クレーン製作据付工事	5.1, 10.2t×12.97m
29	1982	岩手県　盛岡市	向洋電機㈱	中川原終末処理場沈澱池及分流ポンプ室機器据付	
30	1982	三菱製紙㈱	三菱製紙㈱	晒温水ブロー配管、オイレス起業配管工事	
31	1982	キリンビール	東北大江工業㈱	#128フラッシュサイレンサ、スクリューコンベア製作	1基、7基
32	1983	日本重化学	日重建設㈱	花巻工場バケットエレベータケースライニング	SUS
33	1983	建設省 東北地方建設局	PSコンクリート㈱	青森　新城高架橋検査廊工事	
34	1984	岩手県　盛岡市	向洋電機㈱	中川原終末処理場分流ポンプ室機械設備工事	
35	1984	キリンビール	東北大江工業㈱	300石タンク、撹拌機製作	6基、36台
36	1984	岩手県　花巻市	岩手県　花巻市	花巻幼稚園藤棚設置工事	
37	1984	キリンビール	東北大江工業㈱	300石タンク、撹拌機製作	6基、36台

38	1985	三菱製紙㈱	ウノサワエンジニアリング㈱	八戸工場ストーカー設備工事	4連×13m
39	1985	日本道路公団	ノナガセ商事㈱	東北自動車道若木立橋検査路工事	
40	1985	堀江鋼鉄㈱	中央建設工業㈱	ホイスト式天井クレーン製作据付工事	5.1t, 2.8t×10.84m
41	1986	岩手県	北上川上流下水道	都南浄化センター散気筒交換工事	306本
42	1986	東北サンウッド㈱	東北サンウッド㈱	モートルブロック式天井クレーン製作据付工事	2.1t×4.5m
43	1986	日東産業	赤間機械設計事務所	砕石プラントコンベアフレーム及びシュート製作据付工事	
44	1987	小野新建設㈱	栗本商事㈱	砕石プラント新設工事	
45	1988	住金鉱業㈱	㈱イセキ開発工機	0.9W×14.0H　C型ベルタベーター製作据付工事	
46	1988	岩手県	日本ガイシ㈱	都南浄化センターシュート製作及び機器据付工事	
47	1989	日重建設㈱	日重建設㈱	VP-11集塵機設備ホッパー製作据え付け工事	20.65t
48	1989	日本鋼管㈱	内外建設工業㈱	鹿島第1高炉改修工事	24t
49	1989	運輸省	新日本製鉄㈱	釜石泉地区ケーソンヤード桟橋上部工塗装工事	
50	1990	㈱鈴安	岩手日立商品㈱	wレールホイスト式天井クレーン製作運搬	2.8T×22.25m
51	1990	岩手県	向洋電機㈱	岩手中部浄水場機械据付工事	
52	1990	横手広域清掃	㈱栗本鉄工所	流動床・焼却炉製作運搬	3.5×15m−65
53	1990	三菱製紙㈱	三菱製紙㈱	北上工場RB煙道修理（製作・据付）	
54	1991	千葉県	㈱三船鉄工所	ろ過タンク製作据付（7,000×10,000×H6,000）	56.5t
55	1991	日重建設㈱	日重建設㈱	集塵機設備No.2プロアバイパスダクト改造工事	
56	1992	三菱マテリアル㈱	三菱石油エンジニアリング	岩手工場サイロタンク製作据付	26t, φ6.0×15
57	1992	建設省	東北地方建設局	日方地下歩道排水設備工事	ポンプ, 操作盤
58	1992	竹中・住友・常総	住友金属工業㈱	カシマサッカースタジアム照明鉄塔製作・建方工事（4基）	H43.9m, 285t
59	1993	三菱製紙㈱	三菱製紙㈱	RB排ガス熱交架台及びダクト製作据付工事	
60	1993	岩手県	住友金属工業㈱	種市沖大型漁礁設置工事	10t×5基
61	1994	運輸省	住友金属工業㈱	那珂港ケーソンヤード照明塔製作輸送工事	6基, 67t
62	1995	三菱製紙㈱	三菱製紙㈱	600立米チェスト製作据付	SUS　30t　φ9.5m
63	1995	岩手県	向洋電機㈱	都南浄化センター沈砂池設備工事	
64	1998	建設省	東北地方建設局	亀ヶ森無線中継所鉄塔設置工事	43.3t　地上高31m　1基
65	2005	ショーボンド建設㈱	ショーボンド建設㈱	（仮称）水沢競馬場耐震補強工事	耐震鉄骨ブレース113t

〈8〉建築一式

全260件中46件抜粋

No.	年　月	納　入　先	受　注　先	工　事　件　名	工　事　内　容
1	1984	㈲斉藤運輸	住金物産㈱	㈲斉藤運輸社屋鉄骨工事	S造　290㎡
2	1985	堀江鋼鐵㈱	堀江鋼鐵㈱	北上加工センター新築工事	S造
3	1986	高源精麦㈱	高源精麦㈱	事務所及び倉庫新築工事	S造
4	1987	㈲斉藤運輸	㈲斉藤運輸	テナントビル新築工事	S造
5	1987	岩手県　花巻市	花巻市	花巻北中学校屋内運動場建築工事	S造　1363㎡
6	1988	㈱小瀬川商店	㈱小瀬川商店	配送センター新築工事	S造　1383㎡
7	1989	みちのくコカ・コーラ・ボトリング㈱	みちのくコカ・コーラ・ボトリング㈱	本社増改築工事	S造
8	1990	竹内真空皮膜㈱	竹内真空皮膜㈱	岩手工場新築工事	S造　1570㎡
9	1991	㈱東北宝製作所	㈱東北宝製作所	本社社屋新築工事	S造　4392㎡
10	1992	住建木材工業㈱	住建木材工業㈱	工場及び管理棟新築工事	S造他 2689㎡
11	1993	㈱フジ急便	㈱フジ急便	事務所及び倉庫新築工事	S造他　467㎡
12	1995	竹内真空皮膜㈱	竹内真空皮膜㈱	岩手工場増築工事	S造
13	1996	岩手県　花巻市	花巻市	若葉小学校屋内運動場建築工事	S造　1634㎡
14	1997	三菱製紙㈱	三菱製紙㈱	北上工場家庭紙製造施設工事	S造　5429㎡
15	1998	岩手県	岩手県	主要地方道紫波川井線道路休憩施設工事	RC　176㎡
16	1999	岩手県　花巻市	花巻市	高木南市営住宅E棟建替（建築）工事	RC造　888㎡
17	2003	㈲西村仏具店	㈲西村仏具店	花北ホール西村新築工事	S造平屋　579㎡
18	2004	㈶雇用振興協会仙台支所	㈶雇用振興協会仙台支所	雇用促進住宅水沢西宿舎外壁改修工事	RC5F建　1.2号棟　4767.76㎡ 集会所外　178㎡
19	2004	㈲HMT	㈲HMT	㈲HMT　花巻工場新築工事	S造　平屋　254.75㎡
20	2004	㈱昭和食品	㈱昭和食品	花巻工場　作業場増築工事	木造　平屋　50㎡
21	2005	おきも文具店	おきも文具店	おきも文具店　新築工事	S造　3階　220㎡
22	2005	㈱齋藤運輸	㈱齋藤運輸	花巻流通業務団地齋藤運輸倉庫新築工事	S造　平屋建て住友金属工業パック仕様 床面積　3,
23	2005	㈲高幸工業	㈲高幸工業	高幸工業　工場新築工事	S造平屋建て　建築面積480㎡

24	2006	岩手県　花巻市	花巻市	緑ケ丘市営住宅C棟(建築)工事	RC造4階建て　2655㎡
25	2006	㈱アイオー精密	㈱アイオー精密	㈱アイオー精密東和工場増改築工事	S造平屋建　1,144.44㎡
26	2006	㈱マックスコーポレーション	㈱マックスコーポレーション	つぼハ花巻店新装工事	木造2階建て　556.84㎡
27	2007	㈶岩手県建築住宅センター	㈶岩手県建築住宅センター	県営蒲沢アパート3,4号外壁補修工事	架設・解体工事、木・屋根工事、外壁・左官工事、塗装・雑工事
28	2007	㈱齋藤運輸	㈱齋藤運輸	㈱齋藤運輸　仙台支店事務所新設他工事	既設解体:S造2階1,152.0㎡、新設:S造ハウスメーカー68.4㎡、機械設備・電気設備・舗装747.1㎡
29	2008	岩手県　花巻市	花巻市	市営本館住宅C棟建設工事	RC造2階建、建築面積283.43㎡、延べ床面積487.79㎡
30	2008	㈱ミッシェル	㈱ミッシェル	(仮称)石窯パン工房　ミッシェル	店舗木造1階185.23㎡、工場木造1階69.04㎡、外構工事、電気設備工事、機械設備工事
31	2008	㈱ナガワ	㈱ナガワ	ジャパレン盛岡駅営業所新築工事	事務所棟基礎、キャノピー工事、外構工事、電気設備工事、給排水設備工事
32	2009	岩手県　花巻市	花巻市	市営本館住宅B棟建設(建築)工事	建築工事　RC造2階建て、外構工事
33	2009	岩手オリコミ広告	岩手オリコミ広告	岩手オリコミ広告倉庫増築工事	S造倉庫平屋132.0㎡、屋根折板葺き147.0㎡、外壁角波トタン154.4㎡、シャッター3箇所
34	2009	岩手県	宮古地方振興局	嶋之越地区海岸水門上屋新築工事	
35	2011	岩手県　花巻市	花巻市	総合体育館増築(建築)工事 (㈱伊藤組・㈱中央コーポレーション・㈲滝田工務店　JV)	鉄筋コンクリート造2階建 (延べ面積　5,624.21㎡)
36	2011	岩手県　花巻市	花巻市	石鳥谷消防分署庁舎新築(建築)工事	庁舎　S造2建て　延べ床面積　954.42㎡、発電棟　S造平建て　延べ床面積2.64㎡、補助訓練塔　S造平建て　延べ床面積　60.0㎡、訓練塔　S造平建て　延べ床面積　175.0㎡、外構工事・解体工事
37	2011	㈱昭和食品花巻工場	㈱昭和食品花巻工場	㈱昭和食品花巻工場増築工事	S1造階建て　143.25㎡
38	2012	岩手県　花巻市	花巻市	花巻市大迫町猫底・久出内地区移動通信用鉄塔工事	通信鉄塔40m・30m、敷地造成2箇所、外構施設2箇所、鉄塔基礎2箇所、局舎基礎2箇所
39	2012	㈱相庄	㈱相庄	㈱相庄社屋新築工事	建築工事、電機設備工事、機械設備工事、外構工事
40	2012	伊藤　進太郎　様	伊藤　進太郎　様	(仮称)伊藤歯科医院新築工事	建築工事、電気設備工事、機械設備工事、外構工事
41	2012	岩手県	医療局	岩手県立大槌病院仮設診療所管理棟増築工事	建築工事(プレハブ造)、電気設備工事、機械設備工事
42	2013	㈱ワイティ・クリエイション	㈱ワイティ・クリエイション	㈱ワイティ・クリエイション花巻市支店新築工事	S造平屋建(事務所ほか)255.54㎡、S造平屋建(展示場)70㎡、洗車場、外構工事
43	2013	岩手県	医療局	岩手県立中部病院非常用発電機設置増築工事	オイルタンク基礎工事、カルバート工事、発電機置き場設置、外構
44	2014	㈱西部開発農産	㈱西部開発農産	㈱西部開発農産　乾燥調製施設新築工事	建築工事S造729.03㎡、電気・機械設備工事、外構工事
45	2015	岩手県	岩手県知事	災害公営住宅(大船渡市綾里地内)新築工事	建物本体工事、外構工事
46	2016	岩手県	花巻空港事務所	花巻空港旅客ターミナルビル増築ほか北工区工事	増築工事、改修工事、解体撤去工事、外構工事

〈9〉住宅

2004年度～　全44件中21件抜粋

No.	年　月	納　入　先	工　事　件　名	工　事　内　容
1	2004	Y様	Y様邸　増築・改装工事	増築部分　2階建43.05㎡、　改装部分　1階17.92㎡
2	2004	K様	K様邸　新築工事	木造2階建店舗住宅
3	2004	A様	A様邸　新築工事	木造2階建　56.13坪
4	2006	I様	I様邸　新築工事	木造2階建　60.82坪
5	2006	K様	K様邸　新築工事	木造2階建　53.48坪
6	2007	M様	M様邸　新築工事	木造2階建　34坪
7	2008	T様	T様邸　新築工事	木造カラー鋼板葺き2階建　115.11㎡
8	2008	F様	F様邸　新築工事及び車庫新築工事	住宅:木造カラー鋼板葺2階建　70坪　車庫:木造カラー鋼板葺2階建　35.9坪
9	2008	T様	T様邸　新築工事	木造カラー鋼板葺き2階建　172.23㎡、L字擁壁、舗装、砕石敷き
10	2008	O様	O様邸　改築工事	解体工事、サッシ工事、外装工事、屋根修繕工事、和室内壁改修工事
11	2009	O様	O様邸　新築工事	木造カラー鋼板葺き2階建　131.45㎡、L字擁壁、舗装、カーポート
12	2010	A様	A様邸　新築工事	木造カラー鋼板葺き2階建　147.80㎡
13	2010	S様	S様邸　新築工事	木造カラー鋼板葺き2階建　138.76㎡
14	2011	T様	T様邸　新築工事	木造カラー鋼板葺き2階建　112.61㎡
15	2011	I様	I様邸　新築工事	木造カラー鋼板葺き2階建　115.95㎡
16	2011	C様	C様邸　新築工事	木造カラー鋼板葺き2階建　125.03㎡、　車庫他:木造　カラー鋼板葺き平屋　31.05㎡
17	2012	S様	S様邸　新築工事	木造カラー鋼板葺き2階建　146.56㎡、カーポート:28.58㎡、舗装207㎡、フェンス72㎡、既存解体
18	2013	K様	K様邸　新築工事	木造2階建シングル材葺き　108.48㎡
19	2014	S様	S様邸　新築工事	木造2階建シングル材葺き　103.50㎡
20	2014	U様	U様邸　新築工事	木造2階建カラー鋼鈑葺き　150.15㎡
21	2015	I様	I様邸　新築工事	木造2階建ファイバーグランスシングル材葺き　138.51㎡

〈10〉工事写真

1. 橋梁・水管橋工事

岩手県　川口橋［横河ブリッジ様とJVで施工］（2015.8）

東北地方整備局　太刀打こ道橋（2007.1）
［旭イノベックス様とJVで施工］

岩手県　梁川ダム10号橋（2010.8）［旧松尾橋梁様、旭イノベックス様とJVで施工］

宮城県　屏風岩橋（2008.12）

岩手県　長沢川橋（2014.9）

岩手県　平成橋（2013.9）［日本コルゲート様に納入］

岩手県　一本木バイパス（2003.3）

岩手県　九重橋（2006.11）

岩手県　市野々原6号橋（2006.1）

東北地方整備局　南長内沢橋（2007.9）
［旭イノベックス様とJVで施工］

2. 橋梁補修工事

岩手県　仙人大橋補修（2013.11）

東北地方整備局　畳石橋補修（2013.1）

岩手県　北上川橋補修（2010.9）

花巻市　白金橋補修（2006.3）

仙台市　澱橋補修補修（2014.3）

岩手県　江雲橋補修（2014.3）

東北地方整備局　胆沢ダム付替国道3工区補修（2010.3）

花巻市　朝日橋補修（2014.4）

宮城県　名取水管橋補修（2007.8）

宮城県　古内水管橋補修（2009.3）

3. 水門・陸閘工事

岩手県　大槌・小鎚水門（2015.10）［丸島アクアシステム様とJVで施工］

岩手県　須賀12号陸閘（工場内試運転中）（2015.10）
［丸島アクアシステム様とJVで施工］

岩手県　須賀12号陸閘据付［丸島アクアシステム様とJVで施工］

岩手県　須賀12号陸閘据付（2015.10）［丸島アクアシステム様とJVで施工］

岩手県　合足陸閘（2015.3）

東北地方整備局　古川排水樋門（2007.3）

4. その他工事

岩手県　宮古市藤原地区ハイブリッド防潮堤（2015.9）
［横河住金ブリッジ様へ納入］　総延長1.9km（予定）

岩手県　宮古市藤原地区ハイブリッド防潮堤　［同左］

岩手県　区界スノーシェルター（2009.3）

JR東海　中呂エレメント［ジェイテック様へ納入］（2009.6）

環境省　浄土ヶ浜遊歩道［菱和建設様へ納入］（2013.3／SIC工法）

カシマサッカースタジアム照明鉄塔［住友金属工業様へ納入］（1992.12）

5. 建築一式

岩手県　綾里災害公営住宅（2015.2）

花巻市　花巻市総合体育館現場（2011.11）［伊藤組様、滝田工務店様とJVで施工］

花巻市　花巻市総合体育館　［同左］

花巻市　緑が丘市営住宅（2006.9）

花巻市　本館市営住宅（2009.3）

石窯パン工房ミッシェル（2008.3）

6. 住宅

花巻市 I様邸

花巻市 M様邸

花巻市 S様邸

花巻市 I様邸

石鳥谷町 K様邸

花巻市 A様邸

花巻市 T様邸

花巻市 M様邸

NETIS登録No.TH-140010-A

金属溶射の塗装工程省力化工法（SIC工法）

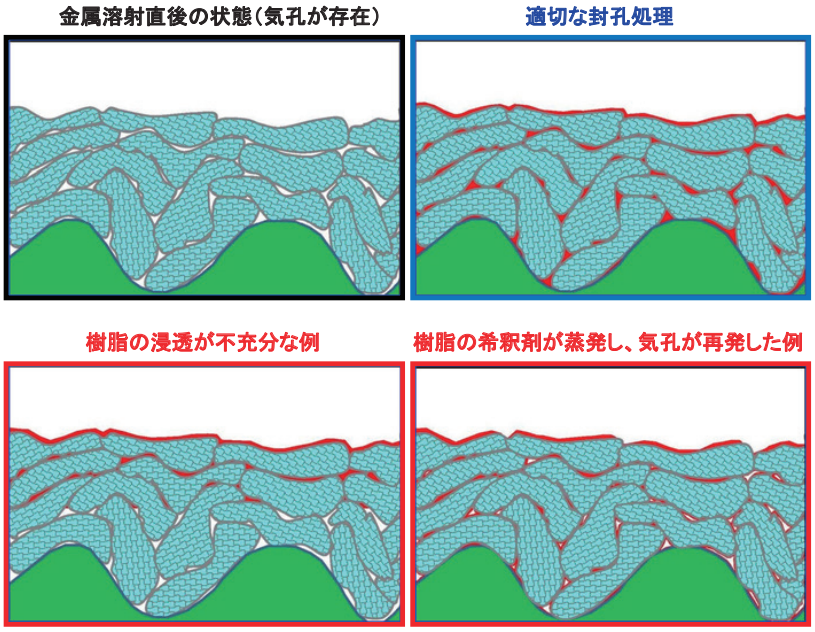
Spraying with Inorganic Coating Corrosion Prevention

（腐食防止のための無機系コーティングによるスプレー）

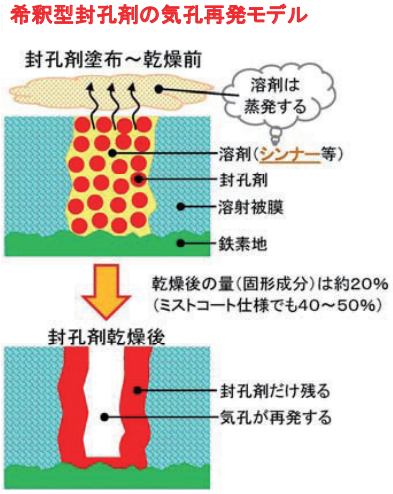
金属溶射とは？

■金属溶射は、溶融亜鉛めっき同様の犠牲防食作用で鉄を守り、現場施工が可能です。

金属溶射被膜には多数の孔（気孔）が存在するため、樹脂で孔埋め（封孔処理）を行い、塗装で仕上げます。



残った気孔は、塗膜剥離の原因となります



「金属溶射の塗装工程省力化工法」（SIC工法）の特長

■無溶剤1液型無機系封孔剤（SICシーラー）で封孔処理と塗装を行います。

工程ほか／工法		SIC工法	従来工法
防食下地		金属溶射	金属溶射
封孔処理 （1次封孔処理）		SICシーラー 希釈不要	希釈したエポキシ樹脂 （希釈型封孔剤）
塗装部	下塗	不要	エポキシ樹脂 120μm
	中塗	不要	ふっ素樹脂 30μm
	上塗 （2次封孔処理）	SICシーラー 40μm	ふっ素樹脂 25μm
工　程　数		金属溶射後2工程	金属溶射後4工程
環境	VOCの含有 （揮発性有機化合物）	なし	あり

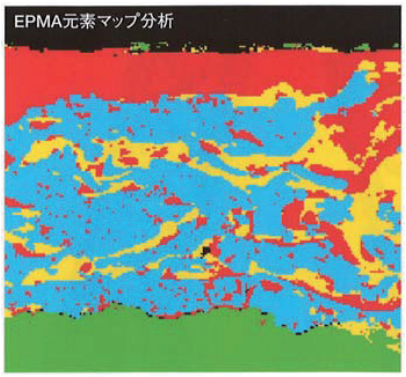
※（　）内の工程は、SIC工法独自の表記です

固形成分が多く、揮発性有機化合物を含まず、浸透性の高いSICシーラーの特性を活かし、
気孔の再発が無い適切な封孔処理と、耐候性のある上塗で仕上げる省力化工法です。

SICシーラーの特性

SICシーラーによる封孔処理＋塗装の元素マップ図

亜鉛・アルミニウム溶射被膜への封孔処理＋上塗のEPMA元素マップ



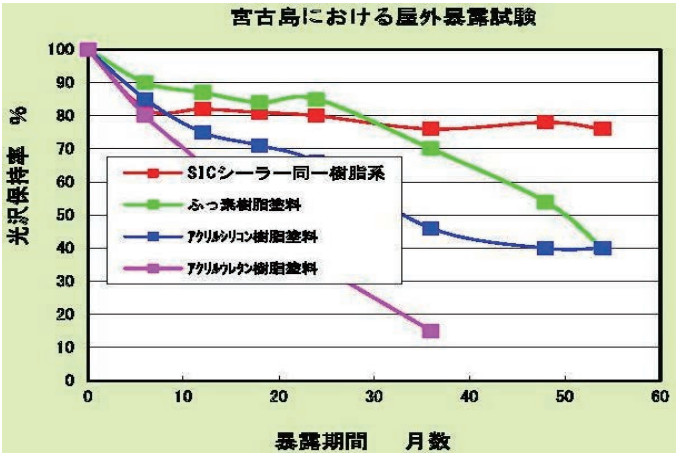
色の説明
- ●SICシーラー
- ●亜鉛
- ●アルミニウム
- ●鉄素地

●亜鉛・●アルミニウム溶射の被膜内部にある気孔を●のSICシーラーが封孔し、鉄素地まで浸透。
被膜上部に塗膜を形成する●と、気孔に浸透した樹脂が一体化し、塗膜剥離を防止します。

SICシーラーの耐候性試験　→

耐紫外線性に優れた塗膜（上塗）を形成します。

※　光沢の低下　→　チョーキングの進行（劣化の始まり）



浸透性・硬度

グレード別の浸透性と硬度

SICシーラーのグレード	金属溶射被膜への浸透性	乾燥後の硬度
HS－100	200μm	4～5H
HS－200	500μm	3～4H

封孔性能の比較データ（固形成分の含有率）

※　固形成分は、気孔の閉塞率に直結した値です。

封孔剤	原液固形成分	希釈材%	希釈材の量	固形成分【封孔率】
SICシーラー（HS－100クリアー色）	80.9%	不要	0	約80%
希釈したエポキシ樹脂（ミストコート仕様）	68%	30～60%（比重0.86）	30% 100×30%÷0.86＝35 60% 100×60%÷0.86＝70	30% (68÷(100＋35))×100＝50% 60% (68÷(100＋70))×100＝40%

※　上表の「希釈したエポキシ樹脂」は、顔料を含む固形成分であり、微細孔である気孔に顔料は浸透せず、クリアー成分のみが浸透することから、気孔の閉塞に関わる固形成分は上表の値より少なくなります。

耐紫外線性の比較データ

※　塗膜の劣化に一番影響を与えるのは紫外線です。

塗料	主要な分子結合	分子の結合解離エネルギー	結合解離エネルギー相当の紫外線波長	紫外線波長 UVA：315～380nm UVB：280～315nm UVC：280nm未満	紫外線による影響
SICシーラー	Si－O	431KJ/mol	278nm	UVCのレンジで分子が結合解離	UVCは通常地上に届かず、紫外線の影響を受けにくい
ふっ素樹脂	C－C	356KJ/mol	334nm	UVAのレンジで分子が結合解離	UVAは全紫外線量の99%を締め、結合解離～劣化する

NETIS登録 No.TH-140010-A

施工イメージ

金属溶射

1次封孔処理

2次封孔処理

金属溶射の主な施工実績

発注者	受注形態	工　事　名	施　工　内　容
国土交通省	元請	畳石橋橋梁補修工事	支承30基　亜鉛ｱﾙﾐ溶射＋無溶剤1液型無機系封孔剤
国土交通省	下請	大石地区橋梁補強工事	支承39基　亜鉛ｱﾙﾐ溶射＋無溶剤1液型無機系封孔剤
国土交通省	下請	古廟地区橋梁補強工事	支承20基　亜鉛ｱﾙﾐ溶射＋無溶剤1液型無機系封孔剤
環境省	下請	平成24年度浄土ヶ浜集団施設地区海岸歩道等復旧工事	海岸遊歩道　494㎡　ｱﾙﾐ溶射＋無溶剤1液型無機系封孔剤
岩手県	元請	一般国道107号真木沢橋伸縮装置交換等工事	支承18基　亜鉛ｱﾙﾐ溶射＋ｴﾎﾟｷｼ樹脂
岩手県	元請	一般国道340号大渡橋耐震補強工事	支承14基　亜鉛ｱﾙﾐ溶射＋ｴﾎﾟｷｼ樹脂
岩手県	元請	主要地方道一関北上線江雲橋耐震補強（上部工）工事	支承32基　亜鉛ｱﾙﾐ溶射＋無溶剤1液型無機系封孔剤
岩手県	元請	主要地方道花巻衣川線新田橋耐震補強工事	支承16基　亜鉛溶射＋無溶剤1液型無機系封孔剤
岩手県	元請	一般国道455号袈野大橋耐震補強（上部工その１）工事	支承24基　亜鉛ｱﾙﾐ溶射＋無溶剤1液型無機系封孔剤
岩手県	元請	一般国道455号三田市橋橋梁耐震補強・補修（上部工）工事	支承16基　亜鉛ｱﾙﾐ溶射＋無溶剤1液型無機系封孔剤
岩手県	下請	一般国道281号馬渡下の橋橋梁補修工事	支承12基　亜鉛ｱﾙﾐ溶射＋無溶剤1液型無機系封孔剤
岩手県	下請	一般国道106号平津戸第一橋塗装塗替工事	支承　8基　亜鉛溶射＋無溶剤1液型無機系封孔剤
岩手県	下請	一般県道花巻雫石線豊沢橋橋梁補修工事	支承　4基　亜鉛ｱﾙﾐ溶射＋無溶剤1液型無機系封孔剤
岩手県	下請	一般国道340号管波橋橋梁補修工事	支承20基　亜鉛ｱﾙﾐ溶射＋無溶剤1液型無機系封孔剤
岩手県	下請	一般県道江刺金ヶ崎線金ヶ崎橋橋梁補修（塗装）工事	支承14基　亜鉛溶射＋無溶剤1液型無機系封孔剤
岩手県	下請	一般県道夏油温泉江釣子線夏油大橋橋梁補修工事	支承　8基　亜鉛ｱﾙﾐ溶射＋無溶剤1液型無機系封孔剤
岩手県	下請	一般国道281号鰻渕上の橋橋梁補修工事	支承　4基　亜鉛ｱﾙﾐ溶射＋無溶剤1液型無機系封孔剤
岩手県	下請	一般県道衣川水沢線笹森橋橋梁補修工事	支承16基　亜鉛ｱﾙﾐ溶射＋無溶剤1液型無機系封孔剤
岩手県	下請	一般国道397号漁止橋橋梁補修工事	支承　4基　亜鉛ｱﾙﾐ溶射＋無溶剤1液型無機系封孔剤
岩手県	下請	一般県道花巻和賀線下根子橋橋梁補修工事	支承16基　亜鉛ｱﾙﾐ溶射＋無溶剤1液型無機系封孔剤
岩手県	下請	一般県道石鳥谷花巻温泉線松林寺橋橋梁補修工事	支承12基　亜鉛ｱﾙﾐ溶射＋無溶剤1液型無機系封孔剤
岩手県	下請	一般県道宮古港磯鶏高架橋橋梁補修工事	支承　8基　亜鉛ｱﾙﾐ溶射＋無溶剤1液型無機系封孔剤
岩手県	下請	一般国道281号北鈴橋橋梁補修工事	支承10基　亜鉛ｱﾙﾐ溶射＋無溶剤1液型無機系封孔剤
岩手県	下請	一般国道107号田瀬大橋恒久対策工事	支承　4基　亜鉛ｱﾙﾐ溶射＋無溶剤1液型無機系封孔剤
岩手県	下請	一般国道340号馬場野橋ほか2橋橋梁補修工事	支承31基　亜鉛ｱﾙﾐ溶射＋無溶剤1液型無機系封孔剤
宮城県	元請	平成21年地創交5-5-003号敷玉橋橋梁補修工事	支承20基　亜鉛溶射＋ｴﾎﾟｷｼ樹脂
八戸市	下請	白銀・鮫間白銀Ｂｏペイント塗替工事	支承14基　亜鉛ｱﾙﾐ溶射＋無溶剤1液型無機系封孔剤
花巻市	元・下	市道朝日橋線（朝日橋）橋梁補修工事	支承20基　亜鉛ｱﾙﾐ溶射＋無溶剤1液型無機系封孔剤
花巻市	下請	市道天王橋・志戸平線（天王橋）橋梁補修工事	支承　4基　亜鉛ｱﾙﾐ溶射＋無溶剤1液型無機系封孔剤
NEXCO中日本	下請	亀山ハイウェイオアシス橋国道１号跨道橋TRC床版工事	床版360㎡　型枠159㎡　亜鉛ｱﾙﾐ溶射
ＪＲ東日本	下請	宿戸・陸中中野間災害応復旧（太平洋地震）桁架設工事	支承16基　亜鉛ｱﾙﾐ溶射＋無溶剤1液型無機系封孔剤

お問い合わせ

株式会社 中央コーポレーション

□本社営業部
〒025-0003　岩手県花巻市東宮野目11-5
tel.0198-26-3033　fax.0198-26-3035
e-mail　netis@m.e-chuoh.com

※　技術資料のダウンロードは　www.e-chuoh.com

□東北営業所
〒982-0015　宮城県仙台市太白区南大野田3-1
第3エステート斎藤103号室
tel.022-346-8531 fax.022-346-8386

金属溶射の塗装工程省力化工法（ＳＩＣ工法）の開発

㈱中央コーポレーション　○猪狩　達夫
㈱中央コーポレーション　正会員　工博　新銀　武
㈱中央コーポレーション　工博　髙木　録郎

１．まえがき

先進諸国において、鉄の生産量に対し腐食による損失は1割程度と言われており、我が国の 2013 年の粗鋼生産額が約1億1千万ｔであることより、1製鉄所の年産額にも及ぶ年間1千万ｔ強の鉄を損失していることになる。

図１　鋼橋の腐食状況

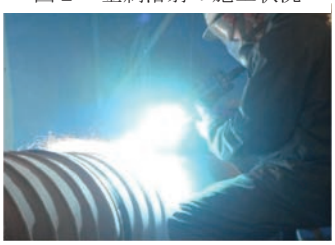
我が国は鉄の原材料を殆ど輸入に頼っていることから、腐食による損失を抑えることは経済的にも重要であり、また我々鋼構造物に携わる者としても、鋼道路橋の長寿命化を目指す上で重要な課題の１つといえる。

鋼構造物には耐候性鋼材、溶融亜鉛めっき、塗装、金属溶射など様々な防食法が採られているが、その金属溶射の従来工法に対して、耐久性、経済性等に優れた新しい工法開発を行ったので紹介する。

２．金属溶射と開発した工法の概要

金属溶射の防食システムは、溶融亜鉛めっきと同様の犠牲防食作用を主としており、鉄に対して亜鉛やアルミニウムの電位差を利用し、異種金属間電池を形成して鉄を防食する。

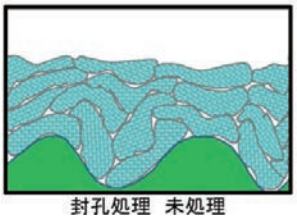
図２　金属溶射の施工状況



金属溶射は金属を溶かして圧縮空気を吹き付けることで、溶融した金属が微粒子となって飛行し、鉄素地に付着して瞬時に冷えて凝固させる工法であり、あたかもスプレーガンで塗装することより、鉄を熱変形させない、施工物の寸法に制限が無い、現場施工が可能である等の特長がある。

溶融金属粒子の積層被膜であることより、金属溶射の被膜内面はパンケーキ状のミクロン単位の粒子が重なり合った構造で、粒子間の隙間が被膜表面から鉄素地まで続くものがあり（貫通気孔）、被膜全体に 10%前後存在する。この気孔を塞ぐ封孔処理が防食上重要であり、さらに意匠性や防食性能向上のため塗装が行われる。

図３　溶射被膜断面のイメージ



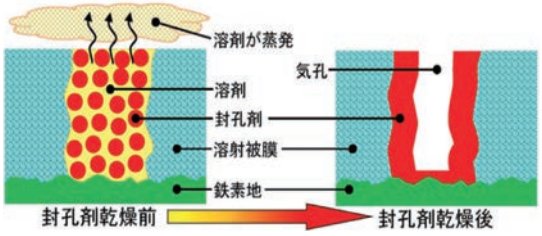
この気孔の封孔処理が不完全な場合、気孔に残存する空気、水分等による塗装塗膜の膨れ・割れ・剥離、溶射被膜損傷の早期化等、金属溶射の耐久性に大きく影響することがある。

従来は有機溶剤系塗料で封孔処理と塗装を行っていたが、紹介する工法は、無溶剤１液型無機系封孔剤を用いこれらの処理を行うことで、従来と比して、耐久性の向上、省工程、環境負荷の低減が期待出来る。

３．封孔剤に求められる性能

封孔処理は、金属溶射被膜内の気孔を埋めることが最大の目的であり、よって封孔剤に求められる性能は、鉄素地まで達する浸透性と、固形分量を最大として気孔を完全に閉塞させる性能が備わっていることである。従来は有機溶剤系塗料をシンナー等の溶剤で希釈したものが封孔剤として用いられていたが、溶剤の蒸発によりその跡が再び気孔になることにより、気孔を完全に封孔することが困難であった。

図４　希釈型封孔剤の気孔発生モデル



キーワード　重防食, 金属溶射, 無機系樹脂
連絡先　(株) 中央コーポレーション　岩手県花巻市東宮野目 11 番 5 号　tel　0198-26-3033

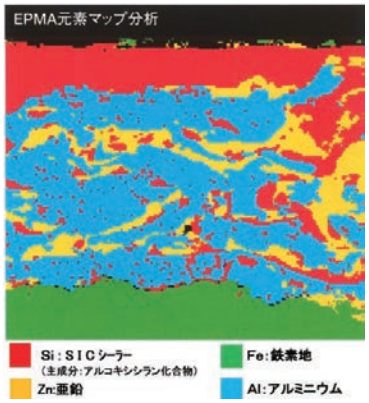
４．無溶剤１液型無機系封孔剤

従来から広く使われる有機溶剤系の封孔剤は、溶剤の蒸発による封孔不完全という問題点があることより、当社では金属溶射事業の立ち上げ時から、新規に開発されていた無溶剤系の１液型無機系封孔剤を採用してきた。この無溶剤１液型無機系封孔剤は、硬化反応後100%無機系樹脂となるので、紫外線による劣化は殆ど起こさず、耐候性を要求される上塗塗装にも使用可能である。

更に注目すべきは固形分の割合であり、希釈型有機系封孔剤の固形分量は20%前後（ミストコート仕様では40～50%とされる）に対し、無溶剤１液型無機系封孔剤は80%以上の固形分量が得られている。

固形分量は、塗料の性能評価項目である加熱残分に該当し、液体で気孔を充填した際の硬化・乾燥後の固形残分であることより、気孔の閉塞率に直結した結果をもたらすので非常に重要な品質と言える。

図５　ＥＰＭＡ元素マップ



この無溶剤１液型無機系封孔剤による封孔性は、金属溶射被膜断面をＥＰＭＡ元素マッピングすることにより、ブローホールのように密閉している気孔を除けば完全封孔していることが検証出来ている。

５．浸透性の改善

防食目的の金属溶射の被膜厚さは、一般的に100～150μm であるが、金属支承を現場施工した事例では、狭い作業空間、複雑な形状等が相成り、200μm 以上の被膜を形成する箇所が発生する。

図６　支承への金属溶射

上述既存製品の場合、浸透深さは200μm 程度であり、鉄素地まで浸透しない恐れがあることより、封孔剤メーカーと共同して、より深く浸透する新製品の開発を取り進め、500μm 迄の封孔を可能にした。

この製品も無溶剤１液型無機系であり、耐紫外線性・耐熱性・耐薬品性等の性能も既存製品と同等である。

６．新技術としての特徴

従来の金属溶射の塗装仕様は、C-5 塗装系の流れを組むもので、各層の役割や層間の密着性を考慮したため、金属溶射後４工程必要であり、工期も４日となる。

一方、今回紹介する SIC 工法の場合、従来同様の耐久年数であれば、金属溶射後最大２工程で完了でき、且つ素地調整も含め１日で工事を完了しうる。

表１　仕様の比較表

工程／工法	ＳＩＣ工法	従来工法
防食下地	金属溶射	金属溶射
封孔処理 (1 次封孔処理)	ＳＩＣシーラー	希釈したエポキシ樹脂
下塗	不要	エポキシ樹脂
中塗	不要	ふっ素樹脂
上塗 (2 次封孔処理)	ＳＩＣシーラー	ふっ素樹脂
工程数	金属溶射後２工程	金属溶射後４工程

※　（　）内の工程は、ＳＩＣ工法独自の表記。

７．まとめ

本工法は、500μm の溶射被膜の完璧な封孔ができ、同時に上塗塗装も可能なSICシーラーを用いることにより、耐久性向上・省工程・工期短縮・低コスト・環境負荷の低減を実現させた工法であり、新規橋梁とともに既設橋梁の補修にも適用可能であることにより、既工法の改良版として、橋梁や土木鋼構造物の長期防食法として提案し、岩手県新技術等活用促進事業への登録から始まり、国土交通省 NETIS に申請し、登録された。

本工法を開発するにあたり、封孔剤の開発、施工技術面でご協力を頂いたSIC工法協会の日本電通㈱、㈱永照に謝意を表します。

4. 資格者一覧

分　類	資　格	人数
建設業法 技術検定	技術士	1
	技術士補	5
	1級土木施工管理技士	36
	2級土木施工管理技士	14
	1級建築施工管理技士	5
	2級建築施工管理技士	4
	2級管工事施工管理技士	1
	2級(第1・2種)建設機械施工技士	1
	2級造園施工管理技士	1
建築士法	2級建築士	6
免許関係	宅地建物取引主任者	1
	第1種衛生管理者	2
	ガス溶接作業主任者	6
	危険物取扱者	9
	クレーン運転士	4
	第2種電気工事士	1
鉄骨製作管理技術者登録機構	鉄骨製作管理技術者	4
技能講習 作業主任者	プレス作業主任者	4
	第2種酸素欠乏危険作業主任者	3
	有機溶剤作業主任者	6
	地山の掘削・土止支保工作業主任者	5
	型枠支保工作業主任者	1
	足場の組立作業主任者	13
	施工管理者等のための足場点検実務者研修	13
	ずい道等の掘削・覆工	2
	鉄骨の組立作業主任者	5
	建築物等の鉄骨の組立等作業主任者	5
	鋼橋架設等作業主任者	8
技能講習 就業制限業務	ガス溶接技能講習	72
	玉掛技能講習	89
	フォークリフト運転技能講習	33
	小型移動式クレーン運転技能講習	36
	床上操作式クレーン運転技能講習	63
	車両系建設機械運転技能講習	4
	高所作業運転技能講習	18
技能講習　その他	給水装置工事配管技能者	1
	配水管技能者登録証	1
特別教育	自由研削砥石取替特別教育	57
	アーク溶接特別教育	77
	第59条第3項　クレーン運転業務	4
	酸素欠乏危険作業	2
	低圧電気取扱作業者特別教育	11
	動力プレス金型等の取付等業務	5
	粉じん作業特別教育	32
	2m以上10m未満(高さ限定)高所作業車特別教育	10
	ゴンドラ取扱特別教育	6
	チェーンソー以外の振動工具の取扱業務	4
	専門工事業安全管理担当者研修	1
	ZRC工法講習会	2
	車両系建設機械(整地・運転)	1

分　類	資　格	人数
安全衛生教育	安全衛生教育　職長教育(建設業)	36
	安全衛生教育　職長・安全衛生責任者教育(建設業)	20
	安全衛生教育　建設現場管理者統括監理	1
	建設工事に従事する労働者に対する安全衛生教育	1
	安全衛生教育移動式クレーン定期自主検査者安全教育	4
	安全衛生教育　天井クレーン定期自主検査者安全教育	6
	管理技術者に対する安全衛生教育	1
職業能力開発促進法	2級型枠施工技能士	1
	1級構造物鉄工・製罐	13
	2級構造物鉄工	26
	2級建築塗装	1
	溶射技能士	1
WES8103 非破壊検査	International Welding Engineer	1
	特別級WES	1
	1級WES	4
	2級WES	6
	超音波検査・レベル3	1
	超音波検査・レベル2	2
	超音波検査・レベル1	4
	浸透深傷・レベル2	1
	浸透深傷・レベル1	2
溶接資格	アーク溶接　A-2F　N-2F	40
	ステンレス溶接　CN-F　CN-V　TN-F　MA-F	10
	半自動溶接　SA-2F　SA-2FV　SA-2FH SA-2FP　SN-2F　SN-2FH　SA-3F SA-3FH　SN-3F　SN-3FV　SN-3FO	46
	アルミニウム溶接　TN-2F　MN-2F	8
	スタッド溶接・A級	2
	すみ肉溶接	13
(一社)日本鉄道施設協会	JR工事管理者(在)	11
	JR工事管理者(幹)	12
東北総合通信局	無線従事者(第3級陸上特殊無線技士)	5
㈳日本鋼構造協会・建築鉄骨 品質管理機構認定資格	建築鉄骨製品検査技術者　認定登録証	3
	建築高力ボルト接合管理技術者　認定登録証	1
溶融亜鉛めっき高力ボルト技術協会	技術者資格者証・技能資格者証	7
(一社)日本建築 あと施工アンカー協会	あと施工アンカー施工士・第1種	6
	あと施工アンカー施工士・第2種	2
	あと施工アンカー技術管理士	1
㈳河川ポンプ施設 技術協会	1級ポンプ施設管理技術者	2
	2級ポンプ施設管理技術者	1
(一社)日本溶射学会	溶射管理士(防食)	2
㈳建設コンサルタンツ協会	シビルコンサルティングマネージャ(RCCM)	1
日本バリュー・エンジニアリング協会	VEリーダー	1
日本コンクリート 工学会	コンクリート診断士　登録者	1
	コンクリート技士　登録者	2
建設業振興基金	2級建設業経理士	8
(一社)日本橋梁建設協会	登録橋梁基幹技能者	2

2015.10.10現在

5. 会社年表及び沿革

西暦	1788	1789	1790	1791	1792	1793	1794	1795	1796	1797	1798	1799	1800	1801	1802	1803	1804	1805	1806	1807	1808	1809	1810	1811	1812	1813	1814	1815	1816	1817	1818	1819	1820	1821	1822	1823	1824	1825	1826	1827	1828	1829	1830	1831	1832
和暦	江戸時代																																												
累積																																													
吉助型文																																													
高橋常吉																																													
高橋吉助																																													
佐々木郷天																																													
佐々木史昭																																													
会社																																													
日本																																													
岩手・花巻																																													

西暦	1833	1834	1835	1836	1837	1838	1839	1840	1841	1842	1843	1844	1845	1846	1847	1848	1849	1850	1851	1852	1853	1854	1855	1856	1857	1858	1859	1860	1861	1862	1863	1864	1865	1866	1867	1868	1869	1870	1871	1872	1873
和暦	明治																																								
累積	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41
吉助型文	喜創		この頃、花巻城御用大工棟梁																																						
高橋常吉			誕生																																						
高橋吉助																																									
佐々木郷天																																									
佐々木史昭																																									
会社																																									
日本	蝦夷地の開発計画が幕府に提出される																																								
岩手・花巻																																									

西暦	1839	1840	1841	1842	1843	1844	1845	1846	1847	1848	1849	1850	1851	1852	1853	1854	1855	1856	1857	1858	1859	1860	1861	1862	1863	1864	1865	1866	1867	1868	1869	1870	1871	1872	1873	1874	1875	1876	1877	1878	1879
和暦	明治																																								
累積	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73									
吉助型文																																									
高橋常吉																																									66
高橋吉助																																									玄
佐々木郷天																																									
佐々木史昭																																									
会社																																									
日本	大沢事件　韓国を挑発																																								
岩手・花巻																																									

西暦	1880	1881	1882	1883	1884	1885	1886	1887	1888	1889	1890	1891	1892	1893	1894	1895	1896	1897	1898	1899	1900	1901	1902	1903	1904	1905	1906	1907	1908	1909	1910	1911	1912	1913	1914	1915	1916	1917	1918	1919	1920
和暦	明治																																								
累積	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73									
吉助型文																																									
高橋常吉	高常組製作所代表（36年）																																								
高橋吉助																																									
佐々木郷天																																									
佐々木史昭																																									
会社																																									
日本	日露戦争（1905）																																								
岩手・花巻																																									

西暦	1921	1922	1923	1924	1925	1926	1927	1928	1929	1930	1931	1932	1933	1934	1935	1936	1937	1938	1939	1940	1941	1942	1943	1944	1945	1946	1947	1948	1949	1950	1951	1952	1953	1954	1955	1956	1957	1958	1959	1960	1961
和暦	大正																																								
累積	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
吉助型文																																									
高橋常吉																																									
高橋吉助																																									
佐々木郷天																																									
佐々木史昭																																									
会社																																									
日本	国際聯盟に加入																																								
岩手・花巻																																									

西暦	1951	1952	1953	1954	1955	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969	1970	1971	1972	1973
和暦	昭和																						
累積	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
吉助型文																							
高橋常吉																							
高橋吉助																							
佐々木郷天																							
佐々木史昭																							
会社																							
日本	日本国憲法施行																						
岩手・花巻																							

西暦	1934	1935	1936	1937	1938	1939	1940	1941	1942	1943	1944	1945	1946	1947	1948	1949	1950	1951	1952	1953	1954
和暦	昭和																				
紫雲寺記念館																					
吉助現文																					
高橋常吉																					
高橋吉助	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 5
佐々木郁夫	4 4	4 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 4
佐々木史昭	1 1	1 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2
	盛岡一高			東北大学																	
会社				中央石灰花巻ーC鉛焼術を開設																	
日本																					
岩手・花巻																					

西暦	1955	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969	1970	1971	1972	1973	1974	1975
和暦	昭和															平成					
紫雲寺記念館																					
吉助現文																					
高橋常吉																					
高橋吉助	7 7	7 7	7 8	7 9	8 0	8 0	8 0	8 0	8 0	8 0	8 0	8 0	8 0	8 0	8 0	9 0	9 0	9 0	9 0	9 0	9 9
佐々木郁夫	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6
佐々木史昭	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3
	住友金属工業(8年)																				
会社	資本金500万円に増資																				
日本	国際学和維持活動(PKO)協力法成立																				
岩手・花巻	花巻市と十和田市が友好都市提携																				

西暦	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996
和暦																					
紫雲寺記念館																					
吉助現文																					
高橋常吉																					
高橋吉助	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9
佐々木郁夫	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6
佐々木史昭	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3
	株中央製作所 代表取締役社長(27年間)																				
会社	佐々木史昭が社長に就任																				
日本	公立学校完全週5日制開始　日朝首脳会談																				
岩手・花巻	創立50周年記念事業実施。「金属資源のシーCー工法」NEWS発表																				

西暦	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997
和暦																					
紫雲寺記念館																					
吉助現文																					
高橋常吉																					
高橋吉助	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9
佐々木郁夫	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6
佐々木史昭	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3
	株中央製作所 専務取締役(6年) 代表取締役社長(1年)																				
会社	佐々木史昭が社長に就任																				
日本	公立学校完全週5日制開始　日朝首脳会談																				
岩手・花巻	上田東一氏が市長となる																				

西暦	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
和暦																					
紫雲寺記念館																					
吉助現文																					
高橋常吉																					
高橋吉助	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9
佐々木郁夫	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6
佐々木史昭	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3
	株中央製作所 専務取締役(6年) 代表取締役社長(1年)																				
会社	佐々木史昭が社長に就任																				
日本	公立学校完全週5日制開始　日朝首脳会談																				
岩手・花巻	花巻市、米国ホンスブリック市と姉妹都市提携																				

西暦	1919	1920	1921	1922	1923	1924	1925	1926	1927	1928	1929	1930	1931	1932	1933	1934	1935	1936	1937	1938	1939
和暦	大正																				
紫雲寺記念館																					
吉助現文																					
高橋常吉																					
高橋吉助	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7
佐々木郁夫	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5
佐々木史昭	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2
	足立ベニヤ												山田中教諭								
会社	株式会社中央製作所設立。資本金250万円　高橋市助が社長																				
日本	日露戦争(1904～1905)　大正政変																				
岩手・花巻	宮古町等4町村が合併、宮古市となる																				

西暦	1940	1941	1942	1943	1944	1945	1946	1947	1948	1949	1950	1951	1952	1953	1954
和暦															
紫雲寺記念館															
吉助現文															
高橋常吉															
高橋吉助	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 5
佐々木郁夫	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 4
佐々木史昭	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2
	株中央製作所 代表取締役社長(10年)														
会社	株式会社中央製作所設立。資本金250万円　高橋市助が社長														
日本	日露戦争(1904～1905)　大正政変														
岩手・花巻	旧大迫町、樺国ペンドルトン市と友好都市提携														

西暦	1955	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969	1970	1971	1972	1973	1974	1975
和暦	昭和															平成					
紫雲寺記念館																					
吉助現文																					
高橋常吉																					
高橋吉助	7 7	7 7	7 8	7 9	8 0	8 0	8 0	8 0	8 0	8 0	8 0	8 0	8 0	8 0	8 0	9 0	9 0	9 0	9 0	9 0	9 9
佐々木郁夫	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6
佐々木史昭	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3
	住友金属工業(8年)																				
会社	資本金500万円に増資																				
日本	国際学和維持活動(PKO)協力法成立																				
岩手・花巻	花巻市、米国ホンスブリック市と姉妹都市提携																				

西暦	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996
和暦																					
紫雲寺記念館																					
吉助現文																					
高橋常吉																					
高橋吉助	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9
佐々木郁夫	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6
佐々木史昭	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3
	株中央製作所 代表取締役社長(10年)																				
会社	資本金600万円に増資																				
日本	小笠原諸島が日本に復帰　国民総生産、世界第2位																				
岩手・花巻	花巻市と十和田市が友好都市提携																				

西暦	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
和暦																					
紫雲寺記念館																					
吉助現文																					
高橋常吉																					
高橋吉助	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9
佐々木郁夫	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6
佐々木史昭	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3
	株中央製作所 代表取締役社長(13年)																				
会社	資本金1000万円に増資																				
日本	石油危機																				
岩手・花巻	旧石鳥谷町、米国ラフィンと姉妹都市提携																				

西暦	1918	1919	1920	1921	1922	1923	1924	1925	1926	1927	1928	1929	1930	1931	1932	1933	1934	1935	1936	1937	1938
和暦	大正																				
紫雲寺記念館																					
吉助現文																					
高橋常吉																					
高橋吉助	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7
佐々木郁夫	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5
佐々木史昭	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2
	有花巻鉄工所 取締役製造部長(10年)								中央製作所社長(14年)												
会社	有限会社花巻鉄工所事業開始								高橋半助中央製作所を創業し、建築、機械、鉄構業を開始												
日本	第一次世界大戦(1914～1918)　シベリア出兵								サンフランシスコ平和条約　日米安全保障条約												
岩手・花巻	第五福竜丸、ビキニで水爆被災(死の灰)　自衛隊の設置																				

西暦	1939	1940	1941	1942	1943	1944	1945	1946	1947	1948	1949	1950	1951	1952	1953	1954
和暦																
紫雲寺記念館																
吉助現文																
高橋常吉																
高橋吉助	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7	7 5
佐々木郁夫	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 4
佐々木史昭	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2
	株中央製作所 代表取締役社長(10年)															
会社	株式会社中央製作所設立。資本金250万円　高橋市助が社長															
日本	日露戦争(1904～1905)　大正政変															
岩手・花巻	旧大迫町、樺国ペンドルトン市と友好都市提携															

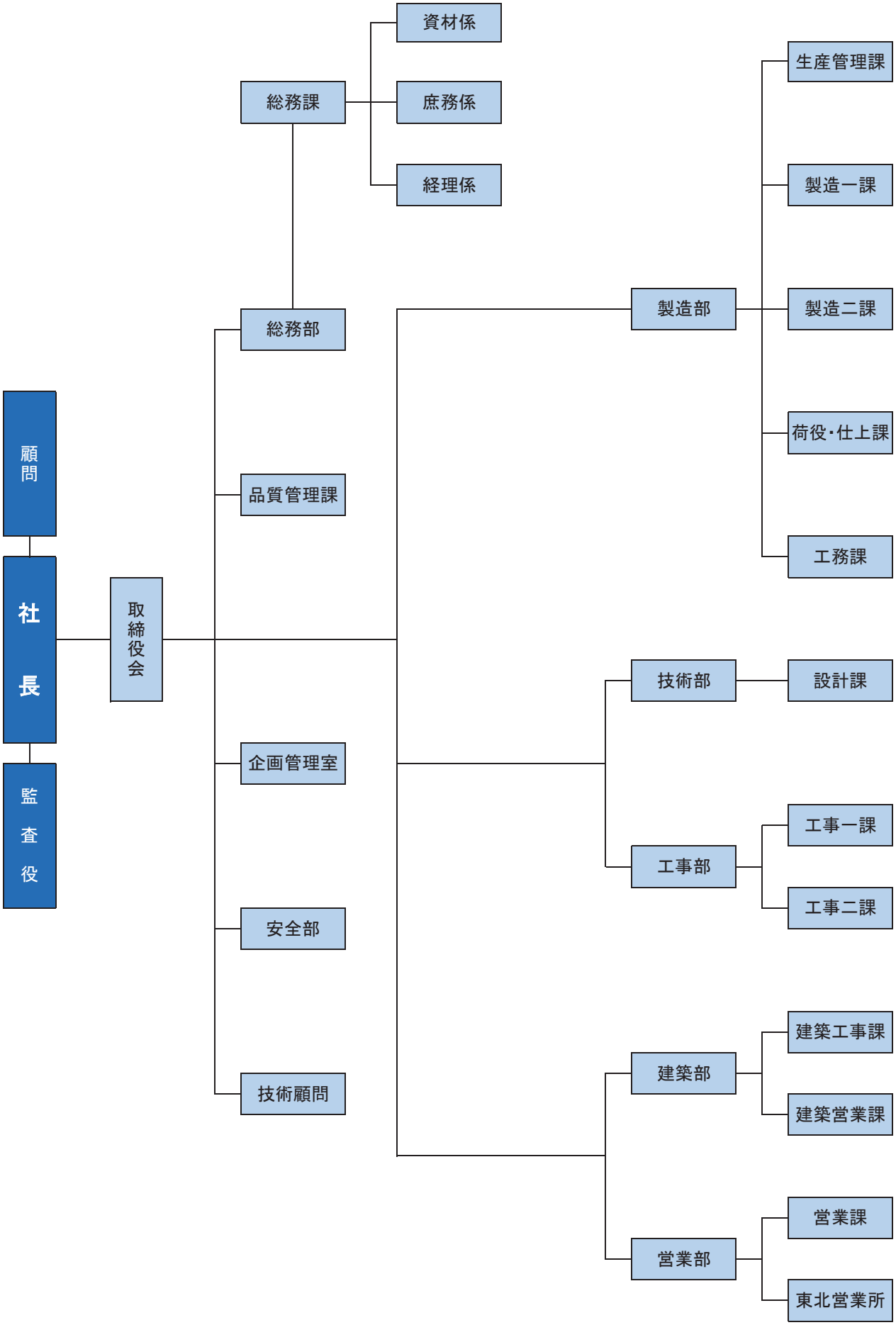
西暦	1955	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969	1970	1971	1972	1973	1974	1975
和暦	昭和															平成					
紫雲寺記念館																					
吉助現文																					
高橋常吉																					
高橋吉助	7 7	7 7	7 8	7 9	8 0	8 0	8 0	8 0	8 0	8 0	8 0	8 0	8 0	8 0	8 0	9 0	9 0	9 0	9 0	9 0	9 9
佐々木郁夫	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6
佐々木史昭	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3
	株中央製作所 代表取締役社長(19年)																				
会社	資本金500万円に増資																				
日本	国際学和維持活動(PKO)協力法成立																				
岩手・花巻	花巻市と十和田市が友好都市提携																				

西暦	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996
和暦																					
紫雲寺記念館																					
吉助現文																					
高橋常吉																					
高橋吉助	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9
佐々木郁夫	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6	6 6
佐々木史昭	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3
	株中央製作所 専務取締役(10年) 代表取締役社長(13年)																				
会社	資本金1000万円に増資																				
日本	石油危機																				
岩手・花巻	旧石鳥谷町、樺国ペンドルトン市と友好都市提携																				

6. 中央コーポレーション合併後の年表（平成15年～現在）

西暦	和暦		佐々木史昭年齢		会社	年度スローガン
2003	平成	15年	40歳	代表取締役社長	・BMCと技術提携 ・岩手銀行より藤原正克氏を取締役に迎える。 ・住宅チームが独立し、松下電工テクノストラクチャーを展開。 ・株式会社中央コーポレーション発足。	
2004		16年	41歳		・中央石油宮野目給油所の大規模改修工事を実施。 ・テクノストラクチャー工法で住宅棟数が北東北ベスト5へ入賞。 ・新潟県の技能五輪に菊池利隆君、赤坂国彦君の2名が出場。 ・日本道路公団東根跨道橋において、東北支社安全表彰受賞。	
2005		17年	42歳		・岩手県市野の原6号橋で支間長50m超の2主鈑桁送出架設完工。 ・JR向けJESエレメントの生産量が年間1000tを超える。 ・青森営業所を閉鎖し、仙台へ東北営業所開設。 ・「91社問題」により、公正取引委員会より排除勧告を受ける。	
2006		18年	43歳		・TSUBOHACHI花巻店改築工事完成。 ・東和町白金橋当社初の吊り橋（人道橋）完成。 ・国土交通省JVにて太刀打跨道橋（インテグラル橋）完成。	
2007		19年	44歳		・西塚保さんが、国土交通大臣優秀施工者表彰受賞。 ・花巻市緑が丘住宅（RC造4F立て）で優秀施工表彰受賞。 ・住友金属向け合成床版年産10,000㎡、昼夜2交代制導入。 ・JESエレメント生産量が年産2000t超える。	凡事徹底
2008		20年	45歳		・25tラフタークレーンを導入。 ・二枚橋保管ヤードとして整備。 ・花巻市本館住宅C棟で優秀施工表彰受賞。 ・TRC床版10,000㎡超える。 ・前年に続き、JESエレメント年産2000t超える。	見える化を徹底しよう
2009		21年	46歳		・東鉄工業様向けにバックルプレート形式の鉄道桁製作始まる。 ・NCガントリードリルマシンを導入。 ・第2工場稼働開始。 ・全社社内LANサイボウズ導入。	ピンチをチャンスにしよう
2010		22年	47歳		・㈱中央企画において、建設業許可を取得。 ・第1回私募債発行。 ・「91社問題」の審決受諾により、各発注者から指名停止を受ける。	企業力を高めよう
2011		23年	48歳		・中期設備投資計画が完了し、中間市道を取得し敷地一体化。 ・製品ブラスト、塗装移動上屋等完成。 ・花巻市総合体育館新築工事をJVにて高評価で完成。 ・東日本大震災発生。岩手県の水門・陸閘の応急復旧等を行う。	新しいリーダーを育てよう
2012		24年	49歳		・波形鋼板ウェブ専用プレスを導入し、岩手県平成橋製作。 ・産業医に藤巻英二先生就任。 ・現場金属溶射を事業化し、岩手県より新分野進出表彰受賞。	黒字体質を確立しよう
2013		25年	50歳		・5S委員会を立ち上げ、全社5S活動を開始。 ・清水建設より、工事部多田部長が優秀職長社長長を受賞。 ・岩手県代表として菊池淳哉君が全国溶接技術競技会へ出場。 ・岩手県より向山スノーシェルターにおいて優秀工事表彰受賞。 ・国交省三陸国道事務所畳石跨道橋補強工事で安全工事表彰受賞。	東北の中堅企業をめざそう
2014		26年	51歳		・岩手県代表として藤原裕城君が全国溶接技術競技会へ出場。 ・岩手河川国道事務所北上川上流機械設備工事で優秀工事表彰受賞。 ・連続無災害記録209.2万時間でストップ。 ・すみ肉溶接技量試験合格者13名。平均年齢31.6才。 ・岩手県大船渡綾里災害公営住宅をコンソーシアムで受注。 ・横河ブリッジ様と特定JVで岩手県川口橋を受注。 ・丸島アクア様と特定JVで大槌小槌、鵜住居、甲子大型水門受注。	業務を高度化しよう
2015		27年	52歳		・東北地方整備局より岩手県長沢橋でSAFETY受賞。 ・岩手県代表として佐々木国彦君が全国溶接技術競技会へ参加。 ・「金属溶射SIC工法」NETIS登録。 ・創立50周年記念事業実施。	歴史に残ることをしよう

7. 組織図


顧問
社長
監査役
取締役会
総務課
資材係
庶務係
経理係
総務部
品質管理課
企画管理室
安全部
技術顧問
製造部
生産管理課
製造一課
製造二課
荷役・仕上課
工務課
技術部
設計課
工事部
工事一課
工事二課
建築部
建築工事課
建築営業課
営業部
営業課
東北営業所

8. 役員在任期間一覧

昭和

役職	氏名	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63
	和暦	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63
	社歴	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
		㈱中央製作所																							
代取取締役	高橋　吉助	代表取締役社長													取締役会長										
取締役	高橋　トミ	取締役																							
代取取締役	佐々木　郁夫	取締役					代表取締役専務								代表取締役社長										
取締役	佐々木　礼子	取締役											監査役												
監査役	高橋　治	監査役																							
監査役	青柳　愛子	監査役																							
取締役	笠原　力					取締役			監査役																
取締役	佐藤　恵三					取締役																			
取締役	相原　繁美					取締役				専務取締役															
取締役	岩崎　安男							取締役					常務取締役												
取締役	安藤　金吾									取締役															
取締役	潮田　靖													取締役			専務取締役								
取締役	山蔭　光男																								
代取取締役	佐々木　史昭																								
取締役	菅原　博																								
監査役	佐々木　啓子																								
取締役	高橋　善美																								
取締役	藤原　正克																								
監査役	小石川　洋																								
取締役	伊藤　誠																								
取締役	新銀　武																								

中央建設工業㈱

役職	氏名	1965	1966	1967	1968	1969	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988
代取取締役	高橋　吉助											代表取締役社長						取締役会長							
代取取締役	佐々木　郁夫											代表取締役専務						代表取締役社長							
取締役	佐藤　恵三											取締役			専務取締役										
取締役	安藤　金吾											取締役						常務取締役							
取締役	岩崎　安男											取締役					監査役								
取締役	相原　繁美											取締役													
監査役	佐々木　礼子											監査役													
取締役	高橋　善美																								
取締役	齊藤　久雄																								
取締役	佐々木　史昭																								
取締役	藤戸　喜八																								
取締役	箱崎　長英																								

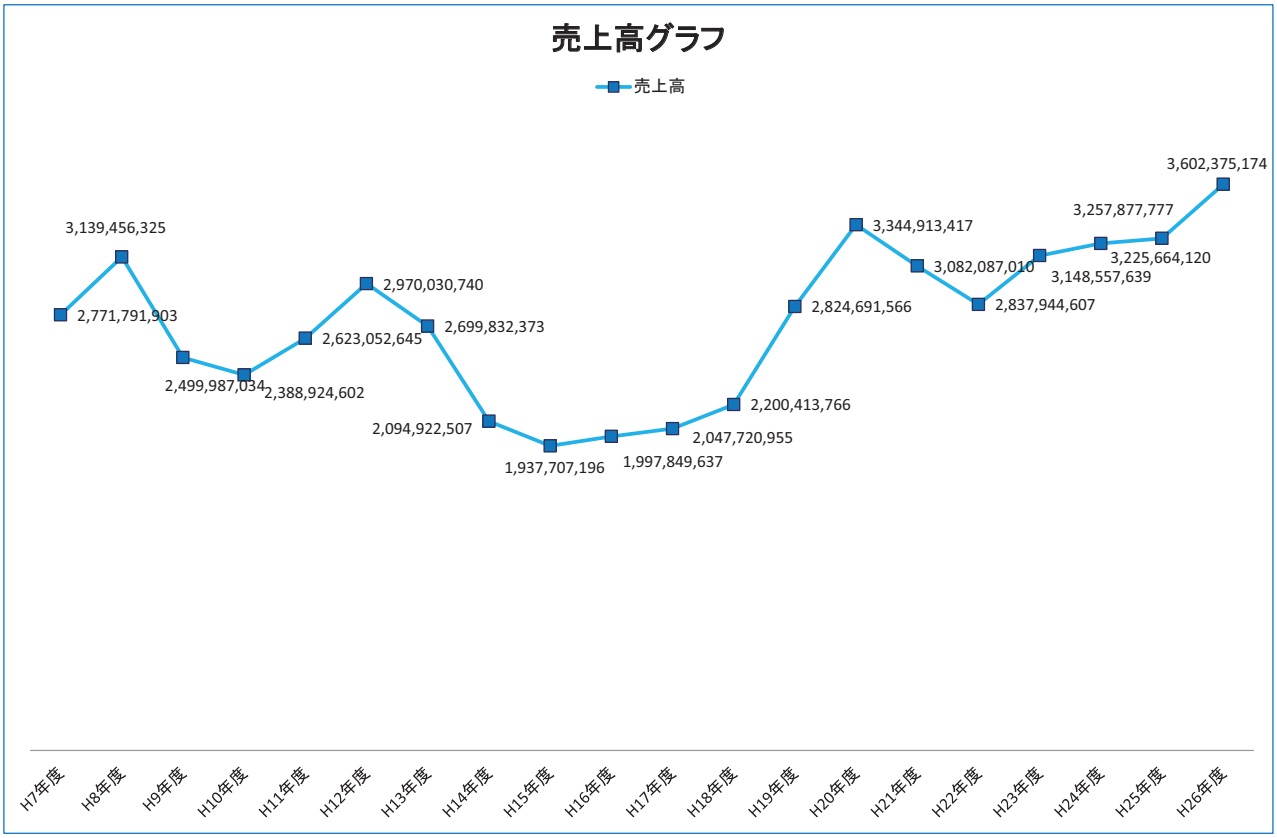
平成　　5月

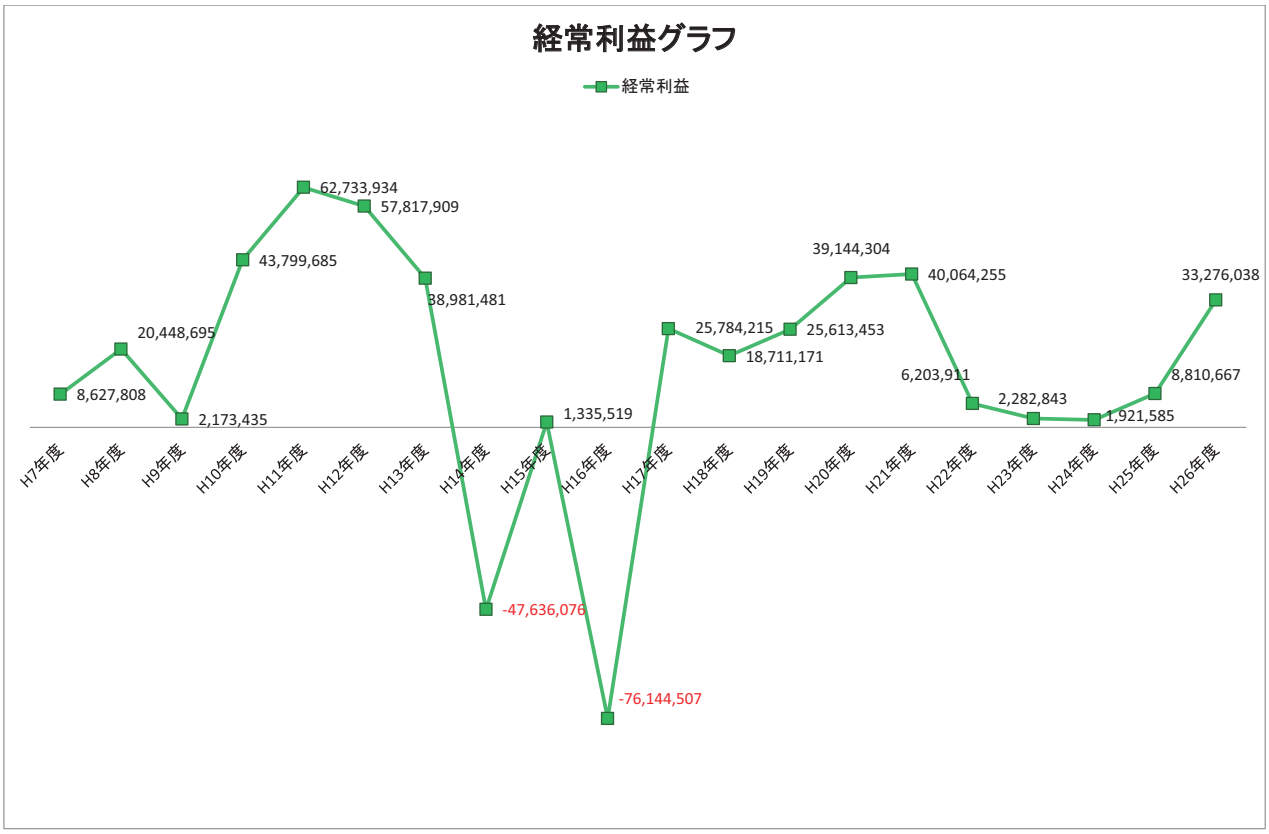
役職	氏名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
	和暦	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
	社歴	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
		㈱中央製作所															㈱中央コーポレーション												
高橋吉助									監査役																				
佐々木郁夫															取締役会長		取締役会長												
佐々木礼子									取締役		監査役				取締役		監査役												
岩崎安男																													
山蔭光男		取締役								常務取締役							常務取締役												
	佐々木史昭							取締役		専務取締役					代表取締役社長		代表取締役社長												
	菅原博											取締役					取締役			常務取締役									
	佐々木啓子													監査役			監査役						監査役						
	高橋善美																取締役												
	藤原正克																	取締役											
	小石川洋																		監査役										
	伊藤誠																			取締役									
	新銀武																								取締役				

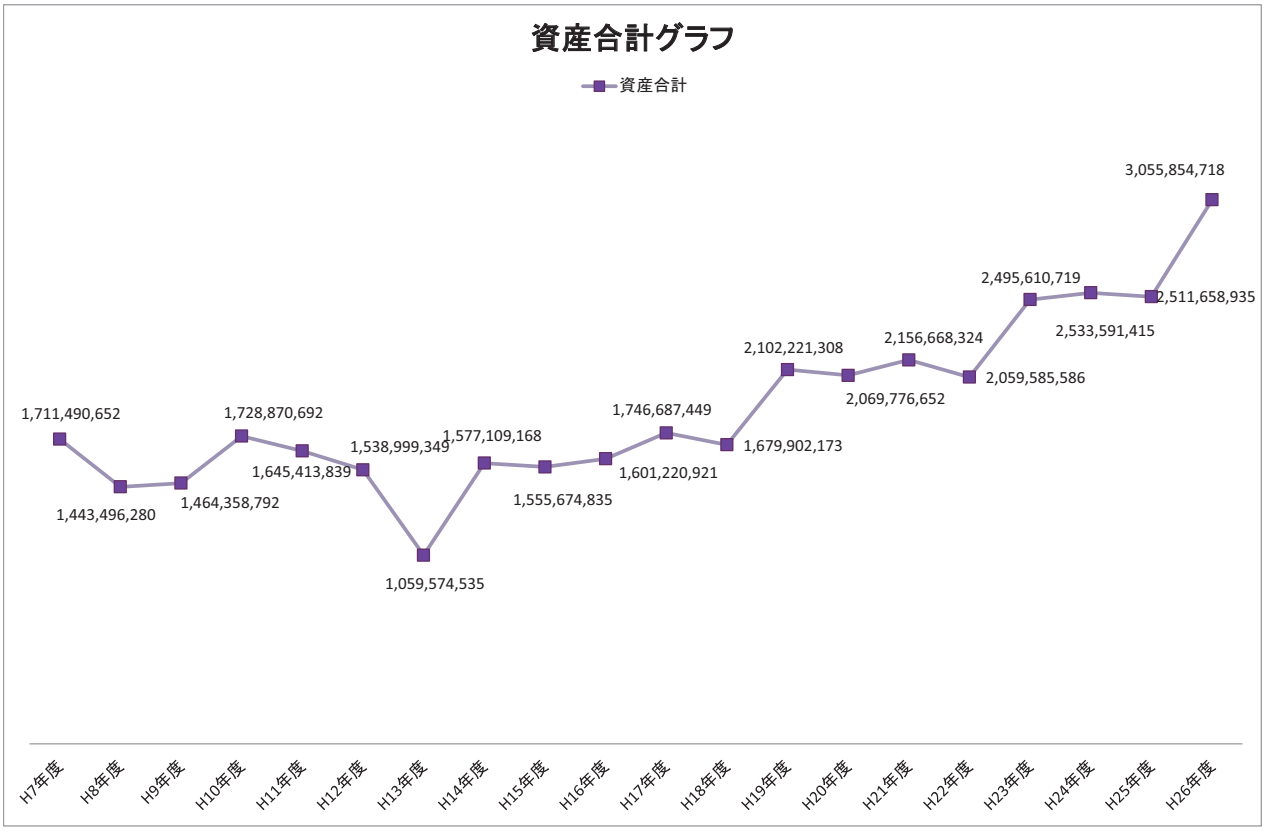
中央建設工業㈱

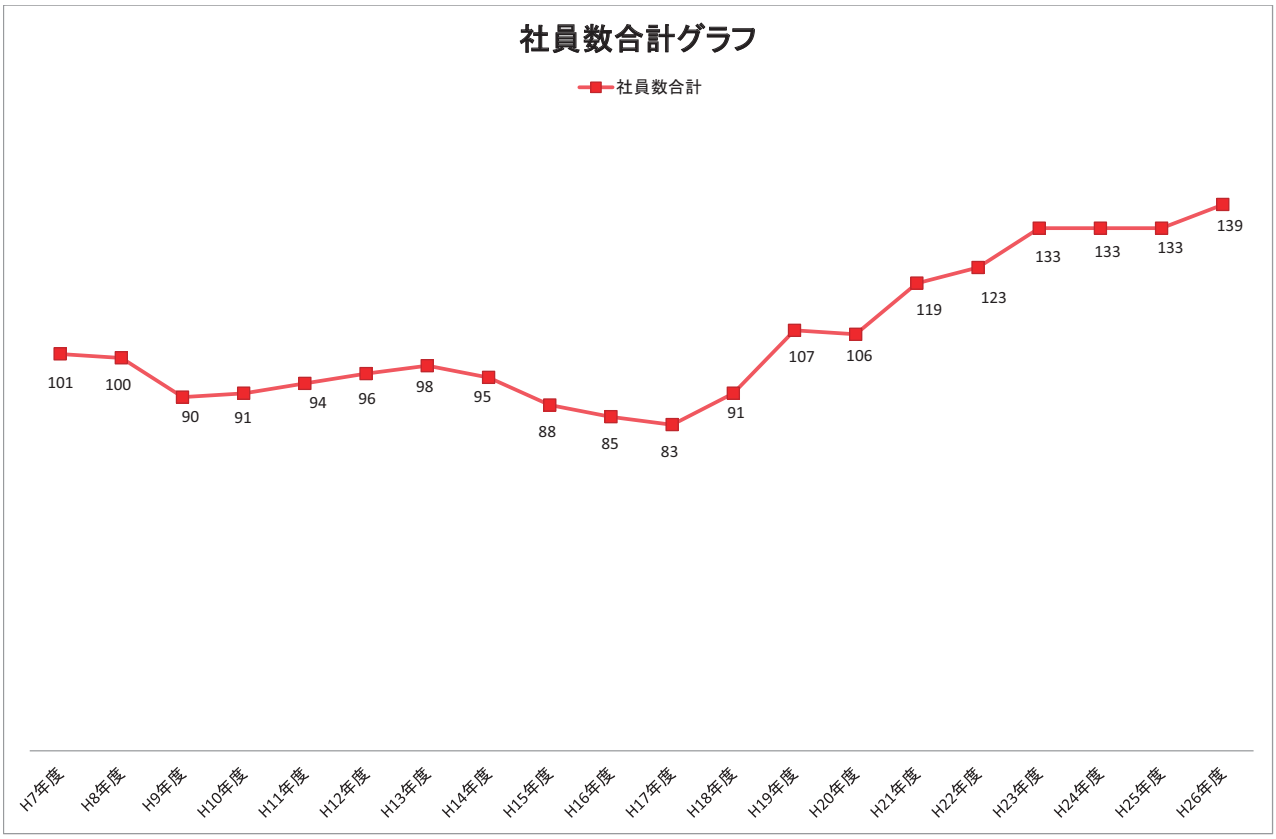
役職	氏名	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
高橋吉助																													
佐々木郁夫																													
岩崎安男																													
佐々木礼子		取締役					監査役																						
	高橋善美		取締役							常務取締役																			
	齊藤久雄					取締役																							
	佐々木史昭							取締役																					
	藤戸喜八							取締役																					
	箱崎長英									取締役																			

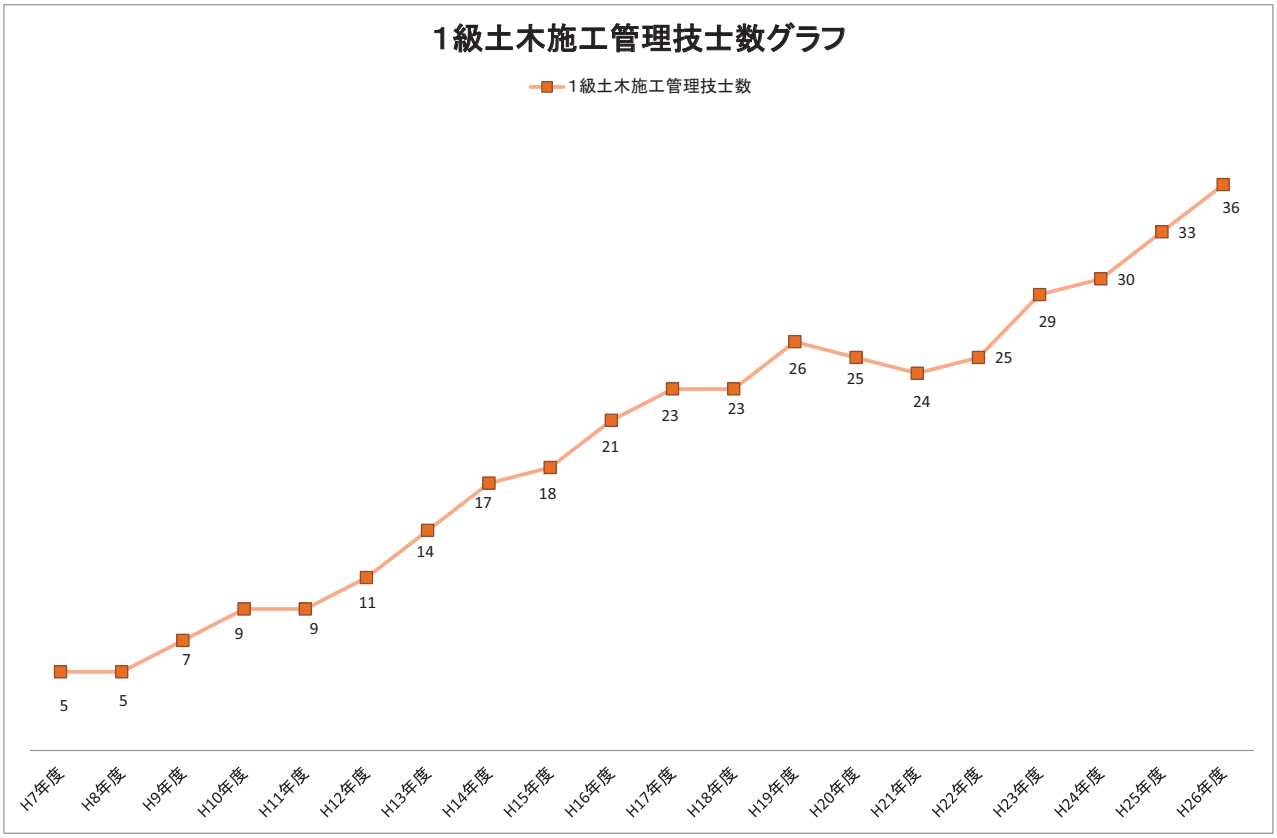
9. 経営状況推移

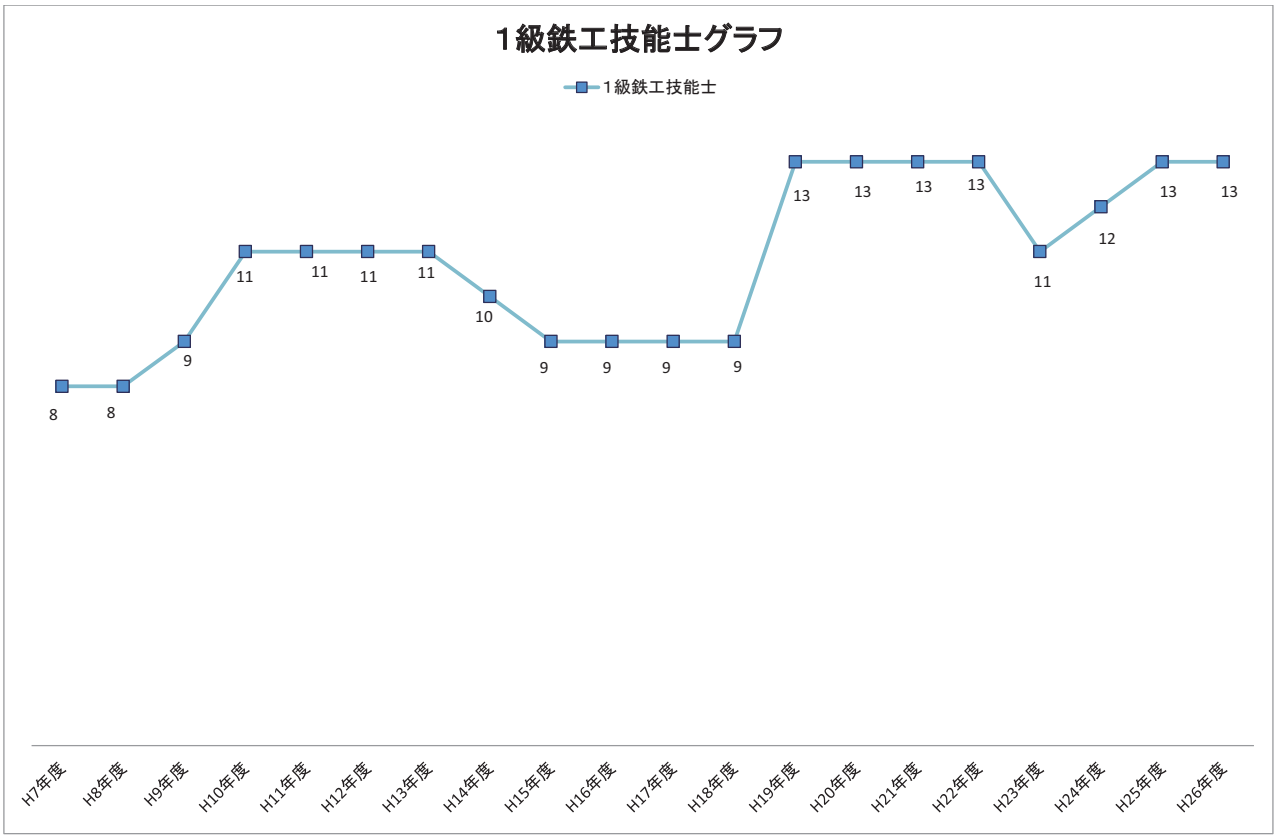

売上高グラフ
売上高
3,139,456,325
2,771,791,903
2,499,987,034
2,388,924,602
2,623,052,645
2,970,030,740
2,699,832,373
2,094,922,507
1,937,707,196
1,997,849,637
2,047,720,955
2,200,413,766
2,824,691,566
3,344,913,417
3,082,087,010
2,837,944,607
3,148,557,639
3,257,877,777
3,225,664,120
3,602,375,174
H7年度
H8年度
H9年度
H10年度
H11年度
H12年度
H13年度
H14年度
H15年度
H16年度
H17年度
H18年度
H19年度
H20年度
H21年度
H22年度
H23年度
H24年度
H25年度
H26年度


経常利益グラフ
経常利益
8,627,808
20,448,695
2,173,435
43,799,685
62,733,934
57,817,909
38,981,481
-47,636,076
1,335,519
-76,144,507
25,784,215
18,711,171
25,613,453
39,144,304
40,064,255
6,203,911
2,282,843
1,921,585
8,810,667
33,276,038
H7年度
H8年度
H9年度
H10年度
H11年度
H12年度
H13年度
H14年度
H15年度
H16年度
H17年度
H18年度
H19年度
H20年度
H21年度
H22年度
H23年度
H24年度
H25年度
H26年度


資産合計グラフ
資産合計
1,711,490,652
1,443,496,280
1,464,358,792
1,728,870,692
1,645,413,839
1,538,999,349
1,059,574,535
1,577,109,168
1,555,674,835
1,601,220,921
1,746,687,449
1,679,902,173
2,102,221,308
2,069,776,652
2,156,668,324
2,059,585,586
2,495,610,719
2,533,591,415
2,511,658,935
3,055,854,718
H7年度
H8年度
H9年度
H10年度
H11年度
H12年度
H13年度
H14年度
H15年度
H16年度
H17年度
H18年度
H19年度
H20年度
H21年度
H22年度
H23年度
H24年度
H25年度
H26年度


社員数合計グラフ
社員数合計
101
100
90
91
94
96
98
95
88
85
83
91
107
106
119
123
133
133
133
139
H7年度
H8年度
H9年度
H10年度
H11年度
H12年度
H13年度
H14年度
H15年度
H16年度
H17年度
H18年度
H19年度
H20年度
H21年度
H22年度
H23年度
H24年度
H25年度
H26年度


1級土木施工管理技士数グラフ
1級土木施工管理技士数
5
5
7
9
9
11
14
17
18
21
23
23
26
25
24
25
29
30
33
36
H7年度
H8年度
H9年度
H10年度
H11年度
H12年度
H13年度
H14年度
H15年度
H16年度
H17年度
H18年度
H19年度
H20年度
H21年度
H22年度
H23年度
H24年度
H25年度
H26年度


1級鉄工技能士グラフ
1級鉄工技能士
8
8
9
11
11
11
11
10
9
9
9
9
13
13
13
13
11
12
13
13
H7年度
H8年度
H9年度
H10年度
H11年度
H12年度
H13年度
H14年度
H15年度
H16年度
H17年度
H18年度
H19年度
H20年度
H21年度
H22年度
H23年度
H24年度
H25年度
H26年度

10. 表彰状・感謝状一覧

〈1〉表彰状（会社）

表彰状

樋管ゲート改造その他工事

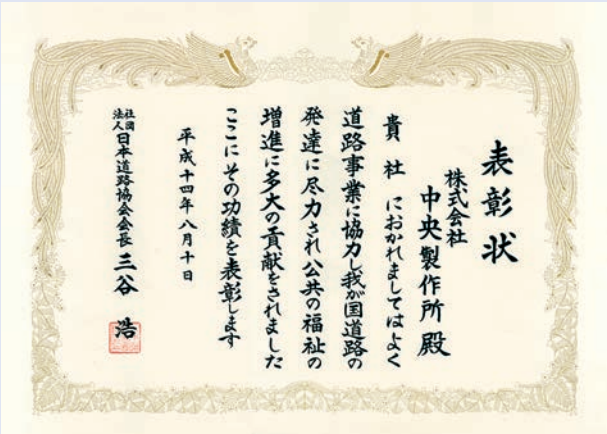
株式会社中央製作所殿

貴社は頭書の工事の施行にあたり本会の目的を十分に認識し積極的に災害防止に寄与された実績は他の模範と認められますよってここに記念品を贈り表彰します

平成四年六月二十二日

建設省岩手工事事務所
事故防止対策委員会会長
岩手工事事務所長 武内達夫

受賞年：平成4年6月22日
表彰者：建設省岩手工事事務所
表彰名：樋管ゲート改造その他工事


表彰状

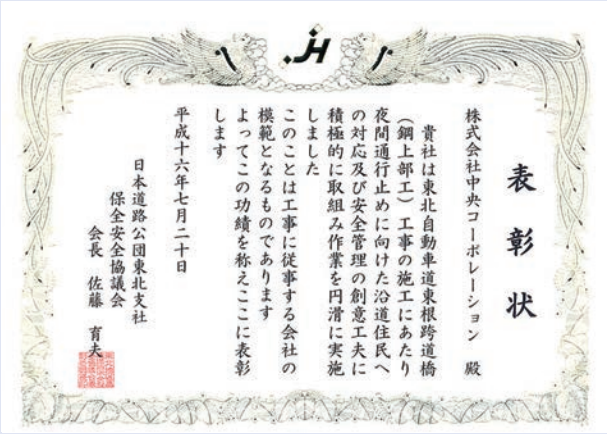
株式会社
中央製作所殿

貴社におかれましてはよく道路事業に協力し我が国道路の発達に尽力され公共の福祉の増進に多大の貢献をされましたここにその功績を表彰します

平成十四年八月十日

社団法人日本道路協会会長 三谷 浩

受賞年：平成14年8月10日
表彰者：社団法人日本道路協会
表彰名：道路事業発展協力


表彰状

株式会社中央コーポレーション 殿

貴社は東北自動車道東根跨道橋（鋼上部工）工事の施工にあたり夜間通行止めに向けた沿道住民への対応及び安全管理の創意工夫に積極的に取組み作業を円滑に実施しましたこのことは工事に従事する会社の模範となるものでありますよってこの功績を称えここに表彰します

平成十六年七月二十日

日本道路公団東北支社
保全安全協議会
会長 佐藤 育夫

受賞年：平成16年7月20日
表彰者：日本道路公団 東北支社
表彰名：東北自動車道 東根跨道橋（鋼上部工）工事

表彰状

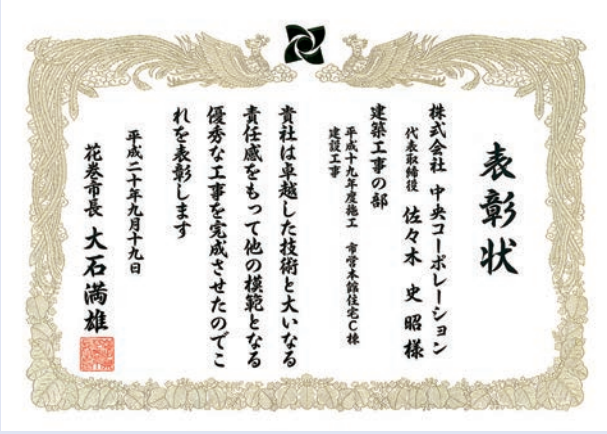
株式会社中央コーポレーション
代表取締役 佐々木 史昭殿

貴社は平成十八年度に完成した緑ヶ丘市営住宅C棟（建築）工事の施工にあたり卓越した技術と大いなる責任感をもって他の模範となる優秀な工事を完成させたのでこれを表彰します

平成十九年九月二十六日

花巻市長 大石満雄

受賞年：平成19年9月26日
表彰者：花巻市
表彰名：緑ヶ丘市営住宅Ｃ棟（建築）工事


表彰状

株式会社 中央コーポレーション
代表取締役 佐々木 史昭様

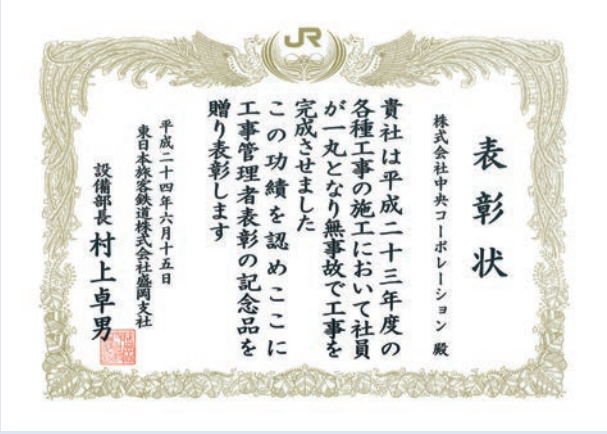
建築工事の部
平成十九年度施工 市営本館住宅C棟
建設工事

貴社は卓越した技術と大いなる責任感をもって他の模範となる優秀な工事を完成させたのでこれを表彰します

平成二十年九月十九日

花巻市長 大石満雄

受賞年：平成20年9月19日
表彰者：花巻市
表彰名：市営本館住宅Ｃ棟建設工事


表彰状

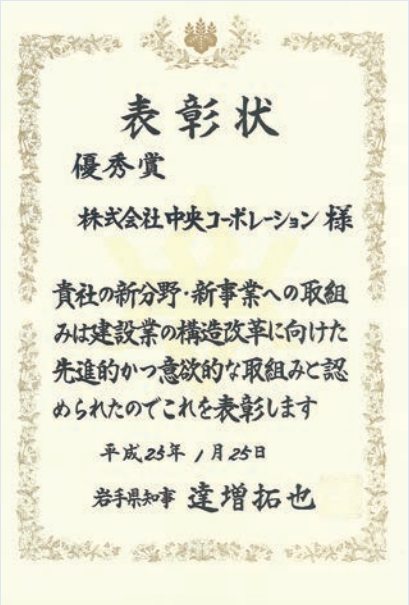
株式会社中央コーポレーション 殿

貴社は平成二十三年度の各種工事の施工において社員が一丸となり無事故で工事を完成させましたこの功績を認めここに工事管理者表彰の記念品を贈り表彰します

平成二十四年六月十五日

東日本旅客鉄道株式会社盛岡支社
設備部長 村上卓男

受賞年：平成24年6月15日
表彰者：東日本旅客鉄道株式会社 盛岡支社
表彰名：工事管理者表彰



表彰状

優秀賞

株式会社中央コーポレーション 様

貴社の新分野・新事業への取組みは建設業の構造改革に向けた先進的かつ意欲的な取組みと認められたのでこれを表彰します

平成25年1月25日

岩手県知事 達増拓也

受賞年：平成25年1月25日
表彰者：岩手県知事
表彰名：新分野・新事業表彰「省工程厚塗り対応型金属溶射工法」

表彰状

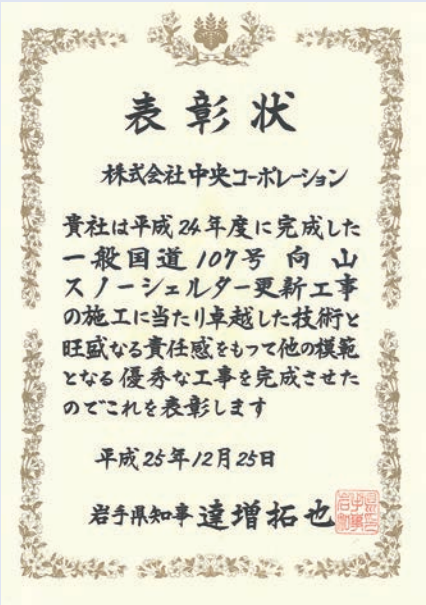
産業振興部門
株式会社伊藤組・株式会社中央コーポレーション・有限会社滝田工務店特定建設共同企業体 様

貴共同企業体は卓越した技術をもって他の模範となる総合体育館増築工事の施工に尽力し花巻市の活力あるまちづくりの基盤となる社会資本整備の推進に寄与されました よってその功績をたたえここに表彰いたします

平成二十五年二月二十日

花巻市長 大石 満雄

受賞年：平成25年2月20日
表彰者：花巻市
表彰名：総合体育館増築工事



表彰状

株式会社中央コーポレーション

貴社は平成24年度に完成した一般国道107号 向山スノーシェルター更新工事の施工に当たり卓越した技術と旺盛なる責任感をもって他の模範となる優秀な工事を完成させたのでこれを表彰します

平成25年12月25日

岩手県知事 達増拓也

受賞年：平成25年12月25日
表彰者：岩手県知事
表彰名：一般国道107号向山スノーシェルター更新工事　優良県営建設工事表彰

表彰状

(株)中央コーポレーション 殿

北上川上流機械設備修繕工事

貴社は頭書工事の施工にあたり卓越した技術力と施工管理をもって工事の完成に尽力され他の模範となる優秀な成果をおさめ国土交通事業に貢献されました よってここに表彰します

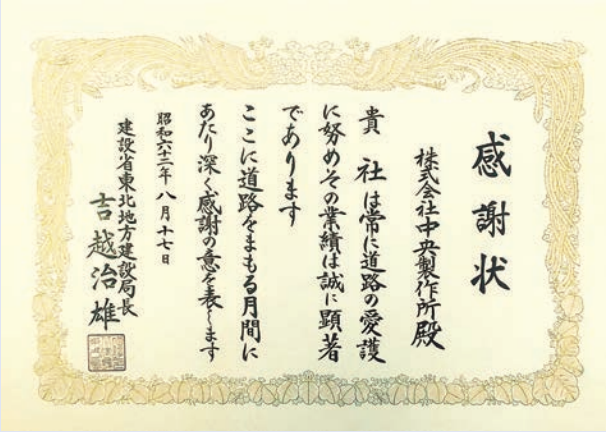
平成二十六年七月二十八日

東北地方整備局

岩手河川国道事務所長 村井禎美

受賞年：平成26年7月28日
表彰者：東北地方整備局 岩手河川国道事務所
表彰名：北上川上流機械設備修繕工事 優良工事表彰

〈2〉感謝状（会社）


感謝状

株式会社中央製作所殿

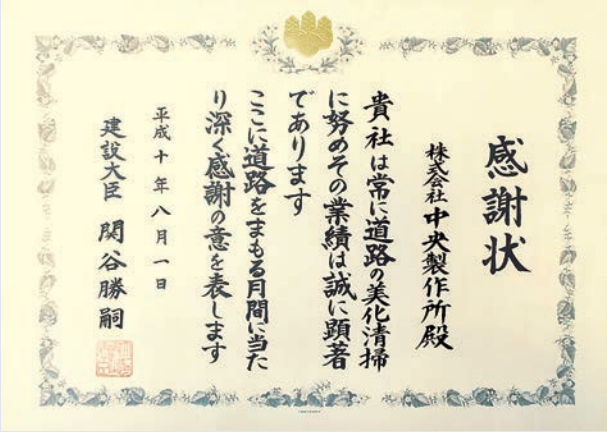
貴社は常に道路の愛護に努めその業績は誠に顕著であります

ここに道路をまもる月間にあたり深く感謝の意を表します

昭和六三年八月十七日

建設省東北地方建設局長 吉越治雄

受賞年：昭和62年8月17日
表彰者：建設省東北地方建設局
表彰名：道路をまもる月間


感謝状

株式会社中央製作所殿

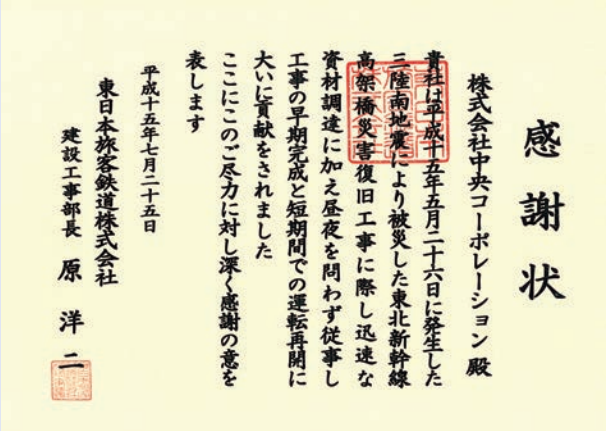
貴社は常に道路の美化清掃に努めその業績は誠に顕著であります

ここに道路をまもる月間に当たり深く感謝の意を表します

平成十年八月一日

建設大臣 関谷勝嗣

受賞年：平成10年8月1日
表彰者：建設大臣
表彰名：道路をまもる月間


感謝状

株式会社中央コーポレーション殿

貴社は平成十五年五月二十六日に発生した三陸南地震により被災した東北新幹線高架橋災害復旧工事に際し迅速な資材調達に加え昼夜を問わず従事し工事の早期完成と短期間での運転再開に大いに貢献をされました

ここにこのご尽力に対し深く感謝の意を表します

平成十五年七月二十五日

東日本旅客鉄道株式会社 建設工事部長 原 洋二

受賞年：平成15年7月25日
表彰者：東日本旅客鉄道株式会社
表彰名：三陸南地震　災害復旧作業

感謝状

株式会社中央コーポレーション殿

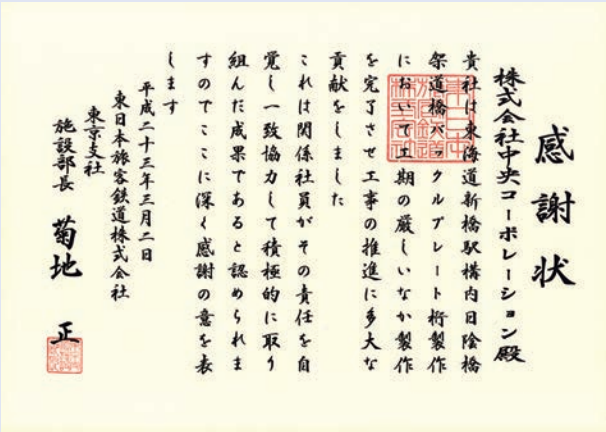
貴社は当社の橋梁及び橋梁関連製品の製作において日頃培われた技術と管理能力を遺憾なく発揮されたりわけ品質面並びに工期面で当社の業績と信用の向上に寄与されました

よってここに心より感謝の意を表します

平成二十一年四月一日

住友金属工業株式会社 土木橋梁部長 小山清一

受賞年：平成21年4月1日
表彰者：住友金属工業株式会社
表彰名：橋梁・橋梁関連製品の製作


感謝状

株式会社中央コーポレーション殿

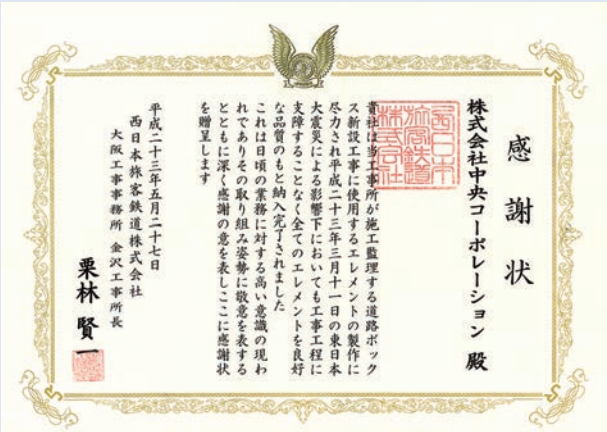
貴社は東海道新幹線駅構内日陰橋架道橋バックルプレート桁製作において工期の厳しいなか製作を完了させ工事の推進に多大な貢献をしました

これは関係社員がその責任を自覚し一致協力して積極的に取り組んだ成果であると認められますのでここに深く感謝の意を表します

平成二十三年三月二日

東日本旅客鉄道株式会社 東京支社 施設部長 菊地 正

受賞年：平成23年3月2日
表彰者：東日本旅客鉄道株式会社 東京支社
表彰名：バックルプレート桁製作


感謝状

株式会社中央コーポレーション殿

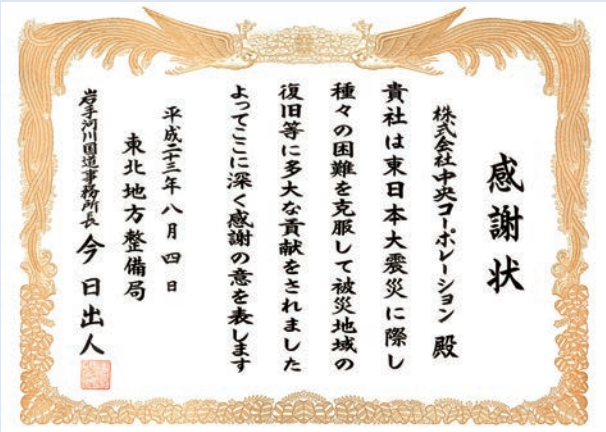
貴社は当工事所が施工監理する道路ボックス新設工事に使用するエレメントの製作に尽力され平成二十三年三月十一日の東日本大震災による影響下においても工事工程に支障することなく全てのエレメントを良好な品質のもと納入完了されました

これは日頃の業務に対する高い意識の現われでありその取り組み姿勢に敬意を表するとともに深く感謝の意を表しここに感謝状を贈呈します

平成二十三年五月二十七日

西日本旅客鉄道株式会社 大阪工事事務所 金沢工事所長 栗林賢一

受賞年：平成23年5月27日
表彰者：西日本旅客鉄道株式会社 大阪工事事務所
表彰名：エレメント製作



感謝状

株式会社中央コーポレーション 殿

貴社は東日本大震災に際し
種々の困難を克服して被災地域の
復旧等に多大な貢献をされました
よってここに深く感謝の意を表します

平成二十三年 八月 四日

東北地方整備局
岩手河川国道事務所長 今 日出人

受賞年：平成23年8月4日
表彰者：東北地方整備局 岩手河川国道事務所
表彰名：東日本大震災復旧工事

〈3〉表彰状（個人）

顕彰状

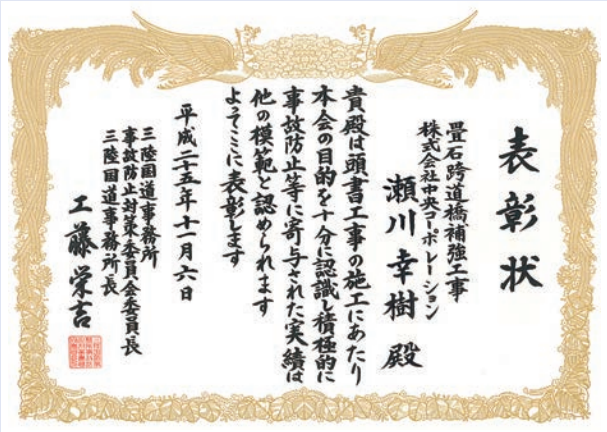
西塚 保 殿

あなたは常に建設事業の第一線に
あって業務に精励し技術・技能の
向上に努め他の模範であります
よって優秀施工者として顕彰し
永くその栄誉を称えます

平成十九年五月三十日

国土交通大臣 冬柴鐵三

受賞年：平成19年5月30日
表彰者：国土交通大臣
表彰名：優秀建設施工者（西塚保）



表彰状

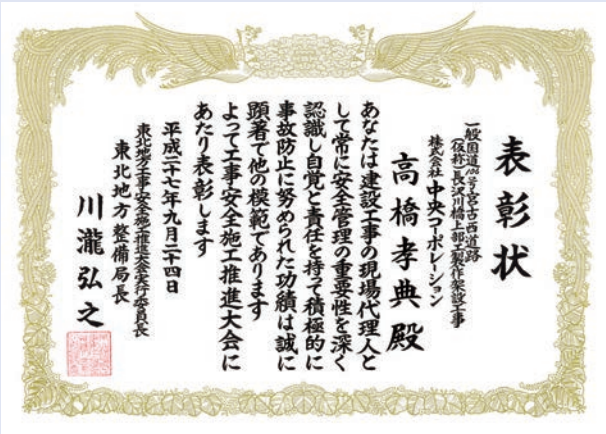
畳石跨道橋補強工事
株式会社中央コーポレーション
瀬川幸樹 殿

貴殿は頭書工事の施工にあたり
本会の目的を十分に認識し積極的に
事故防止等に寄与された実績は
他の模範と認められます
よってここに表彰します

平成二十五年十一月六日

三陸国道事務所
事故防止対策委員会委員長
三陸国道事務所長 工藤栄吉

受賞年：平成25年11月6日
表彰者：三陸国道事務所
表彰名：畳石跨道橋補強工事
現場代理人安全優秀工事表彰（瀬川幸樹）



表彰状

一般国道四号宮古西道路
(仮称)長沢川橋上部工製作架設工事
株式会社中央コーポレーション
高橋孝典 殿

あなたは建設工事の現場代理人と
して常に安全管理の重要性を深く
認識し自覚と責任を持って積極的に
事故防止に努められた功績は誠に
顕著で他の模範であります
よって工事安全施工推進大会に
あたり表彰します

平成二十七年九月二十四日

東北地方工事安全施工推進大会実行委員会委員長
東北地方整備局長 川瀧弘之

受賞年：平成27年9月24日
表彰者：国土交通省 東北地方整備局長
表彰名：長谷川橋上部工製作架設工事
SAFETY2015優良企業現場代理人表彰（高橋孝典）

〈4〉感謝状（個人）

感謝状

佐々木郁夫殿

貴殿は岩手県鉄構工業協同組合理事長副理事長及び理事として多年にわたり組合事業の推進と組合の育成強化に尽力し業界の健全な発展に寄与した功績は誠に顕著であります

よって役員退任慰労規程に基づき記念品を贈り深く感謝の意を表します

平成十三年五月十七日

岩手県鉄構工業協同組合
理事長 小山田周右

受賞年：平成13年5月17日
表彰者：岩手県鉄構工業協同組合
表彰名：組合事業の推進・育成強化に尽力し、業界の発展に寄与

〈5〉その他の表彰状・感謝状

表彰状（会社）

No.	受賞年	表彰者	表彰内容	受賞者名
1	平成13年10月16日	花巻市	第29回花巻市花いっぱいコンクール　事業所の部　優秀賞	株式会社 中央製作所
2	平成16年2月25日	社団法人「小さな親切」運動本部	「小さな親切」実行章	株式会社 中央コーポレーション
3	平成18年9月13日	花巻市	第1回花巻市花いっぱいコンクール　事業所の部　最優秀賞	株式会社 中央コーポレーション
4	平成20年9月19日	花巻市	第3回花巻市花いっぱいコンクール　一般の部　優良賞	株式会社 中央コーポレーション
5	平成22年3月31日	宮野目コミュニティ会議	地域環境美化に尽力	株式会社 中央コーポレーション
6	平成25年11月9日	花巻市交通安全対策協議会	花巻市交通安全コンクール「チャレンジ100」	株式会社 中央コーポレーション

感謝状（会社）

No.	受賞年	表彰者	表彰内容	受賞者名
1	平成21年2月25日	東日本旅客鉄道株式会社 盛岡支社	鬼柳架道橋の橋桁応急補修工事	株式会社 中央コーポレーション
2	平成23年5月18日	ユニオン建設株式会社	東日本大震災災害復旧工事	株式会社 中央コーポレーション
3	平成24年4月5日	ユニオン建設株式会社 盛岡支店	東日本大震災復旧工事（八戸線種市・久慈間）	株式会社 中央コーポレーション
4	平成24年6月28日	ユニオン建設株式会社	災害防止に努力	株式会社 中央コーポレーション
5	平成24年8月24日	国土交通省東北地方整備局 岩手河川国道事務所	道路ふれあい月間	株式会社 中央コーポレーション
6	平成25年7月5日	厚生労働大臣	献血の推進に積極的に協力	株式会社 中央コーポレーション

表彰状・感謝状（個人）

No.	受賞年	表彰者	表彰内容	受賞者名
1	平成6年5月25日	社団法人 全国鐵構工業連合会	事業推進に貢献し鉄構工業の健全な発展に寄与	佐々木 郁夫
2	平成7年3月17日	岩手県鉄構工業協同組合	事業推進と育成強化に尽力し、業界発展に寄与	岩手県鉄構工業協同組合 理事 佐々木 郁夫
3	平成7年5月25日	社団法人 岩手県建設業協会	地域社会の進展、建設業界並びに協会発展に貢献	中央建設工業株式会社 取締役社長 佐々木 郁夫
4	平成9年9月22日	岩手県中小企業団体中央会	組合制度の普及と育成強化に尽力（中小企業団体岩手県大会）	佐々木 郁夫
5	平成10年11月27日	社団法人 日本溶接協会	岩手県支部の役員として支部の運営と育成、溶接技術の普及向上に努め業界の発展に貢献（岩手県支部40周年記念）	佐々木 郁夫
6	平成16年6月7日	大末建設株式会社	安全衛生管理責任者として貢献	石森 裕浩
7	平成18年6月12日	岩手県知事	優秀建設施工者	西塚 保
8	平成24年9月26日	東日本旅客鉄道株式会社盛岡支社 北上新幹線保線技術センター	迅速な応急処置に努め新幹線の安全安定輸送に貢献（東北新幹線水沢江刺・北上間第二北上川橋梁修繕）	菅原 泰弘
9	平成25年5月13日	第53回岩手県溶接技術競技会	第53回岩手県溶接技術競技会選抜大会 半自動溶接の部　最優秀賞	菊池 淳哉
10	平成25年5月13日	岩手県議会	第53回岩手県溶接技術競技会選抜大会 半自動溶接の部　最優秀賞	菊池 淳哉
11	平成25年7月1日	ユニオン建設株式会社	卓越した技術と豊富な知識経験をもって職務に精励し発展に貢献	菅原 泰弘
12	平成25年11月11日	清水建設株式会社	太平洋セメント㈱大船渡工場震災復旧工事　優秀職長賞	多田 重徳
13	平成26年2月14日	一般社団法人 岩手県建設業協会 花巻支部	優秀技術者	高橋 忍
14	平成26年5月27日	第54回岩手県溶接技術競技会	第54回岩手県溶接技術競技会選抜大会 半自動溶接の部　優秀賞	藤原 裕城
15	平成26年6月20日	一般社団法人　岩手県建設業協会	優良県営建設工事担当技術者	高橋 忍
16	平成26年7月22日	東北地方整備局 岩手河川国道事務所	安全標語　優秀作品 「うまくやるより確実に　早くやるより安全に ゆとりを持って安全作業」	市村 健一
17	平成27年5月26日	仙建工業株式会社 盛岡支店	土木工事施工に際し安全及び上質な施工品質の確保に取組み優秀な成果を収めた	江刺 秀樹
18	平成27年5月29日	第55回岩手県溶接技術競技会	第55回岩手県溶接技術競技会選抜大会 アーク溶接の部　最優秀賞	佐々木 国彦
19	平成27年5月29日	岩手県知事	第55回岩手県溶接技術競技会選抜大会 アーク溶接の部　最優秀賞	佐々木 国彦
20	平成27年7月2日	ユニオン建設株式会社	卓越した技術と豊富な知識経験をもって職務に精励し発展に貢献	照井 斉
21	平成27年8月1日	岩手県立花巻北高等学校	国際交流事業推進に寄与	株式会社 中央コーポレーション 代表取締役社長 佐々木 史昭

11. 役員

取締役 総務部長
藤原 正克

代表取締役
佐々木 史昭

常務取締役
菅原 博

取締役 技術・工事部長
新銀 武

取締役 製造部長
伊藤 誠

12. 集合写真

全体写真

13. 部署写真

製造部

製造一課

製造二課

生産管理課／荷役・仕上課

工事部

工務課／品質管理課

技術部

建築部

営業部

東北営業所

総務部

企画管理室

14. 社内安全ポスター＆標語コンテスト

平成16年度

平成17年度

平成18年度

平成19年度

雫石町　長山　菜の花畑　平成21年5月21日

撮影者　佐々木　重信

平成21年度

平成22年度

平成23年度

平成24年度

平成25年度

平成26年度

平成27年度

平成27年度

15. 社内ゴルフコンペ結果一覧

回	年　月　日	会　　場	氏　　名	所　　属
1	平成8年7月13日	北上市民ゴルフ場	八重樫　瑞子①	社員
2	平成8年10月26日	北上市民ゴルフ場	畠山　由二①	スチールワークス畠山
3	平成9年6月7日	花巻広域県民ゴルフ場	菅原　博①	社員
4	平成9年9月23日	岩手ゴルフ倶楽部新山ゴルフ場	佐々木　史昭	社長
5	平成10年6月27日	江刺カントリー倶楽部	菅原　秋男①	菅原塗装
6	平成10年10月24日	盛岡南ゴルフ倶楽部	八重樫　瑞子②	社員
7	平成11年4月24日	北上カントリークラブ	高橋　伸利	第一開明
8	平成11年10月24日	金ヶ崎ゴルフコース	青木　彰人	社員
9	平成12年6月4日	栗駒ゴルフ倶楽部	多田　安雄	齊藤運輸
10	平成12年10月21日	盛岡ハイランドカントリークラブ	菅原　秋男②	菅原塗装
11	平成13年6月23日	江刺カントリー倶楽部	照井　則夫	照井塗装
12	平成13年9月24日	湯田高原カントリー倶楽部	八重樫　瑞子③	社員
13	平成14年4月13日	栗駒ゴルフ倶楽部	西塚　保①	社員
14	平成14年10月26日	岩手ゴルフ倶楽部新山コース	西塚　保②	社員
15	平成15年6月7日	みちのく古都カントリークラブ	菊池　晃①	第一開明
16	平成15年9月27日	盛岡カントリークラブ	門松　誠	日本電炉
17	平成16年5月22日	南岩手カントリークラブ	大谷　孝	日本電炉
18	平成16年10月31日	盛岡南ゴルフ倶楽部	藤原　正克	社員
19	平成17年6月4日	金ヶ崎ゴルフコース	八重樫　瑞子④	社員
20	平成17年10月22日	岩手ゴルフ倶楽部新山コース	菅原　秋男③	菅原塗装
21	平成18年6月24日	雫石ゴルフ場	小国　嘉之	住友金属工業
22	平成18年10月28日	岩手沼宮内カントリークラブ	今井　健雄	住友金属工業
23	平成19年6月23日	栗駒ゴルフ倶楽部	福田　大介	岩手銀行鍛治町支店
24	平成19年9月24日	盛岡ハイランドカントリークラブ	菅原　秋男④	菅原塗装
25	平成20年6月14日	金ヶ崎ゴルフコース	菅原　秋男⑤	菅原塗装
26	平成20年10月18日	盛岡南ゴルフ倶楽部	菊池　晃②	第一開明
27	平成21年6月6日	栗駒ゴルフ倶楽部	隅山　智之	住金物産
28	平成21年10月18日	盛岡南ゴルフ倶楽部	多田　安雄	齊藤運輸
29	平成22年5月30日	盛岡南ゴルフ倶楽部	小原　忠美	オーピーエス
30	平成22年10月23日	盛岡ハイランドカントリークラブ	斉藤　弘	社員
31	平成23年6月11日	盛岡ハイランドカントリークラブ	岡本　英臣	住友金属工業
32	平成23年10月22日	金ヶ崎ゴルフコース	今野　貴史	デンロコーポレーション
33	平成24年6月9日	江刺カントリー倶楽部	寺嶋　孝子	社員
34	平成24年10月20日	金ヶ崎ゴルフコース	近藤　定人	トーセン
35	平成25年5月25日	盛岡南ゴルフ倶楽部	川越　憲彰	豊国エンジニアリング
36	平成25年10月26日	雫石ゴルフ場からまつコース	丸橋　敏明	デンロコーポレーション
37	平成26年5月31日	盛岡南ゴルフ倶楽部	菅原　博②	常務
38	平成26年10月25日	北上カントリークラブ	鎌田　国利	デンロコーポレーション
39	平成27年6月20日	盛岡南ゴルフ倶楽部	高木　緑郎	顧問
40				

編集後記

数多くの方のご協力を頂戴し、無事株式会社中央コーポレーション創立 50 周年記念誌を制作することが出来ましたことに心から御礼を申し上げます。

特に、第 2 章から第 5 章につきましては、取材及び口述筆記を高橋寛様にお引き受け頂き、当時の関係者みなさまに快く取材に応じて頂きましたことで、より一層興味深く、楽しく読みやすいものになりました。高橋寛様は当社創業者高橋吉助の次女で、元会長佐々木郁夫夫人礼子様とは、岩手県立花巻北高及び岩手大学教育学部時代からの同級生というご縁であります。重ねて御礼を申し上げます。大変ありがとうございました。

記述には、十分な労力と注意を払って発行したところではありますが、なお不十分な点、礼儀を失している点、お気づきの点等あろうかと存じます。それらに尽きましてはどうぞご遠慮なく、弊社総務部までご連絡を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

2015 年 11 月 3 日火曜日には、ホテル・グランシェール花巻にて 50 周年記念祝賀会を開催する予定にしております。当日ご参加頂くみなさまには本記念誌を配布させて頂きますので、ここに祝賀会の予定の一端を掲載し、記録に留めさせて頂きたいと存じます。

1. 参加予定者数　280 名（予定）／ 28 テーブル× 10 名

2. 総合司会　・フリーアナウンサー　味　園　史　湖　様

3. ご祝辞
   - ・花巻市長　上　田　東　一　様
   - ・岩手銀行　代表取締役頭取　田　口　幸　雄　様
   - ・東日本旅客鉄道株式会社　執行役員　構造技術センター所長　野　澤　伸一郎　様
   - ・株式会社横河住金ブリッジ　代表取締役社長　小　山　清　一　様

4. 功労者表彰者
   - ・元株式会社中央製作所　常務取締役　岩　崎　安　男　様
   - ・元中央建設工業株式会社　常務取締役　高　橋　善　美　様
   - ・元株式会社中央製作所　製造部部長　阿　部　正　夫　様
   - ・同　工事課長　伊　藤　銑　一　様
   - ・同　製造課長代理　伊　藤　昌　六　様
   - ・同　営業部課長　畠　山　由　二　様

5. 催し物
   - ・早池峰岳流石鳩岡神楽（弊社製造部製造課係長菊池利隆君出演）
     演目「笹割りの舞」

6. 記念品

少しでも当社の経営理念「地域社会に貢献」できるものとして下記のものを選びました。

□るんびにい美術館（花巻にある社会福祉法人光林会）
障がい者デザイナー小林覚氏デザインのトートバッグ
同　下田賢宗氏デザインのタンブラーとコースターのセット
／トータルアートディレクター板垣崇志氏

□賢治最中本舗＆「パティスリー・アンジュ」／合資会社末廣
シェフ・パティシエ 高橋隆悦氏セレクトによる菓子詰め合わせ
（隆悦氏の祖父、末廣社長高橋慧氏の父、創業者高橋泰助氏が
弊社創業者高橋吉助の末弟にあたります）

□花巻市の姉妹都市ホット・スプリングスから日本酒づくりを学ぶため、
岩手県二戸市の㈱南部美人でインターンシップ中、２年目となる
ベン・ベル氏作の特別純米酒（4 合瓶）

最後に、納期が厳しいなかで、執筆、編集、印刷に多大なご尽力を頂きました株式会社菊忠印刷 菊池忠彦社長様を初めとするスタッフの皆様に心から感謝を申し上げます。

株式会社中央コーポレーション
創立50周年記念誌編集委員会

委員長　佐々木　史　昭（社員）
副委員長　菅　原　　博（社員）
委員　藤　原　正　克（社員）
伊　藤　　誠（社員）
猪　狩　達　夫（社員）
三　浦　正　人（社員）
菊　池　友　美（社員）
及　川　智　子（社員）

協力

戸　来　　諭 様（元花巻市助役）
菊　池　　章 様（元花巻地区鉄構工業会会長）
伊　藤　進　康 様（元花巻鉄工所近隣にお住まい）
伊　藤　　進 様（元花巻鉄工所社員）
及　川　　健 様（元花巻鉄工所社員）
佐々木　邦　夫 様（元花巻鉄工所社員）
岩　崎　安　男 様（元中央製作所社員）
伊　藤　昌　六 様（元中央製作所社員）
滝　田　矢　子 様（元中央製作所社員）
伊　藤　銑　一 様（元中央製作所社員）
畠　山　由　二 様（元中央製作所社員）
阿　部　正　夫 様（元社員）
藤　井　千　三 様（元社員）
高　橋　安　英　（中央石油社員）
西　塚　　保　（社員）

（順不同）

監修

高　橋　　寛 様（佐々木礼子様の友人）
佐々木　礼　子 様（創業者の次女）

以上

株式会社中央コーポレーション
創立50周年記念誌

発行日／平成27年11月3日

発　行／株式会社中央コーポレーション
〒025-0003 岩手県花巻市東宮野目第11地割5番地
TEL 0198-26-3033　FAX 0198-26-3035

編　集／創立50周年記念誌編集委員会

印刷・製本／株式会社菊忠印刷
〒028-0115 岩手県花巻市東和町安俵10区445番地
TEL 0198-42-2511　FAX 0198-42-2378

CHUOH
CORPORATION

50th ANNIVERSARY